

# 音楽運動療法の在宅普及方策に関する調査研究

平成 31 年 3 月

株式会社 ひつじ企画

## はじめに

音楽運動療法は、高齢者、障害者の精神面、身体面、社会面の諸問題に対処するうえで大きな効果を発揮している。このことは、それに従事する専門家や現にそのサービスを受けている利用者にとっては自明であるが、一般にはあまり知られていない。健康寿命の延伸が社会の要請となる中、誰もが、どこでも受けられるようにすれば大いに貢献できるのに誠に残念である。

我々は、こうした状況を変えるには、年々充実発展を続ける在宅福祉サービスと手を携えることが最も近道なのではないかと考え、医療経済研究・社会保険福祉協会からの委託を受けて2年間にわたり調査研究を行ってきた。実地調査や実証実験も含め検討を行った結果、音楽療法の視点を持った介護の技法を確立し、ホームヘルプに取り入れていただくことが最もよいと確信するに至った。本報告は、その検討内容をまとめるとともに、現行制度の下でもすぐにも取り組むことができる方策について考察している。

特別養護老人ホームの中には音楽療法士を置き体系的に音楽を用いているところが少なからずある。この調査研究でも特養における実証実験を行っている。また、初年度には、病院、特別養護老人ホーム、老人デイサービスセンターに対するアンケート調査も行った。これらも併せて報告する。

研究を進めるにあたっては実に多くの方々からご協力とご指導をいただいた。かないばら苑ロコモチャレンジ体操教室の小泉恵美氏、若返りリトミック講師の井畔理恵氏、若返りサロンエムズスマイルの船井真知子氏および船井巖雄氏、北区清水坂あじさい荘登録ヘルパーの箭内道子氏の各氏には、それぞれの素晴らしい実践について実地も含めて詳しい情報提供をいただいた。また、実証実験に参画いただいた北区および羽村市のサービス提供責任者、ホームヘルパーの皆さん、さらにはアンケート調査にお答えいただいた各施設の職員の皆さんには業務多忙ななかで貴重なお時間を割いていただいた。その他多くの方々からのお力添えをいただいてこの研究をまとめることができたものであり、この場を借りて心から御礼申し上げたい。

平成 31 年 3 月 31 日

研究会座長 川内 基裕

(一社) 日本市民スポーツ連盟会長

小金井リハビリテーション病院副院長

# 目 次

## はじめに

音楽運動療法の在宅普及方策に関する調査研究(ステップⅡ) 報告書	1
----------------------------------	---

## 本文

I 研究の目的	2
II 実証実験	2
III 考察と評価	4
(1)介護に音楽を用いることの効果・効用	5
(2)音楽の提供方法と媒体	6
(3)マイソングの特定	8
(4)業務の達成感	8
(5)指摘された問題点	9
IV 結論 音楽療法の視点を持った介護の確立を	9

実証実験関連資料	12
----------	----

### (資料1)特養介護スタッフ向け研修資料

社会福祉法人一廣会 かないばら苑 職員研修	13
-----------------------	----

### (資料2)ホームヘルパー向け研修資料

平成 30 年度北区サービス提供責任者の会主催ヘルパー研修	24
-------------------------------	----

(資料3)特養における実証実験結果一覧	37
---------------------	----

(資料4)ホームヘルプでの実証実験結果一覧	42
-----------------------	----

認知症ケアに音楽を活かす(特別養護老人ホームかないばら苑における実証実験)	55
---------------------------------------	----

まとめ	56
-----	----

実証実験結果一覧	59
----------	----

個別票	63
-----	----

インタビュー	88
--------	----

アンケート調査結果	90
-----------	----

委員名簿	122
------	-----

# 音楽運動療法の在宅普及方策に関する調査研究

## ステップⅡ 報告書

# 音楽運動療法の在宅普及方策に関する調査研究(ステップⅡ)報告書

## I 研究の目的

本研究の目的は、在宅の高齢者等に音楽運動療法を普及するための方策を探ることである。昨年度の調査により、特養及びデイサービス等通所型のサービスにおいては、意図的に音楽療法を行うところはまだ少数であるものの、少なくともカジュアルな音楽療法(注)はすでに定着していると言える状況になっていることが明らかになった。

しかし、在宅で行われている事例は極めて少なく、様々な課題が横たわっているものと推察された(在宅の末期患者や障害児・者に対して音楽療法士等が居宅に赴き音楽療法を行うことは一つの方法として確立している)。一方、ヒアリングを進めると、介護を円滑に行うために歌を歌いながら行うヘルパーが少なからずいることが明らかになった。

もとより、制度化されたホームヘルプは音楽療法そのものを目的とはしておらず、その担い手であるヘルパーも音楽療法に関する専門知識や技術を身に付けてはいないが、最も普及している在宅サービスであるホームヘルプにおいて音楽を介護に生かしている事例が存在することは、大きな可能性を示唆するものであった。

そこで今年度は、ホームヘルプを中心に一連の実証実験を行い、実際に介護に音楽を使ったうえで諸課題を明らかにし、今後の方向性を提案することとした。

## II 実証実験

ホームヘルプは音楽療法そのものを目的とはしておらず、実際に音楽を介護に取り入れている場合でもヘルパー自身の裁量で歌を歌うなどしていることがほとんどである。

このため、まず、どのような音楽を、介護のどの場面で、どのように提供したら無理なく組み入れることができるか、という技術的可能性を確認する必要がある。次いで、介護のそれぞれの場面で、音楽を取り入れるとどのような効果・効用があるのか、利用者と介護職員それぞれの観点から観察する必要がある。そして、これらを基礎的情報として、ホームヘルプに音楽療法を組み込んでいくための考え方、方策を検討していくことになる。

実証実験は、以下の手順で行った。

### ・実験実施者の研修

実証実験に入る前に、実験を実施する特養の介護職員及びホームヘルパー(サービス提供責任者を含む)を対象に、音楽療法の基本について研修を行った。

(資料1) 特養介護スタッフ向け研修資料

(資料2) ホームヘルパー向け研修資料

- ・使用する音楽

音楽療法では様々な音楽が用いられるが、今回は、利用者の好みの歌（マイソング）を用いることが最も簡便で効果が高いと考え、これを中心に据えた。器楽等も利用者からの求めがあった場合など、状況に応じて用いることとした。以下では、器楽等も含めてマイソングと呼んでいる。なお、限られた状況で運動を一律に組入れることは難しいので一旦外し、可能な状況でのみ行うこととした。

- ・特養での検証

マイソングを用いるには、利用者から好みの歌を聞き出すなど、マイソングを把握しなければならない。そのうえで、介護のどの場面で、どのように提供すると、利用者にもどのような変化が見られるのかを観察することができる。これらを検討するために、状況をコントロールしやすい特養において実証実験を行った。

特養では、利用者の生活状況を日常的に観察しているため、対象となる利用者の抽出、マイソングの把握は容易にできた。次いで、マイソングを用いて一定期間（原則として連続した10回）介護を行うと、認知症に伴う問題行動（入浴拒否・排泄拒否・暴言など）が減少して、スムーズな介助ができることが確認された。また、介護職員にとっても、利用者の反応があり達成感を得られるなど、想像以上の効果があることが分った。

（資料3）特養における実証実験結果一覧

- ・ホームヘルプでの実証実験（第一段階）

ホームヘルプでは特養ほど状況をコントロールできないため、特養と同レベルの精度は期待できないが、統一したチェックリストに基づいた実証実験を行った。利用者から好みの歌や音楽を聞き出し、それを介護のどの場面で用いると、利用者にもどのような変化が見られたのか、基礎的な情報を集めた（原則として連続した4回の訪問）。

音楽に興味のありそうな利用者の中から対象者を抽出したため、マイソングの把握は比較的容易にできた。反応にも、入浴時にヘルパーがマイソングを歌うと会話が弾み声かけにスムーズに応じて貰えるようになった、身体の拘縮の強い利用者の排泄介助中に歌を歌うと拘縮が緩和した、などが確認された。ヘルパーの達成感についても特養と同様であった。ただし、歌を歌いながら介護を行える場としては入浴にやや偏っていた。

こうした中で、スマホを使って利用者の聴きたい曲を検索し、その場でダウンロードして提供したという事例があり、可能性の拡がり期待された。

- ・ホームヘルプでの実証実験（第二段階）

スマホを使うとどのようなことが可能になるのかをさらに検討するため、追加して実証実験を行った。

音声検索機能がある音楽アプリ（ユーチューブ）を用いたところ、利用者との会話をしながらマイソングを聞きだし、その場で音楽をダウンロードして確認、提供できる、同

時に映像を見たり器楽でも対応できるなど使い勝手がよかった。また、マイソングは想像以上に多様で、これまでの音楽療法で用いられてきた曲の範囲を大幅に超えていた。そして、利用者が音楽を楽しんだことは確かだが、介護との結びつきについては、事例数が少ないこともあって一概に判断できなかった。

・ホームヘルプでの実証実験(音楽を取り入れた介護の局面と利用者の変化)

第一段階と第二段階を合わせて、15の事例を得た。

音楽を取り入れた介護の場面で最も多かったのは入浴関連で6事例あった。このうち5事例[1,2,3,4,6]は入浴中で、入浴介助に合わせてヘルパーが歌を歌ったが、すべての事例(うち4事例[1,2,3,4]は認知症)で、利用者も自発的ないしヘルパーに促されて、ヘルパーに合わせて歌を口ずさんだ。また、会話がスムーズになるなど、対人行動が好転した。総じてケアの拒否が減る、声かけにスムーズに応じて貰えるようになったなど介護の負担が減少した。

入浴関連で残る1事例[9⇒12]は入浴後の着替え・薬の塗布時にスマホを活用してマイソングを提供している。利用者は関節リュウマチ症・要介護2で、音楽を聴くと痛みを忘れるという。

身体に痛みが強いもう1つのケースとして、事例[10]では、利用者は肺がん末期で、痛みが強いと気を紛らわすためにヘルパーに歌を求めた。調子が良ければ自分も歌った。また、身体の拘縮の強い利用者の事例[11]では、排泄時に一層拘縮が強くなるため、介助中にヘルパーが歌を歌うことで拘縮を和らげることができた。

さらに、利用者と共に調理を行う前に、ウォーミングアップを兼ねて、マイソングと手の運動を組み合わせた事例が1つある[5]。

ベッドからの起床、移動、排泄、食事といった多くの場面でCDをかけた事例[8]では、笑顔が見られた、会話がスムーズになったほか、食事も完食した。

スマホを使ったケースは5事例であるが、関節リュウマチ症の痛みの緩和につながった事例[12=9]のほかは[13,14,15,16]、スマホの使い勝手を確認することに重点を置いたため、BGMとしての利用が中心であった。

なお、歌を歌おうと誘ったものの断られた事例[7]は、カラオケが好きな利用者の参加を求めたもので、拒否事例には当たらない。

(資料4) ホームヘルプでの実証実験結果一覧

### Ⅲ 考察と評価

実証実験を踏まえ、どのような音楽を、介護のどの場面で、どのように提供したら、どのような効果・効用があるのか、について考察する。実験の規模は小さなものであったが、実験結果は、音楽が介護の質を高めことを確認するに足るものであった。

## (1) 介護に音楽を用いることの効果・効用

実証実験から確認された音楽の効果・効用は、便宜的に7つにまとめられる。このうち、前半の4つは、音楽本来の働きが自然に発揮されたことによるものと考えられるのに対し、後半の3つは、音楽を介護に意図的に用いることで介護の内容を充実・改善し、あるいは改善し得ると考えられるものである。前半の4つは以下の通りである。

### ・楽しみとして

実証実験では、いずれの利用者にも、音楽は大変楽しいものとして受け入れられた。もともと音楽が好きな人も多く、懐かしい曲を久しぶりに歌ったり聴いたりすることを大変喜んでくれた。回数を重ねるにつれ、新しい曲をリクエストする人もいた。

また、認知症の人も含め利用者の多くは、ただ聴くだけでなく、ヘルパーの歌に合わせて自分も歌ったり口ずさんだりした。ヘルパーに歌を教えてくれる人もいた。このような積極的行為を引き出す音楽の力は偉大である。

### ・コミュニケーション・ツールとして

ほとんどの事例で、音楽がきっかけとなって会話が弾み、ヘルパーとのコミュニケーションが進んだ。認知症の人、普段口数の少ない人の発話も促された。音楽の話題をきっかけとして、日常生活のこと、過去の体験等、それまで知られていなかった利用者の一面についての話が聞けるようになった。その結果、利用者とのコミュニケーションが円滑になり、ヘルパーの利用者理解が深まるだけでなく、利用者のヘルパーに対する信頼強化にもつながるものと考えられる。

### ・覚醒や心を落ち着かせる働きとして（感情のコントロール）

音楽には、意識を覚醒したり、反対に感情を鎮静化する作用がある。意識が覚醒すると、思考や会話はもちろん、動作もしやすくなる。また、感情が昂ぶっている時や不安を感じる時に音楽を聴いて貰うと、心が落ち着き行動が穏やかになった。着替えや食事の際のBGMとして、ゆったりとした気分を味わって貰うこともできた。

### ・行動を誘発し整える働きとして（動作のコントロール）

介助とともに歌を歌うと、歌に合わせて立ち上がったたり、ある状態から別の状態にスムーズに移れた事例が多数あった。移動途中で疲れた利用者の励ましになり、目的地に到達できた事例もある。

以上4つの効果・効用は、音楽本来の働きとしてどのような場面でも見られるものであり、介護の現場においても、音楽を意図的に使用することでこれらの働きがうまく発揮され、より良い介護ができるようになると考えられる。内容に着目して、3つに分類される。



#### ・介護の技法として

実証実験から確認された効果・効用のうちで最も注目すべきは、音楽を上手に使うことで技法としての介護のレベルが向上することである。

介護は、利用者の理解から始まる。このため、音楽のコミュニケーション・ツールとしての機能は大変有効である。ヘルパーの利用者理解が深まれば、よりの確な介護ができ、利用者の信頼を勝ち得てさらにより介護ができる好循環をつくりだすことができる。

また、音楽を使用すると、認知症に伴う行動・心理症状（入浴拒否・排泄拒否・暴言など）が減少し、スムーズな介助ができる。これは、限られた時間内で多くのメニューをこなさなければならないホームヘルプに特に大きな効用をもたらす。利用者にとってのサービス向上にとどまらず、ヘルパーの負担軽減と達成感の獲得、さらに事業者サイドの視点からの検討も行われるべきである。

音楽の持つ心を落ち着かせる働きは、使用する場面の選択が正しければ、どのような利用者にとっても有益であると考えられる。たとえば、食事の際に映画音楽等をBGMとして用いると食事が進むのはこのためと考えられる。ただし、音楽に気を取られて食事の時間が足りなくなるという指摘もあり、さらに多くの事例を積み重ねる必要がある。

#### ・心理的サポートとして

音楽を聴くと心が落ち着き精神的安定が得られる、美的体験の回想を誘発し充足感、幸福感が得られるなど、音楽が持っている働きを上手に使えば、心のケアには至らないものの、様々な場面で利用者を心理的にサポートすることができる。リュウマチ症などの苦痛が和らぐのも、心理的なサポートの側面が強いものと思われる。

#### ・介護予防の一環として

音楽と運動を組み合わせ、身体機能の保持・増進、認知症の進行防止を図ろうとする活動は、広く社会に浸透している。ホームヘルプにおいて、音楽を利用した介護予防を行うことは十分可能であり、実証実験でも、歌に合わせて手の体操をしたことが報告されている。ただし、限られた時間の中で介護予防を十全に行おうとすることは現実的でなく、デイサービスの利用など様々な取り組みの一環に位置付けるべきであろう。

### (2) 音楽の提供方法と媒体

利用者の好みの歌（マイソング）をヘルパーが歌うことを基本としたところ、スムーズに受け容れられただけでなく、これを楽しみに感じ、ヘルパーと一緒に歌ったり口ずさんだりした利用者が多かったことから見て、非常に有効な方法と評価することができる。

ただし、介護のどの場面でマイソングを用いるかという点ではやや偏りがあり、事例も不足している。また、実験に参加してくれたヘルパーはすでに介護に音楽を取り入れているか音楽に関心のある人たちで、その意味でヘルパー全体を必ずしも代表していない。さらに、スマホの導入は実験途中であったため、介護との結びつきが必ずしも十分でない。

- ・マイソングは非常に有効

音楽の中では歌が最もなじみやすく、誰しも好きな歌、聴いたことのある歌が2, 3曲はあるものである。それを目の前にいるヘルパーが歌ってくれることが良い。また、よく知っている歌であれば、自然に歌い、口ずさみたくなる。こうした、広い意味での利用者の参加が得やすいことは、介護そのものの行いやすさにも通ずると考えられる。

- ・ホームヘルプでは、器楽よりも歌の方がうまく使える

ヘルパー一人で介護を行うホームヘルプでは、歌を歌う方法が、機材を必要とせず、介護をしながらでも行える点で、断然優れている。また、双方向性が確保され、利用者や周囲の状況に応じて臨機応変に対応できる。個別ケアを旨とするホームヘルプにふさわしい方法といえる。

- ・ヘルパーには歌のスキルが求められる

マイソングを歌い介護に生かすには、ヘルパーに歌のスキルが必要となる。まず、歌を歌える必要がある、また、マイソングとなる歌を知っていないと歌えない。世代の差もあり、利用者の好きな歌をヘルパーが知らないことも多い。さらに、日常業務として行うには、ヘルパー自身が歌うことが好きでないといけないであろう。

歌のスキルには天性のものもあるが訓練でかなりな程度高めることができる。高齢者が好む歌は学習することができる。歌うスキルが向上すれば歌が好きな関係にもある。いずれも解決できないことではない。

- ・スマホは問題のいくつかを解決してくれる

スマホを用いれば、利用者からマイソングを聞きだし、その場でダウンロードして聴いて貰える。ヘルパーが歌を知らなくとも、歌えなくともマイソングを用いることができる。また、利用者の好みの音楽が器楽であっても全く同じに対応できる。

- ・CDは操作性に課題が残る

操作性はスマホより劣るが、CDも有効な媒体であることが確認された。特に、マイソングへの選好度の高い利用者には、毎回同じCDを用いてもよい、あるいは同じCDを用いたほうがよい可能性がある。また、特養では、ブルートゥースを用いたケースがあった。

- ・補助手段としてスマホを用いる

対象者に音楽に合わせて貰おうとするのではなく、対象者の動きに合わせて音楽が付いていくように提供できると効果が高いことが知られている。それには生身の人間が聴き手の様子を感じながら進めることが一番で、スマホで完全に代替することはできない。しかし、人間の補完としてスマホを用いれば、可能性が格段に拡がると考えられる。

今回の実証実験では、スマホの技術的可能性は確認できたが、それを介護のどの場面で用いると効果が高いかを明らかにするには至らなかった。ヘルパーが歌う歌とスマホでダウンロードした歌とでどのような違いが出るのか、両者をどう使い分けあるいは組み合わせるとよいのか等も含め、検証していく必要がある。

#### ・ A I 活用の可能性

A I が人間の行為を代替し、双方向性を確保できる可能性が広がってきている。介護に音楽を取り入れるにあたって、A I の活用を視野に入れておくべきである。使用と同時に情報が集積されるため、標準化が進み、普及を加速することにもつながる。

現在でも、音声認識機能を持つペットロボットがあり、これをカスタマイズしパタカラ体操等も組み入れれば、音楽療法の新たな提供方法となると考えられる。

#### (3) マイソングの特定

利用者のマイソングを発見することは、介護に音楽を取り入れるための最初の一步として非常に重要になる。利用者本人や家族から聞き出すことが基本であるが、日常におけるなにげない会話、生活状況や調度品などから推測する等様々なアプローチが必要になる。これというマイソングがないという人でも、世代共通の歌なら聴いたことがあるので、その中から選んで貰う方法もある。

利用者からマイソングがノミネートされても、世代の違い等によりヘルパーの側がその曲を知らない場合がある。そのような時にスマホを使えば、利用者から聞き出したマイソングをすぐにダウンロードして確認できる。さらに、曲名が不明でも、他のキーワードで検索し候補曲を示すことができる。

スマホを使った実証実験からは、矢沢永吉や山口百恵、マイケル・ジャクソンなどもノミネートされ、利用者の好みが多様であることが分った。好みの曲が一曲とは限らず、同じ曲では飽きてしまうこともある。マイソングは幅広くとらえられるべきである。

#### (4) 業務の達成感

実証実験に携わった介護職員・ヘルパーの達成感は想像以上に高かった。その理由は、利用者の笑顔を見ることができた、利用者との会話ができ、利用者の理解が進んだ、介護拒否が減って緊張感・不安感が和らいだ等さまざまである。

利用者の抱える課題は、主たる疾患・障害、要介護度、性格等により個別性が高く、またケアする側の感性や感情とも密接に絡むため、性急な一般化は控えなければならないが、音楽を取り入れることで、業務の達成感が高まり、反対に業務の負担感が低下することは、仕事としての介護の価値・魅力を高める観点からも、音楽の活用を積極的に推進すべきことを示している。

#### (5)指摘された問題点

十分予想されたことであるが、限られた時間でのケアなので、ゆとりがないと難しいという指摘が最も多かった。また、行き過ぎを心配する声がいくつかあった。いずれにせよ、介護のどの場面で音楽を用いることが良いのかについて、標準的な方法が必要であることを示している。

さらに、制度上の制約に属する問題点が指摘された。現行制度ではホームヘルプには外部から物品を持ち込むことは認められていないため、CDを使えるのは自宅にCDとプレーヤーがある場合に限られる。また、スマホはハードも通信料も個人負担となってしまうため一般化できないという問題である。

#### IV 結論 音楽療法の視点を持った介護の確立を

実証実験では、音楽は楽しいものとして受け入れられ、音楽がきっかけとなって会話が弾み、ヘルパーとのコミュニケーションが進んだ。また、音楽が心を落ち着かせ、あるいは音楽に合わせた行動を促すなど、利用者の心身の状態をよい方向に変化させることが確認された。特養のみならず、ホームヘルプという限られた時間内のさらに一部の場面でもこのような効果が得られたことは、改めて音楽の力を示すものといえる。しかし、ホームヘルプで音楽療法そのものを行うことは、制度の趣旨、時間的・財政的制約、ヘルパーのスキル等からみて現実的でない。

このような中で、音楽の力を介護に的確に生かすには、音楽療法の視点を持った介護を、介護の技法の一つとして確立していくことではないかと考えられる。ここで、音楽療法の視点とは、利用者の心身の状態を改善する意図を持って音楽を系統的に使うことであり、それを介護と組み合わせて、より高度な介護の技法とすることを目指すのである。すでに見たとおり、その萌芽は実証実験でも確認されている。

一方、デイサービスでは、少なくともカジュアルな音楽療法は定着している状況にあり、ホームヘルプの利用者をデイサービスにいざなえばより密度の高い音楽療法を受けることができる。ホームヘルプとデイサービスの連携を円滑に進めるためにも、ヘルパーが音楽療法の視点を持った介護を行えることが望まれる。

この2つに戦略的に取り組めば、音楽療法の視点を持った介護の確立への道りは決して遠くない。現行制度にも使える仕組みがあるので、大いに活用すべきである。最後に、具体的に実行可能な方策をいくつか提案したい。

##### ・個別ケアを生かす

たとえば入浴ケアのときに歌を歌うというのは、最初はごく自然にちょっとやってみて、しかしやってみると効果が高いので続けているうちに自分の得意技になってしまったのではなからうか。昨年行ったヒアリング調査では、歌の好きなヘルパーが調理中に歌を歌ったところ、離れたところにいる利用者にヘルパーの所在を知らせて安心感を与

えることがわかったという報告もあった。

このようなことが可能なのは、ホームヘルプが個別ケアを旨としており、ケアの方法に関しては、利用者の状況とともにヘルパーによる裁量の幅が大きいからである。反面、そうした個別性のために、マイソングを歌い介護に生かすという技法が、効果が高いにもかかわらず他のヘルパーに伝達しにくいとも言えそうである。

そこで、まず必要となるのは、先駆者が有用性を自覚して他のヘルパーに技法を伝えていくことである。そして、技法が伝われば次々と普及していくのではなかろうか。自然発生的に生まれた技法を音楽療法の視点を持った介護として体系化することは、こうしたプロセスに大いに貢献する。

#### ・事業者による現任研修に組み込む

「指定居宅サービス等の事業の人員、運営の基準に関する条例」により、事業者には、ヘルパーの現任研修を少なくとも年1回、行うことが義務付けられている。この仕組みはすっかり定着し、一部ではテーマに事欠く状況にもなっているようである。そこで、この研修のテーマに音楽療法の視点を持った介護を取り入れて貰う方法がある。

実際、実証実験を行うに際して東京都北区で実施した研修は、ヘルパーの現任研修の位置づけを受け、多くのヘルパーおよびサービス提供責任者の参加を得た。実証実験に参加してくれたヘルパーはその中の一部であったが、介護に音楽を取り入れるという発想と知識は参加者に共有されたのであった。

こうした取組を一般化するには、音楽療法の視点を持った介護に焦点を当てた標準的な研修プログラムを作成する必要がある。

#### ・生活機能向上訓練連携加算を活用する

生活機能向上訓練連携加算を上手に活用すれば、ささやかではあるが、音楽療法の視点を持った介護に経済的評価を得ることができる。特に、デイサービスとの連携が評価されるようになったので、利用者がより密度の高い音楽療法を受けられるようになるだけでなく、事業者にとってもメリットがある。

ヘルパーの人材確保がますます厳しくなる中、ホームヘルプとデイサービスを連携させて在宅高齢者のニーズを受け止める必要性は増々高まるものと思われる。事業者にとっても、収益の確保、需要の分散、事業の多角化は必須である。こうした観点からも、生活機能向上訓練連携加算はよい方法となる。

ここに列記した方策は、いずれも新たな制度変更を必要としない。多くの実践者が、新しい介護に取り組むことを楽しみながら、音楽療法の視点を持った介護を普及していただけるものと確信している。

## (注) 音楽療法について

一般に、音楽療法は、「専門の技術と知識を持った者が、治療・リハビリテーション・発達支援などを目的として、音楽を系統的に用いて働きかける行為」とされている。これがフォーマルな音楽療法であるが、専門性、目的意識、系統的使用が十全でなくとも、様々なところで「音楽を心身の健康増進に役立てる行為」が行われている。これは、カジュアルな音楽療法と呼ばれている。(二俣 泉「音楽療法をまなぶ 第2版」音楽療法研究会 2007) 定義上、音楽療法の視点を持った介護もカジュアルな音楽療法に属することになる。

また、音楽療法には、何らかの身体活動・運動を伴う場合が多い。特に、高齢者を対象にしたものには、運動や体操は必ず含まれている状況にある。このため、本研究の目的を在宅の高齢者等への音楽運動療法の普及方策としたところである。

研究を進めるにつれ、ホームヘルプにおいては、音楽療法の視点を持った介護の確立が最も近道であることが明らかになり、運動は必須条件ではなくなったが、運動を排除するものではない。

なお、以上から明らかなとおり、本研究で用いた音楽運動療法とは便宜上の用法であり、すでに音楽運動療法の名称の下に行われている実践とは別のことがらである。このことで混乱が生じるとしたら、その責めは当研究会にある。今後は、音楽療法の視点を持った介護に焦点を当てていきたい。

## 実証実験関連資料

(資料1)特養介護スタッフ向け研修資料

社会福祉法人一廣会 かないばら苑 職員研修



# 金井原苑 職員研修

## 日常のケアに音楽を使用する

日本音楽療法学会認定音楽療法士  
昭和音楽大学非常勤講師  
県内福祉施設非常勤音楽療法士

深野 広美

## 音楽療法とは

### 日本音楽療法学会

音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の軽減回復、機能の維持改善、生活の質の向上、問題となる行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること

## 音楽の生理的機能（自立神経への影響）

刺激的で心身を活性化させる音楽や鎮静化を誘う音楽の研究は、  
血圧、呼吸、皮膚電流などの生理的指標の変化を測定してきた。その結果  
刺激的な音楽（行進曲やダンス音楽）

→交感神経を刺激する

鎮静的な音楽（子守歌）

→副交感神経に影響を与える

事が分かっている

注意すべき点は

音楽反応は個人差が大きく、気分や好み其時の気持ちの有り  
様によって影響する

## 音楽の心理的機能（音楽と記憶）

新しい音楽は記憶に残らなくても、青春時代に出会った音楽  
は忘れ去られることなく、むしろ強く記憶に残っている

♪その音楽を聴く

若い時代の出来事や情緒が再現される

音楽には**回想機能**がある

## 音楽の社会的機能

- ▶ 情緒的な表現：怒りを音楽で表現
- ▶ 「美」を楽しむ
- ▶ 娯楽
- ▶ 非言語のコミュニケーション
- ▶ 音楽は理性ではなく感情に直接働きかける

## 音楽療法の種類

- ▶ カジュアルな音楽療法  
音楽を心身の健康増進に役立てる  
→人間が自然に行っている
- ▶ フォーマルな音楽療法  
自分の力だけでは解決できない心身の健康が著しく損なわれている場合  
→専門的な工夫を凝らして音楽を使う

## フォーフォーマルな音楽療法

- ▶ 誰が：音楽療法士が
- ▶ 誰に：特定の対象に
- ▶ 何のため：健康に関するニーズを満たす。対象者の状態が良い方向へ変化する
- ▶ どんな風に：計画的、系統的に
- ▶ 何を用いる：音楽を用いる

\* 誰が？ 対人援助の専門家が対象者のために音楽を使うことは十分ありうる  
(今回の取り組みはまさしくこの部分にあたる)

\* どんな風に？

手順1：アセスメント 問題点、なぜ生じているのか、改善のためにどんな方法を取るべきかの見極め

手順2：実施と記録 経過をモニターする

手順3：評価 対象者に利益をもたらしたかを評価する

## 行動療法にもとづく音楽療法

行動主義心理学では「行動の変化」と「環境の変化」に着目する。人間の行動は「環境の変化」に応じて変化していく。

「環境の変化が起こるはずの行動」をしても環境変化が起こらない場合、その行動は一旦エスカレートする。それでも環境変化が起こらなければ、行動は減少し、最終的には生じなくなる。

行動変化の法則

- ▶ **強化**：行動の直後に良いことが起こると類似の状況下では同じ行動をとることが増える
- ▶ **弱化的**：行動の直後に嫌なことが起こると類似の状況下ではその行動をすることが減る

## 音楽を適応的な行動を学習を促進・補助する刺激とする

- ▶ 適切な行動を強化する刺激として用いる→要求する行動の獲得を支援するときに、好みの音楽や音を用い、要求の合図や言葉を出すことを学習する。（強化したのは音楽や音）
- ▶ 手がかり・枠組み→音楽（音）を決まった時、事柄で用い、行動を起こすための手がかり、活動の枠組みとして音楽を用いる。

## 高齢者への音楽療法

\*施設での音楽療法でよく取り入れられている方法

### 1. 集団音楽療法

・大集団 ・小集団

\*内容

集団歌唱：集団の一人一人それぞれ自分に合った参加度でその場に居られる

- ・感情をこめて歌う・大きな声で、あるいは小さな声で歌う
- ・自分では歌わないが他の人の歌声を聞く・歌っていないよう  
でいても呼吸を合わせている・手や足でリズムを刻んでいる
- ・終わった後に感想を言う

楽器活動：楽器を自由に鳴らす。決まったリズムで鳴らす。Th.と対面で鳴らす。

日常と異なる楽器を持ち、表現をする。

身体活動：音楽に合わせてたり歌いながら体操、あるいはダンスのように動く

## 高齢者への音楽療法

### 2. 個別音楽療法

- \* 内容 その対象者の必要に合わせた活動をする。  
(今回の取り組みはこれにあたる)
- \* 利点：集団と異なり、対象者の状況にすべてを合わせることができる。(選曲、テンポ、音程、途中での会話、中断、曲の変更 等)  
対象者の様子がよく分かる。聞き逃しが少なくなり、小さな表現も観察できる
- \* 注意点：対象者には逃げ場がなくなる。  
(集団では個人の表現は隠れることができる)

## ケアに役立てた実例

- ▶ **徘徊時の援助**→一緒に歌いながら歩き、歌い終わりで着席  
曲が流れている間は活動、終わると歩き始めるので、戻ってくる頃に次の曲を始めて活動した(促しや声掛けはしなかった)  
活動中は立ち上がり、離席、退室がほとんどない
- ▶ **発散**→怒りを太鼓演奏で表現した。その力強い演奏に他の参加者が称賛の言葉を発したのを理解し、笑顔になりその後の活動も参加した
- ▶ **昼夜逆転(覚醒)**→声掛けでなく音楽が呼びかけになって覚醒し、活動した
- ▶ **生活場面での活動**→楽器片付けを自発的に行う姿からその他の生活場面での活動が増えた(おしぼり配り等)
- ▶ **入眠できない時の援助**→歌うことで落ち着く
- ▶ **移動での援助**→居室から食堂への移動拒否、入浴拒否の利用者にそれぞれ音楽を活用した

## 今回の取り組みに関して

今回は認知症により、日常的にケア拒否がある方に対して、音楽を用いた対応でケアをスムーズにできるか？との取り組みです。

その対象者に対しての介護スタッフのケア拒否の感じ方を統一しておくとういと思っています。

介護者と対象者との相性、介護者が負担に感じる度合い、等、差異があるのは普通の事です。

ですから、ケア拒否のどの部分を評価するかを明確にし、客観的に測れるもので表す必要があります。

## 今回の実験の音楽の使い方

- ▶ 移動時に音楽が必要：歌いかけor音源を利用
- ▶ その場での対応：歌いかけor音源を利用
- ▶ 何の曲を使用するか？：出来るだけ問題点を克服しやすくなる音楽
  - ・ 好みが分かっている時にはその曲（おそらく経験があつて歌詞も覚えている。考えなくても歌うことができる。自然に歌うことができる、歌詞が歌えなくてもメロディが出てくる）
  - ・ 動作を誘発する曲（拍が分かりやすく、歌いやすい）
- ▶ 注意点
  - \* 移動時にははっきりとした提示（元気よく）
  - \* 落ち着きを取り戻すためには落ち着いた声や対応
  - \* 対象者の歌うことができる音程テンポに合わせる

## 観察視点

- ▶ 移動をスムーズにする
  - ・歌っているか？
  - ・集中しているか（どこを見ているか）？
  - ・介護者や音源の音楽は聞こえているか（音楽のテンポがあっているか）？
  - ・目的位置までの時間？
  - ・発語、発話
- ▶ 落ち着く
  - ・歌っているか？
  - ・立位か着席したか？
  - ・集中しているか？
  - ・集中時間（何曲歌ったか？ Or 何回歌ったか？）
  - ・発語、発話

## 記録の注意点

- ・その日の体調や精神状況は記載しておく和良好的です。（風邪、食欲不振、不眠等）
- ・対応時は自分なりの記録でもよいですが、決まった記録用紙に転記しましょう。そのことで、少しでも正確なデータとなり、比較することができます。
- ・そのためにも記録内容を共通理解する必要があります。
- ・日常のケアの合間でされることですから、できるだけ✓や数字で記載する方がよいと思います。
- ・特記すべき点があれば必ず次回の対応時までには次の対応職員さんに知らせる。例えば他の歌を歌ったなどです。



## ご清聴ありがとうございました

- ▶ 今回はテキストとして以下を参照しました
- ▶ 「音楽療法を知る」～その議論と技法～ 杏林書院
- ▶ 編著 宮本 啓子・二俣 泉

介護した人の名前 ( )							特記事項、発言、気持ち等を記入	
表情	直前							
	実施中							
	実施後							
ケアの拒否の程度	行動	拒否なし ← 1・2・3・4・5 → 拒否あり					発言:	
	拒否の言葉	有 ・ 無						
	拒否の言葉の回数	いつもより ⇒ 多い ・ 同じ ・ 少ない						
	声掛けから浴室まで	分 秒						
計測時間 *ストップウォッチ*	浴室から着替えるまで	分 秒						
	着替えてから浴槽に入るまで	分 秒						
	反応	歌う・リズムをとる・聴いている・反応なし						
職員の気持ち	今回の介護負担度	軽 ←	1	2	3	4	5 → 重	気持ち:
	今迄の介護負担度	軽 ←	1	2	3	4	5 → 重	気持ち:

(資料2)ホームヘルパー向け研修資料

平成30年度北区サービス提供責任者の会主催ヘルパー研修

介護×音楽療法研究プロジェクト 2018年10月11日

# 音楽療法の視点を ケアに取り入れる

日本音楽療法学会認定音楽療法士  
特定非営利活動法人ホームケアエキスパート協会非常勤音楽療法士  
丸山 ひろ子

## 音楽療法の歴史

- ❁ <古代>シャーマン
- ❁ <ギリシャ>ダビデのハープによるうつ病（ユダ王サウル）への癒し
- ❁ <中世>宗教音楽として神への祈りや交流
- ❁ <19世紀>心理学的効果に着目
- ❁ <20世紀以降>「補助的療法」として
  - ❁ （アメリカでは第2次世界大戦後の帰還兵、麻薬中毒患者、精神科患者へ）

## 日本における音楽療法の歴史

- ❁ バイオミュージック学会（主として音楽が生体に及ぼす影響を客観的に評価する研究）と
- ❁ 臨床音楽療法協会（主として、臨床現場での音楽療法の技を研究・研鑽及び普及活動）が合体して
- ❁ 1995年「全日本音楽療法連盟」設立。
- ❁ 音楽療法の啓発・普及活動と同時に、会員の資質向上を目指して活動を継続。

2001年4月1日「日本音楽療法学会」発足

- ❁ 全国に9つの支部を設け2018年現在約5,300名の会員

## 音楽療法士の資格について

- ❁ ・ 国家資格ではなく、学会や協会認定
- ❁ ・ 日本音楽療法学会では
- ❁ 認定音楽療法士 2017年度3000名越
- ❁

## 音楽療法とは

- ❁ 音楽の持つ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の軽減回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること

❁ 日本音楽療法学会

## 音楽の生理的な働き

- ❁ ・呼吸、脈拍の安定
- ❁ ・刺激的な音楽→交感神経を刺激
- ❁ ・鎮静的な音楽→副交感神経に影響
- ❁ ・心肺機能、免疫力を高める

## 音楽の心理的な働き

- 音楽は情動を揺り動かす
- 感情の誘発、高揚
- 様々な出来事と結びつく→  
(懐メロ、回想)
- 意欲や情緒の安定
- 痛みの軽減や死への不安緩和
- 美しい音楽体験

## 音楽の社会的な働き

- 言葉のないコミュニケーション
- 他者への意識
- 自己の役割意識の場面提供
- 集団活動（合奏や合唱など）では  
社会性の維持・回復

## 音楽療法の実際

### <形態>

- ・個人音楽療法と集団音楽療法
- ・能動的音楽療法と受動的音楽療法

### <内容>

- ・集団歌唱、歌いかけ、語りかけ、回想、  
楽器活動、身体活動他

### <用いる音楽>

- ・活性化、鎮静化する音楽
- ・個人的な好みや意味のある音楽(マイソング)
- ・即興演奏

## 高齢者の音楽療法における目的、関わり方 エリクソンの生涯発達理論に基づいて「人生の統合」

- ・リハビリなど医療補助
- ・癒し、心理的効果
- ・社会性の維持・回復
- ・ターミナル及びグリーフケア
- ・認知症の進行予防と諸症状への対応
- ・生きがいや楽しみなど
- ・人生の振り返り



## 音楽療法を体験してみましょう

- 簡単にできる活動を中心に

## 音楽療法現場で出来ること

- 歩行やストレッチに際して
- 痛みや苦痛の軽減
- 言葉を音楽に（詩・即興歌）
- 回想による人生の振り返り
- 語りかけ（意識レベルが低下していても）
- 歌いかけ（呼吸に合わせる）
- ご家族との音楽を通じた時間の共有
- 介護者や残された方の思いを音楽に反映

## 事例紹介

### ・ 認知症

#### 1. 移動援助

#### 2. マイソングの奇跡：

80代アルツハイマー型認知症男性。自宅にルルドを作るほどの熱心なキリスト教信者であったが、認知症進行のため歌唱も会話も困難になっていた。集団音楽療法参加初回に「聖歌～あめのきさき～」のさびの部分を読み出し、涙を浮かべた。その後、癌が見つかり入院。残された時間をご家族と聖歌を歌い、時間の共有が出来た。

マイソングであった聖歌が忘れていた歌唱を促し、ご家族との最後の時間を繋いだ事例であった。

## 事例紹介

### ・ 認知症

#### 3. 鎮静から興奮（馴染みの歌や声が不安を軽減）へ

#### 4. 人生の振り返り、介護者への感謝や暴力を詫げる言葉

#### 5. 飲水時の援助

#### 6. 介護している妻への感謝の念を替え歌にして伝えた。

## 事例紹介

### ・ 難病（多系統萎縮症）末期患者

1. 映画音楽やシャンソンが好きで、ウクレレの演奏も楽しんでいた70代男性。多系統萎縮症を発症し、集団音楽療法に参加。病気の進行につれて機能が失われてゆく中で、前向きに生きた発声機能維持のための訓練やスピーチカニューレの使用も行って歌い続け、亡くなる2週間前まで集団音楽療法で独唱した。歌うことが生きがいとなり、周囲の人々を励まし、勇気づけた。

## 音楽療法士として

- 残っている能力を引き出し、生かす
- その方にとって意味のある音楽（マイソング）を見つける
- 最期の時まで
- 聴力は残存し、音楽は耳に届いている

## ヘルパーさんの声

- ❁ • 入浴介助時に季節の歌などを歌うと、心が落ち着く。
- ❁ • 買い物同行時、歩行に疲れてきたときに歌をくちづさむと、リズムカルに動ける
- ❁ • 生活のリズム作り、会話のきっかけになる

## ヘルパーさんが困難と思ったこと

- ❁ • 歌を知らない、歌が下手
- ❁ → CDを使ってもよいのではないかな？
- ❁ • 入浴介助時は対面で歌えるが、家事援助時は難しい
- ❁ → 掃除などの時に合図として音楽を使ってみたら？
- ❁ • 利用者の趣味や嗜好を把握しにくい
- ❁ → 音楽や歌の提示、生活歴などからマイソングを探してみてもは？

## ヘルパーさんがケアの中で出来ることは？

- 身体活動：深呼吸 パタカラ 手指の活動（指折り、グーパー、じゃんけんなど）  
🌸 手拍子、歩行など
- 歌唱：鼻歌、歌唱、即興的に歌詞を創作して替え歌にする、回想を促す（お話）
- 楽器：ハーモニカ、笛、太鼓、鳴子、鈴、ハンドベル、トーンチャイムなど

## アンケートについて

音楽と訪問介護についてアンケートのご協力お願い致します。

①あなたについて

性別	男・女	年代	20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代	経験年数	年
----	-----	----	-----------------------------	------	---

②ご利用者について

性別	男・女	年代	50代・60代・70代・80代・90代・100代
要介護度	要支援1・要支援2・1・2・3・4・5		
訪問内容	あなたが訪問している回数 週 回 (入浴介助・排泄介助・外出介助・その他身体介護・掃除・買物・洗濯)		
主な疾病			

③音楽を取り入れて行ったケアはどのような内容ですか？

(例) モーニングケア時、認知症の方を寝室からリビングへ誘導する際のBGMとして。

④ご利用者の状況はどのように変わりましたか？

ご本人の状況の変化	1回目	2回目	3回目	4回目
	月 日( )	月 日( )	月 日( )	月 日( )
笑顔がみれた	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
落ち着かれた	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
会話がスムーズになった	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
音楽の話をしてくださった	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
歌を口ずさまれた	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
スムーズにケアができた	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
拒否が緩和した	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
暴言を吐かなくなった	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
昔話をしてくださった	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
音楽を取り入れたことでご本人が言われた言葉や行動の変化があればご記入ください。				

④ケアに音楽を取り入れての感想、良かったこと、困ったこと、欲しいと思うサポートなどを自由記載をお願いします。

ご協力ありがとうございました♪

【ねらい】

訪問介護の場面でヘルパーが行っている日常的なケアに音楽を取り入れることにより、音楽療法的視点で生活リハビリを考えてもらい、より効果的な実践につなげる。

【研修対象者】

- 第1回 日本ホームヘルパー協会東京都支部会員（主にサービス提供責任者） 約30名程度  
第2回 東京都北区内の訪問介護事業所のヘルパー（サービス提供責任者含む） 100名程度

【実証研修の組み立て】

- ①音楽療法の目的と方法について学ぶ。
- ②音楽を取り入れた訪問介護のケア方法について構想する。
- ③音楽をケアに取り入れる利用者を抽出する。
- ④音楽を訪問介護のケアに取り入れた場合の利用者の心理的、身体的変化を評価する。
- ⑤生活リハビリに音楽療法を生かしたプログラミングを考える。

【実証研修開催概要】

（第1回）日時：9月9（日）13：30～15：30

場所：あきるのルピア

対象者：サービス提供責任者

テーマ：音楽療法を介護に活かそう

協力：日本ホームヘルパー協会東京都支部

参加費：無料

内容：①音楽療法の目的と方法を知る。②在宅における音楽活用事例の抽出（GW）。  
③音楽療法を体感する。④ヘルパーが提供可能な音楽を用いたケア方法を検討（GW）。  
⑤今後の進め方について

（第2回）日時：10月11（木）18：45～20：45

場所：北とぴあ 7階 第二研修室（最寄：京浜東北線王子駅）

対象者：音楽に興味のあるヘルパー（サービス提供責任者）

協力：北区サービス提供責任者の会

参加費：無料

内容：①音楽療法の目的と方法を知る。②音楽療法を体感する。  
③音楽を取り入れたケア方法を提示（例示）する。

アンケートへの協力：研修後1か月間にケアを実施し、アンケートに回答する。

アンケートの回収 12月末締切（第二段階は3月末）

対象者：第2回参加者

アンケート内容：随時記入できる回答票を用意

音楽を取り入れたケア方法における成果や問題点をフィードバック  
うまくいった点。うまくいかなかった点。対象利用者の変化。提案等。

(資料3)特養における実証実験結果一覧



No.	利用者基礎情報	利用者状態像	音楽の使用方法	音楽への反応
1	女性 80才台 要介護4	車いすで自操の方。介護が自分のペースでないと怒りを抑えられない。「警察を呼ぶぞ」「この施設はつぶれるぞ」と施設長に訴えることも時々ある。日常的にはむすっとした表情が多い方。入浴誘導時に、悪態をついたり手すりにつかまって入浴を拒否されることもままある。	CDカセットを浴室で音量大で音楽をかける  マイソング ～フランク永井メドレー	機嫌が悪くても、フランク永井の曲について、曲名や思い出話などほぼ会話がなりたった。(4.5回は該当せず。4回は寝入りばなを起こしたものの、5回は介助者が手早い介護をするタイプだったからと推察している)
	主な疾患・障害 高次脳機能障害 左不全麻痺			
	入浴誘導時拒否			
	2階フロア			
2	女性 80才台 要介護5	自立歩行、日常生活全般に介護が必要となっている。陽気な性格で、人と関わることが好き。音楽も大好きな方。	CDカセットを浴室で音量大で曲をかける。  マイソング 日本の唱歌・童謡メドレー	音楽を聴くということにスムーズに反応され、ロズサミ、手拍子、多数。「(ほかの人にも)音楽を聴きに行きましょう」と社会的な会話もみられた。「いいお声、本人がいたらレコードを買ってきてもらわ」など関心が広がっている。
	主な疾患・障害 アルツハイマー型認知症 糖尿病			
	入浴誘導時拒否			
	3階フロア			
3	女性 90才台 要介護4	車いす介助の方。フロアに他の皆さんとおられても、居室でも、しばしば「こわい～」「誰か～」「痛い～」「しんどい～」と叫びっぱなしになり、娘さんの名前を呼ばれたりされる方。記録の職員などが、傍らにいて不安を軽減するようにしている。	職員が歌う。  マイソング ～ふじの山 (さびから歌う)	歌を歌ってくれる。サビの部分から歌いだすと認識をしてもらいやすい。「良かった」時には頭をなでてもらえる。
	主な疾患・障害 脳梗塞 前頭側頭葉型認知症 腰椎圧迫骨折 円背			
	排泄介助時拒否			
	2階フロア			

表情	ケア拒否の変化	ケアの円滑化	職員の気持ち
<p>評価が三段階であり表情は「ふつう」多い。4回目は寝入でりばなで入浴誘導したため不機嫌、5回目は「音楽聞く」で誘うのに「入浴誘導」であることへの不愉快さがあつた模様。その後音楽の聴ける入浴であることを正確に伝えて誘導するようにしたらほぼ順調に誘導ができた。</p>	<p>入浴誘導では「うるせえ」「勝手に行ってこい」「風呂か、離せ」「お前誰だ」などの言葉みられるが「風呂に入りたくない」の言葉はなし。介助中は「部屋へ連れてけ」「やめろ、帰る」などの言葉が出るが、時計やマスクを自らはずしたり、洗体、着衣時に体を突っ張らない協力動作などでスムーズにできた。全体として拒否の言葉が少なく穏やかに介助ができています。</p>	<p>通常よりスムーズにできた。</p>	<p>会話が成立することや、利用者の笑顔や優しさを感じ取ることができて、嬉しさや喜びを感じた。介助行為そのもののスムーズにでき安心感を感じれた。</p>
<p>表情が豊かな方だが、入浴拒否時には、一変する方。音楽と認識することでほぼ笑顔になっている。</p>	<p>入浴誘導が非常にスムーズであった。実習生と話し込んでいても、「音楽を聴きに行きませんか？」の一言ですぐに立ち上がる、足取り軽く「またね～」と入浴場へ向かうなど拒否がほぼ見られない。*5回目は、入浴場で時間をかけて音楽とともに傾聴し、最後は自ら更衣し笑顔になられた。</p>	<p>歩行介助の方。「あまりもスムーズ」「全てがすんなり進みました」との記載。通常よりスムーズに行えた。</p>	<p>これまでは拒否にあうかと不安があつたが、「誘導の際の言葉がけが決まっているので安心。」など日常の緊張感、不安感がやわらいだ。</p>
<p>表情は変化なしの場合も半数。歌を歌われる場合は笑顔が出ている。</p>	<p>排泄介助時に歌で関心をむけもらう方法のため、職員の歌の歌い方で、本人の認知度合いにいむらが出ている模様。また、歌でなくとも目を開いてもらって行動を誘導するとスムーズにいく場合も数回あり。</p>	<p>車いすで介助の方なので、移動時間は変わらないが、「ふじの山」を一緒に歌えた場合は通常よりスムーズに便座へ移乗してもらっている。</p>	<p>これまで、拒否、不穏がある際には、円背で小柄なため、介護している間は耳元で叫び続けられ、負担感や不安感がつつた。スムーズにできた場合に安心感があつた。</p>

No.	利用者基礎情報	利用者状態像	音楽の使用方法	音楽への反応
4	男性 70才台 要介護4	車いす自操の方。日常生活は一部介護。意思が明確。女性職員には優しく甘える面あり。男性職員には不安からか介護拒否や暴力行為がある。排泄介護は肛門にただれがあり痛みがあるので、排せつ介助時には不安や防衛から大きな声が出たり手で払うなどの拒否ができる方。	CDカセットで音楽をかける  マイソング ～ジブシーキングスの曲 マイウェイなど	認知症は軽度、スペインのフラメンコギターが趣味の方で、アルバムの話や、スペインの話など話題が豊富に交わされ、社会性の広がりがある。音楽を通じて、人間関係が保たれている。
	主な疾患・障害 脳梗塞後遺症 左不全麻痺 認知症			
	排泄介助時拒否			
	2階フロア			
5	女性 90才台 要介護4	車いす介護の方。全介護と一部介護。フロアで過ごす際に、急に「どうしたらいいかわからない」と不穏感情が湧き出し、周りの方々に声をかけ続ける。音楽を利用しないと、短い声掛けでは不安を取り除けない。	CDカセットをそばに準備しておき症状が出たらかける  マイソング ～朧月夜	毎回一緒に歌を歌う、リズムをとるなどしている。本人に音楽を楽しむ力がある方。歌を歌うことで、精神的安定感をもたらすことが可能。長時間の集中力が保たれている。
	主な疾患・障害 認知症 左大腿骨頸部骨折			
	不穏症状			
	3階フロア			
6	N・K氏 男性 70才台 要介護5	歩行自立。健脚。認知症により生活全般に介護が必要。多動で、ほとんど歩き回り、疲労により歩行不安定、不穏症状が出現する。  <u>ご逝去の為3回で中断</u>	ブルトウス対応イヤホン在不穏症状が出たら曲をかける  マイソング 石原裕次郎 ～有楽町で逢いましょう ～夜霧よ今夜もありがとう	石原裕次郎の音楽には何らかの反応がある。イヤホンを外す、手を叩く、机をたたく、口ずさむ、落ち着いてきたら静かに聞き入るなど多彩な反応あがる。
	主な疾患・障害 アルツハイマー型認知症			
	不穏症状			
	2階フロア			

表情	ケア拒否の変化	ケアの円滑化	職員の気持ち
<p>硬い表情が通常多いが、音楽によって、ほぼ最初から笑顔が多く、ににこにこことされている。</p>	<p>ベッド上排泄時の痛みを避けたくて、排泄介助自体を拒否したり、職員に暴力的になることがある方だが、今回はほぼ拒否なし。痛みの訴えはあるが、拒否行動に結びついていない。肛門の洗浄時は痛みの訴えがある。今回は痛みの訴えもない場合があり驚いている。痛みの程度が軽減され、我慢できる範囲になっているように感じる。</p>	<p>自操車いすの方。スムーズさの評価は出来ず、楽しく安心して介助ができたことに介護職員の関心があるようだ。</p>	<p>これまで、男性職員には特に拒否、暴力行動があり介助者の苦痛があったが、共通の話題で会話がはずみ複数の職員が楽しい時間がと感じている。</p>
<p>音楽が認識できると、数秒で表情がやわらぎ、不安が解消され落ち着きを取り戻せた。</p>	<p>傾聴で時間をとれば落ち着きを取り戻せるが、体制上1対1で対応することが不可能。音楽が認識できると、表情がやわらぎ、不安が解消され落ち着きを取り戻せた。</p>	<p>音楽がかかり3秒から15秒で音楽に集中できる。その後、20分以上の安心した時間を提供できている。</p>	<p>不穏時の介護方法として、わかりやすい。音楽療法士の職員が5回実施。以前から音楽を使用していたので介護負担は変化なしと記録。</p>
<p>音楽に集中しきれない時は、表情に変化ないが、音楽を感じられると、表情は落ち着いた。</p>	<p>多動で目が離せない状況の際に、イヤホンで音楽を流すが、最初、音楽を認識できず、イヤホンを外そうとするが、続けると音楽を認識し、多動の行為が消えたり、落ち着きが出てくる。しかしあまり長くは保てない。たとえば、座って聞き始めながらズボンを脱ごうとトイレに誘導するとズボンは降ろさず、歌を口ずさんだりするといったように、しっかり音楽に聞き入るという時間は保てなった。</p>	<p>多動の行為は減るが、まとまった形にはならず、音楽に集中できなかったようだ。</p>	<p>多動で周囲やケアワーカーも視野に入っていない様子で、一方的に動き回られ、時にエキサイトし不穏感が出てくることが多い方が、jひと時でも音楽を通じて、情緒面での疎通があり、ご本人が落ち着かれる様子が得られ、介護負担の軽減が見られた。</p>

(資料4)ホームヘルプでの実証実験結果一覧

シリアル 番号		音楽を取り入れたケア	利用者の変化	
1-M①	<b>利用者の状況</b> 女性 90代 要介護1	浴室内でゆっくりされて いる時に共に4.5曲歌 い、会話の少ない方な ので声を出して頂く様 にしている。コーラスに 入っていた時代もある 様で歌詞は良く覚えて いる。	1回目 笑顔がみれた 10月1日 落ち着いた 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた 拒否が緩和した 昔話をしてください	2回目 笑顔がみれた 10月4日 落ち着いた 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた 拒否が緩和した
	<b>主な疾病</b> 認知症			
	<b>訪問内容</b> 週2回 入浴介助			
	<b>ホームヘルパーの属性</b> 女性 50代 経験年数 16年		概要 以前は入浴に拒否があったが、歌を スタートさせて1年くらいの間では まったく拒否がなくなった。共に笑顔 で歌える事で、浴室が楽しい場所に 思ってもらえるのでは？	概要
2-M①	<b>利用者の状況</b> 女性 90代 要介護1	入浴の時に、湯の中で 共に歌い言葉を発して 頂く。声がすれあり。普 段は話す事がないので はと思われる。歌った 後は脳が活性化する のか言葉が多くなる。 ♪ふるさと♪もみじ♪ みかんの花咲く丘♪夏 は来ぬ♪茶つみ	1回目 笑顔がみれた 10月2日 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた 昔話をしてください	2回目 笑顔がみれた 10月9日 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた
	<b>主な疾病</b> 認知症			
	<b>訪問内容</b> 週2回 入浴介助			
	<b>ホームヘルパーの属性</b> 女性 50代 経験年数 16年		概要	概要 歌前には昼食の主食を答 えられなかったが、後には 思い出す事が出来た
3-M①	<b>利用者の状況</b> 女性 90代 要介護3	入浴時、共に歌う(笑 顔で) ♪富士の山♪ふるさと ♪もみじ♪みかんの花 咲く丘などの情緒のあ る歌により気持ちが落 ち着かれる様で笑顔が 多く見られる。	1回目 笑顔がみれた 10月3日 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた	2回目 笑顔がみれた 10月10日 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた
	<b>主な疾病</b> 認知症・精神的不安定			
	<b>訪問内容</b> 週1回 入浴介助			
	<b>ホームヘルパーの属性</b> 女性 50代 経験年数 16年		概要 情緒のある歌に「日本に生ま れてありがたいですねえ」と 感謝の言葉が多くなる	概要 「この時しか歌えないから …」と楽しみにされている
4-M①	<b>利用者の状況</b> 男性 90代 要介護1	イベントであるカラオケ に良く参加参加されて いると聞き、入浴中も♪ 箱根の山を歌って頂い ている。その後は言葉 多くなり箱根の話題や 歌詞の内容について ホームヘルパーに教え てくださる。	1回目 笑顔がみれた 10月3日 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた 昔話をしてください	2回目 笑顔がみれた 10月10日 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた
	<b>主な疾病</b> 認知症			
	<b>訪問内容</b> 週1回 入浴介助			
	<b>ホームヘルパーの属性</b> 女性 50代 経験年数 16年		概要 ご出身地聞いても「どこだっ けな？」という事があったが、 歌後はスムーズに答えられ た	概要

第一段階

利用者の変化		自由記載
3回目 笑顔がみれた 10月8日 落ち着いた 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた 拒否が緩和した	4回目 笑顔がみれた 10月15日 落ち着いた 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた 拒否が緩和した 昔話をしてくださった	母高住に居る方。入浴中に娘様が来訪され『ホームヘルパーさんと共に母が歌っていた!!』と喜んで下さった。会話が難しい方には歌はとても良いコミュニケーションツールだと思う。お互いに楽しくコミュニケーションがとれる。
概要	概要	
3回目 笑顔がみれた 10月16日 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた 昔話をしてくださった	4回目 笑顔がみれた 10月23日 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた 昔話をしてくださった	お風呂からなかなか出なかったが、5曲歌ったあとに「出ましようか」と言うとスムーズに出て頂けるようになった。満足感があると思われる。(タイミング)
概要 左記同様に歌後は答えられる事多い	概要	
3回目 笑顔がみれた 10月17日 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた	4回目 笑顔がみれた 10月24日 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた	◎以前は「物がなくなった」などの言葉もあったが今はその様な言葉もなく、精神的に安定された様に感じる。◎ホームヘルパーも笑顔で歌う事により信頼して頂けると思う。またホームヘルパー自身も共にできたという満足感が得られる。
概要 「皆様にしてあげてね」と喜んで下さる	概要	
3回目 笑顔がみれた 10月17日 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた 昔話をしてくださった	4回目 笑顔がみれた 10月24日 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた 昔話をしてくださった	◎共に歌う事により信頼関係が築きやすいと感じる。昔の話などの中で利用者の感情的な部分も話して下さる様になった。◎ホームヘルパー自身も歌により援助が楽しいと感じる事が出来る
概要 ホームヘルパーがハミングすると一人で歌い始め歌詞も覚えていて♪箱根の山	概要 左記同様「この歌は調子が良くていいな」と笑顔	

	シリアル番号		音楽を取り入れたケア	利用者の変化	
第一段階	5-K	<b>利用者の状況</b> 女性 80代 要介護1 <b>主な疾病</b> 認知症・高血圧	共に行う調理の前にウォーミングアップを兼ねて富士の山の歌に手の運動を加えて行った。	1回目 笑顔がみれた 10月17日 落ち着いた 会話がスムーズになった  歌を口ずさまれた スムーズにケアができた 拒否が緩和した 昔話をしてくださった	2回目 笑顔がみれた 10月24日 落ち着いた 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた 拒否が緩和した
		<b>訪問内容</b> 週2回 その他身体介護		概要 歌詞を教えてくださいました。	概要
		<b>ホームヘルパーの属性</b> 女性 50代 経験年数 17年			
6-K①		<b>利用者の状況</b> 男性 80代 要介護2 <b>主な疾病</b> 視覚障害	入浴時、湯舟に入っている時間、数を1から50まで数えるのにリズムをつけて数える(1回目)数のかわりに何か歌を1曲歌うことをすすめる(2回目)。	1回目 11月13日 音楽の話をしてくださった  昔話をしてくださった	2回目 11月20日 歌を口ずさまれた
		<b>訪問内容</b> 週1回 入浴介助 その他身体介護		概要 (湯舟に入っている時間、数を1から50まで数えるのにリズムをつけて数える)	概要 入浴時背中を流している時、高原列車の歌を歌われた
		<b>ホームヘルパーの属性</b> 女性 60代 経験年数 18年			
7-K②		<b>利用者の状況</b> 男性 90代 要介護2 <b>主な疾病</b>	昔はカラオケにも行ったが、今は全然唄わないよ、、、断れました	1回目	2回目
		<b>訪問内容</b> 週3回 外出介助 家事援助		概要	概要
		<b>ホームヘルパーの属性</b> 女性 70代 経験年数 26年			
8-K③		<b>利用者の状況</b> 女性 80代	寝室のベットから起床介助→移動介助→排泄介助→食事介助 CD(主に映画音楽)	1回目 笑顔がみれた 8月13日 落ち着いた 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた 拒否が緩和した 昔話をしてくださった	2回目 笑顔がみれた 8月16日 落ち着いた 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた 拒否が緩和した
		<b>主な疾病</b> 糖尿病・認知症・高血圧症・ 骨粗しょう症・変形性膝関節症・腎臓疾患		概要 ダンスが得意な方だったので、CDをかけてのケア、大変強く興味を示された。首を軽くスイングされ「良く行ったわ、映画を見に。主人と子供と」と昔話を始められる。食事も完食され、笑顔も多く見られる。「足が痛くなかったら庭でダンスをして踊りたいくらいね。あなたにも教えてさしあげられるのに」と言って下さる。	概要 CDをかけると「あら？ステキネ」と言われる。映画音楽からご本人の昔の話へと誘導して会話を広げるご主人と一緒に、息子さんとも行かれたのかハッキリと分からないまでも、とても嬉しそうな表情。花が咲いた様な良い笑顔が見られた
		<b>訪問内容</b> 週4回 排泄介助 その他身体介護			
		<b>ホームヘルパーの属性</b> 女性 50代 経験年数 14年			



利用者の変化		自由記載
3回目	4回目	◎訪問介護の現場で実際に取り入れる事はなかなかむずかしい感じました。◎話もはずむし楽しい時間となりますが、それをヘルパーに引き継ぐとなるといき過ぎてしまう心配と、現実のケアの時間内に行えるのか少し不安です。
概要	概要	
3回目 11月27日	4回目 12月3日 音楽の話をしてくださった  昔話をしてくださった	◎ケアに追われて、なかなか音楽の話ができませんでした。◎他の人のケアで、昔の映画音楽をかけると昔を思い出し夢中になり、食事が進まなくなることもありました。限られた時間でケアなので、ゆとりがないとむづかしいです。
概要 音楽より政治に興味がある様子で、音楽の話はできなかつた	概要 昔はカラオケを良くされたそうですが、目が見えなくなって行く気になれないとのこと	
3回目	4回目	
概要	概要	
3回目 暴言を吐かなくなった 8月17日	4回目 笑顔がみれた 8月27日 落ち着いた 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった スムーズにケアができた 拒否が緩和した 暴言を吐かなくなった 昔話をしてくださった	何かしら、いつの時は必ずいろいろな形で音楽に関わっておられると思う。その人の(利用者様)の生きて来られた人生や時代の背景を感じ取りながら心穏やかな、音楽と一緒に援助をすすめられたら介助する側も大変心豊かな時間となると思いました。
概要 もともと穏やかな方であるが思い込みから体調不良を強く訴える事が多い。この日は起床するのもままならず、表情も沈んで陰しい。CDをかけるのを声かけても「流さなくて結構です」と、取り入れることが出来なかつた。	概要 入室し挨拶後CDをON、ボリュームは低めにしてから雨戸をあけてみる。寝室におられる利用者を移動介助し、居室まで来られ椅子に座ると「あなた音楽が好きなのね。これは何ていうのだったかしら？」と興味を示され、表情は落ち着かれています。	

	シリアル 番号		音楽を取り入れたケア	利用者の変化	
第一 段階	9-K④	<b>利用者の状況</b>	知人に頂いたCDを聴きたいが、足が痛く「CDデッキのある2Fに上がれず聞けない」と言われる。どのような歌か伺うと「あれ…どんな歌だっけ…」と思いつけなかった。思い出すために、いろいろお話を伺い、スマホで検索しYouTubeで曲を聞いてもらい思い出していただいた。	1回目 笑顔がみれた	2回目
		女性 80代 要介護2		10月18日 落ち着いた	
		<b>主な疾病</b>		会話がスムーズになった	
		関節リウマチ		音楽の話をしてくださった	
		<b>訪問内容</b>		スムーズにケアができた	
		週2回 入浴介助 2人交代 外出介助		概要 「そう、この曲です」と思い出したことを喜んでいた。	
	<b>ホームヘルパーの属性</b>				
	女性 40代 経験年数 3年				
	10-M②	<b>利用者の状況</b>	ケアの導入にどんな歌がお好きだったか うちが一緒に歌い援助を開始した	1回目 笑顔がみれた	2回目 笑顔がみれた
女性 70代 要介護5		12月21日 落ち着いた		12月24日 落ち着いた	
<b>主な疾病</b>		会話がスムーズになった		会話がスムーズになった	
肺ガン末期、脳転移あり 認知症		音楽の話をしてくださった		音楽の話をしてくださった	
<b>訪問内容</b>		歌を口ずさまれた		歌を口ずさまれた	
週2回位 排泄介助		拒否が緩和した		スムーズにケアができた	
<b>ホームヘルパーの属性</b>	昔話をしてくださった	拒否が緩和した			
女性 50代 経験年数 18年					
11-M②	<b>利用者の状況</b>	排泄介助中に歌を歌いながら行った	1回目 落ち着いた	2回目 落ち着いた	
	男性 90代 要介護5		1月7日 スムーズにケアができた	1月11日 スムーズにケアができた	
	<b>主な疾病</b>		拒否が緩和した		
	廃用性による寝たきり 四肢関節拘縮				
	<b>訪問内容</b>				
	週4回 排泄介助 その他身体介護		概要	概要 「うー」と反応をした	
<b>ホームヘルパーの属性</b>					
女性 50代 経験年数 18年					

利用者の変化		自由記載
3回目	4回目	<p>・音楽を取り入れて、いつもとは違う笑顔が見れた</p> <p>・デイサービスなどに行かなくてもみんなで集まって音楽が楽しめる場所が増えると良いと思いました。</p> <p>・続けたかったが、音楽の話になった時外出介助中で利用者様も思い出せず、私も分らず調べられず、がっかりさせてしまい、その後お伝えしようとしても「もう大丈夫」と拒否されてしまった。昔の曲だけでなく現代の曲もとなると数が多すぎて覚えきれない。利用者をがっかりさせてしまうかも考えるとなかなか話し出せなくなってしまった。</p> <p>・利用者宅に音楽を聞く機械があればよいが、無い時は自分のスマホを使用しなければならぬと考えると何回も何曲もと聞かせてあげることが出来ないで困った。</p>
概要	概要	
3回目 笑顔がみれた 12月28日	4回目 12月30日	<p>ターミナル期であり、介護者の娘さんも精神疾患がある中でヘルパー援助、訪問そのものに拒否感があった。しかし室内にスナック内で着物姿の写真があり「歌手みたいです」と声かけ「歌」を通じてコミュニケーションを図った。ご本人のキラキラした人生のひとこまを知ることができた。</p>
概要 「痛い」と言う言葉の方が多かった。ご本人が歌うにはいたらなかったが、気を紛らわしてほしいと、ヘルパーは歌った。	概要 ターミナル期で痛みがあり、強い薬が処方され開眼することはありませんでした。いつもと同じ援助をしながら、ヘルパーはひたすら歌いました。	
3回目 笑顔がみれた 1月14日 落ち着いた スムーズにケアができた 拒否が緩和した	4回目 笑顔がみれた 1月15日 落ち着いた スムーズにケアができた 拒否が緩和した	<p>強度の拘縮のある方で発語は「うー」「あー」のみであった。排泄介助時は特に身体の拘縮が強くなるため歌を歌うことで和らげることを試みた。又、以前、家族が他のヘルパーが優しく歌いかけているの見て家族も気持ちがあざとんとお話しがあった</p>
概要 目を見開きヘルパーをみた	概要 聞き取れないが突然大きな声で発語した	

	シリアル 番号		音楽を取り入れたケア	利用者の変化	
第二段階	12-K④	<b>利用者の状況</b>	知人に頂いたCDを聴きたいが、足が痛く「CDデッキのある2Fに上がれず聞けない」と言われる。どのような歌か伺うと「あれ…どんな歌だっけ…」と思いつけなかった。思い出すために、いろいろお話を伺い、スマホで検索しYouTubeで曲を聞いてもらい思い出していただいた。	1回目 笑顔がみれた 10月18日 落ち着いた 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった スムーズにケアができた	2回目
		女性 80代 要介護2			
		<b>主な疾病</b> 関節リウマチ			
		<b>訪問内容</b> 週2回 入浴介助 2人交代 外出介助			
		<b>ホームヘルパーの属性</b> 女性 40代 経験年数 3年			
	12-K④	<b>利用者の状況</b>	入浴後、部屋で着替え、薬を塗っている時、音楽を聴くことも、歌うことも好きということで、お話を伺いながら、好きな音楽を聴いていただきリラックスしてもらったため	1回目	2回目 笑顔がみれた 2月14日 落ち着いた 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた
		女性 80代 要介護2			
		<b>主な疾病</b> 関節リウマチ			
<b>訪問内容</b> 週2回 入浴介助 2人交代 外出介助					
<b>ホームヘルパーの属性</b> 女性 40代 経験年数 3年					
12-K⑤	<b>利用者の状況</b>	入浴介助後、ご本人がベッドで着替え時、ご本人の希望の曲を流し、動画を見ていただきながら着替えてもらった	1回目	3回目 笑顔がみれた 2月18日 落ち着いた 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた	
	女性 80代 要介護2				
	<b>主な疾病</b> 関節リウマチ <small>徐脈頻脈症候群、慢性肺炎</small>				
	<b>訪問内容</b> 週2回 入浴介助 2人交代 外出介助				
	<b>ホームヘルパーの属性</b> 女性 60代 経験年数 10年				
			概要 「そう、この曲です」と思い出したことを喜んでいました。	概要	
			概要	概要 「身体が痛くて落ち込んでいたの。でも、好きな音楽が聴けたから気分が良くなりました。」と笑顔で言われる。	
			概要	概要 ご自分から好きな曲をリクエストしてきます。「じゃあ来週は〇〇の〇〇を聴きたいわね」と笑顔が多く見られた。	

利用者の変化		自由記載
3回目	4回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を取り入れて、いつもとは違う笑顔が見れた</li> <li>・続けたかったが、音楽の話になった時外出介助中で利用者様も思い出せず、私も分らず調べられず、がっかりさせてしまい、その後お伝えしようとしても「もう大丈夫」と拒否されてしまった。昔の曲だけでなく現代の曲もとなると数が多すぎて覚えきれない。利用者をがっかりさせてしまうかも考えるとなかなか話し出せなくなってしまった。</li> <li>・利用者宅に音楽を聞く機械があればよいが、無い時は自分のスマホを使用しなければならないと考えると何回も何曲もと聞かせてあげることが出来ないので困った。</li> </ul>
概要	概要	
4回目 笑顔がみれた 2月21日 落ち着いた 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた	6回目 笑顔がみれた 2月28日 落ち着いた 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽が好きな方にとって気軽に音楽が検索でき聴けるスマホの存在はとれも喜ばしいことである。</li> <li>・テレビやラジオでは希望の曲が聴けないが、スマホでは、自分の希望の曲が聴けて、ものすごく喜んでいた。</li> <li>・しかし、ご自身では操作が難しく、誰かにやってもらわないとならない点がハードルが高い。ヘルパーが伺い操作することでその点が解消するとともに、気持ち的に家族に頼むと悪いということも解消される。</li> <li>・これからも聴けるとしたらどうか伺うと「え～そんなうれしいことないです」と言われました。</li> </ul>
概要 「音楽を聴くと楽しい気分になれて、痛みを忘れませぬ」	概要 「こんなに沢山の音楽が聴けてすごいです。これからも聴けるといいです」と言う。	
5回目 笑顔がみれた 2月25日 落ち着いた 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた		<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつもの表情とは違い、その利用者様の昔だったり違う一面が見られ、新鮮でした。</li> <li>・その曲から、ピンポイントで利用者様も、そしてヘルパー自身も、知らない世界へ、ご本人は、なつかしく生き生きとした時間の空間へと、まるでワープしたような感動でした。</li> </ul>
概要 「この曲好きなの」と、一緒に歌っている。新曲などもよく知っておられる。表情豊かです。カラオケに行きましょうなどの話が進みました。	概要	

	シリアル 番号		音楽を取り入れたケア	利用者の変化	
第二段階	13-K⑤	<b>利用者の状況</b>	1人で初めての訪問。夕食の準備をしようとする「そんなこといいからこっちに座ってなさい」と拒否からくる言葉を言われたので、前に座り夕食に関する話をする。「なんでもいいの、やらなくていいの」をくり返すので、別の話として音楽の話をする。「音楽なんか聴かないよ、曲名とか歌っている人言われても分からないから」と拒否するので、「この曲は聴いたことがありますか」とスマホで曲を流すと「あつ、これは知っている」と興味を示す。少しの間聴いていただき、曲を流したまま、「夕食の準備をします」と言うと、「お願いします」と言われ、スムーズに援助ができた。	1回目 笑顔がみれた	2回目 笑顔がみれた
		女性		2月14日 落ち着いた	2月21日 落ち着いた
		要介護2		会話がスムーズになった	会話がスムーズになった
		<b>主な疾病</b>		音楽の話をしてくださった	音楽の話をしてくださった
		うつ病、多極性障害		歌を口ずさまれた	歌を口ずさまれた
		<b>変形性腰椎症</b>			
	<b>訪問内容</b>	概要 音楽に興味がないと言っていたのに、曲が流れると「あら、これは丸ね」と笑顔になり、坂本丸のことを話してくださった。	概要 音楽を聴いて楽しそうにしていた。「何か聴きたい曲ありますか?」と伺うと、「江利チエミがいいわね」としクエストしてくれた。		
	週7回				
	<b>ホームヘルパーの属性</b>				
	女性 60代				
	経験年数 10年				
14-K⑤	<b>利用者の状況</b>	1回目は、デイ帰宅時にカギがなく入室できなかったため、ケアマネの事務所内で家族の迎えを待っている間、まわりをキョロキョロと見たり落ち着いた様子が見られなかったため、音楽を聴き、落ち着きを取り戻すためのBGMとして。2回目は、自宅にて音楽を聴くことにより、楽しんでいただくことを目的とした。	1回目 笑顔がみれた	2回目 笑顔がみれた	
	女性 80代		2月13日 落ち着いた	2月18日 落ち着いた	
	要介護2		歌を口ずさまれた	会話がスムーズになった	
	<b>主な疾病</b>		歌を口ずさまれた	音楽の話をしてくださった	
	アルツハイマー型認知症			歌を口ずさまれた	
<b>訪問内容</b>	概要 「これは聴いたことがあるわ」と歌詞を思い出し、歌われた。	概要 中国に住んでいたこともあり、歌を聴いて「昔はみんなこんな歌い方だったんです」と教えてくれた。(シナの夜)			
週3回					
<b>ホームヘルパーの属性</b>					
女性 60代					
経験年数 10年					
15-K④	<b>利用者の状況</b>	夕食時のBGMとして。	1回目 笑顔がみれた	2回目	
	女性 90代		3月14日 落ち着いた		
	要介護2		会話がスムーズになった		
	<b>主な疾病</b>		音楽の話をしてくださった		
	双極性障害		歌を口ずさまれた		
			スムーズにケアができた		
<b>訪問内容</b>	概要 海外の曲をと思い聴かせてみると反応はいまいちだったので好きな坂本丸を流すと表情が明るくなり「これ丸よね」と言われる	概要 2回目も思ったが、相撲中継を観ていたので出来ず...			
<b>ホームヘルパーの属性</b>					
女性 40代					
経験年数 3年					

利用者の変化		自由記載
<p>3回目 笑顔がみれた</p> <p>2月28日 落ち着いた</p> <p>会話がスムーズになった</p> <p>音楽の話をしてくださった</p> <p>歌を口ずさまれた</p>		<p>あまり音楽に興味がない方だったので、歌手名や曲名が聞き出せずに困ったが、スマホだと年代別の曲名が簡単に調べられ、音で聴くことによって、「あつこの曲知ってます」と好きな曲が分って良かった。利用者は目も良く、テーブルの上にスマホを置いて曲を流しているとのぞき込むように画面を覗いていた。手に取って観ることを勧めると手に取り懐かしそうに映像を見て、その歌手(坂本 九)のことを沢山話してくれた。ただ、画面が小さかったので、もっと大きいタブレットだったら、より顔が見れて良かったと思った。</p>
<p>美空ひばりを聴くと「この人は裏声が入るからね」と教えてくれた。昔の3人娘が分からなかったら「雪村いづみよ」と笑顔で教えてくれた。</p>		
		<p>デイサービスでよく歌っている曲は、口ずさめたり、手拍子をしておられた。なので、デイサービスでは歌わないような曲をスマホで流してみると、「あつこれは聞いたことあるよ。でも、歌ないかな」との発言。手で太ももを叩きリズムを取ることもあったが歌うことはなかった。中国に住んでいたことを思い出し、スマホで検索。2曲候補が出てきて流してみると、1曲に「あつ、この歌」と言い歌い出した。知っている曲か何うと、「昔、よく流れてたの。満州にいたでしょ。だから懐かしいね」と言われた。映像もあったので覗いていただくと「そうそう、この人が歌っていたのよ。みんなこんな建物だったわ」と自分から話をどんどんして下さったのがうれしかった。</p>
3回目	4回目	<p>特にスマホの使用時期を伝えていなかった。前回音楽を流していない時は何かまっぴりしているような感じだった。今回もそのような感じだったのでスマホを取り出し「何か聴きませんか？」と伺うと、パーと表情が明るくなった。しかし「何でもいいです」と言うので海外のビートルズを流すと反応は「あー知ってます」と。でも好きな坂本九を流すと「これ九よね」と笑顔でスマホを手にとり画像を見てリズムをとっていた。</p>

	シリアル 番号		音楽を取り入れたケア	利用者の変化	
16-K⑥		<b>利用者の状況</b>	入浴後のドライヤー時、いつも同じで「うちに来やすいってみんな言ってくれるのよ。私はねマイケルジャクソンとか えいちゃん(矢沢永吉)のコンサートによく行ったの、だからみんなにも行ける時に行きなさいって言うのよー」と音楽の話をされたので えいちゃんの曲聞いてみますか？とスマホで曲を流すと、目をキラキラさせてご自分でスマホを持ち口ずさまれたいた。	1回目 笑顔がみれた 2月19日 落ち着いた 会話がスムーズになった 音楽の話をしてくださった 歌を口ずさまれた スムーズにケアができた 拒否が緩和した 昔話をしてくださった	2回目
		女性 80代 要介護1		概要 聞いたことのないうれしそうな声でスマホの画像に向かって「えいちゃん」と叫ばれていた	概要
		<b>主な疾病</b>			
		アルツハイマー型認知症 高血圧			
		<b>訪問内容</b>			
		週2回 入浴介助			
		<b>ホームヘルパーの属性</b>			
		女性 30代 経験年数 19年			
		<b>利用者の状況</b>		1回目 ●月●日	2回目 ●月●日
		<b>主な疾病</b>			
		<b>訪問内容</b>			
		<b>ホームヘルパーの属性</b>		概要	
		経験年数			



利用者の変化		自由記載
3回目	4回目	<p>曲を流す際に「マイケルジャクソンとえいちゃん、聞くならどちらが良いですか？」と伺うと「日本語だからえいちゃんがいいわ」と選択された。ドライヤー中みて頂く。ドライヤー後 居間で水分(お茶)をとっていただきヘルパーは入浴掃除へ行き戻ると「もう1回見たいの これどうするの?」とスマホを大事に渡して下さった。そばにいらしたご主人(89才・支1)も「オレはジャズを聞きたいよ。昭和の戦後のやつ」と、曲名や歌手名出でこず、スマホで検索すると関連する曲がでてきた。その時代の歌手の名前を夫婦2人で楽しそうに会話されていた。この方は2年間入浴されておらずヘルパーが介入してから(1年前)入浴へとつながったケース。信頼関係を築くのが困難で「えいちゃん」「マイケルジャクソン」をキーワードに会話をしてきたが、お2人がこんなにも喜んでくださるのははじめてで、2人で1つのスマホを見ている姿はほほえましかった。</p> <p>また、夫も演歌や歌謡曲ではなく「ジャズ」をリクエストされ、お2人の歴史や若い時の生活(ライフスタイル)が垣間みえました。</p> <p>★スマホ(ユーチューブ)はキーワードから検索でき、イントロとして曲名・歌手名を話し合いながらあれやこれやと会話が広がり、音楽を引き出しながらライフスタイルやその方の人となりを見ることが出来る。しかし、ホームヘルプのケア時間は限られているため試行できる利用者やケア内容が限られてしまうと思いました。</p>
概要	概要	
3回目 ●月●日	4回目 ●月●日	

# 認知症ケアに音楽を活かす

特別養護老人ホームかないばら苑における実証実験

1. まとめ
2. 実証実験結果一覧
3. 個別票
4. インタビュー

## 音楽運動療法の在宅普及方策に関する調査研究 特別養護老人ホームかないばら苑における実証実験【まとめ】

### 調査研究の基本的方向

特養では、利用者の生活状況を日常的に把握しているため、対象となる利用者の抽出、マイソングの特定、利用者の状態の変化の把握が容易にできることを前提として、マイソングを課題となる介護場面で活用することで、利用者の行動にどのような変化がおきるか、また、介護者にとって介護の提供の円滑化や介護負担の軽減等が図れるか実証実験を行った。

### 実証実験の仮説

様々な介護現場では、認知症 B P S D（精神行動障害）の一部である「日常的に介護拒否がある」「不穏症状で落ち着かない」という状態像の方に対して、有効なケア方法を模索している。

実証実験では、介護に合わせてマイソング（親しんだ曲、思い入れのある曲）を聴いて貰うと、気分をリラックスさせ、穏やかな気分を取り戻し、介護拒否の減少や社会性の改善が得られること。また、不穏で始終見守りの必要な方が、不安感を払しょくし、ゆっくりと過ごせるようになることを想定した。

同時に、介護職員にとってはケアをスムーズに提供でき、介護負担の軽減や介護の達成感などが得られることを想定した。

### 実証実験の結果

すべての事例でマイソングへの反応があり、特に、音楽に合わせて利用者本人も歌った場合には拒否の言葉が顕著に減少した（30/35）。

介護（入浴、排泄）拒否のある方に、音楽を用いて誘導すると導入はよりスムーズになった。本人は音楽への興味に集中することで、羞恥心や不安感や不快感を取り除くことができている。4（N・M氏）の場合は排泄時の痛みが薄らぐ結果もあった。3（K・S氏）では職員が「ふじの山」をさびから歌うことでたびたび不安を軽減できているが、一方集中できない場面もあり、「歌う」方法に職員によりばらつきがでた可能性がある。

不穏症状の方についても、不穏時に音楽を認識できると数秒で表情がやわらかくなど、介護に音楽を導入することの効果は大きいことが認められる。

実験に関わった職員の介護負担は、ほとんどの職員について軽減された。増加した職員は一人もなく、維持とした職員は、従前から負担が軽いと感じている職員であった。また、音楽が介在することで利用者の社会性の改善や他者との関わりが増え、職員の利用者とのコミュニケーションがとれる喜びや達成感が高まった。

## 実証実験方法

1 対象者 入居者の中で認知症 B P S D 状態により介護がスムーズに提供できない方

6名 入浴誘導拒否 2名

排泄誘導拒否 2名

不穏症状 2名 (うち 1名は途中で逝去のため中断)

## 2 方法

① 介護提供方法は、特定の担当者を決めず、当日の配置介護職員が、あらかじめ定められた方法で音楽を提供しながらケアを提供した。

② 使用場面、マイソングの選定 提供方法 回数を個人別に提供方法を設定した。

③ マイソングの選定方法

3曲/入居時フェースシート・職員と家族ヒヤリング・年代・出身地から選定

3曲のうち本人の反応の良いものを選定 (複数も可)

反応が無い場合は、高齢者音楽療法でよく使用される曲を選定する

(候補曲 ふじの山 お富さん 東京音頭 炭坑節 銀座かんかん娘  
高校3年生 幼少期の歌 ラジオ世代 ムード音楽など)

## 3 評価項目

表情 音楽への反応 ケアのスムーズさ (ケア拒否の行動・言葉) 介護負担度で記録

4 期間・職員人数 2018年8月2日～9月7日

### 入浴誘導拒否

1 K・T氏	10回	8/2	6	9	13	20	27	30	9/3	6	10	職員4名
2 H・E氏	7回	8/8	10	17	21	25	28	9/7				職員5名

### 排泄誘導拒否

3 K・S氏	8回	8/1	10:30	13:00	16:00	8/2	9:00	16:00				
		8/3	13:00	8/4	13:00	8/5	13:00					職員6名
4 N・H氏	10回	8/1	9:00	13:00	8/3	13:00	16:00					
		8/5	9:00	8/6	9:00	13:00						
		8/7	16:00	8/10	13:00	16:00						職員6名

### 不穏症状

5 N・M氏	8回	8/4	5	10	12	16	17	22	28			職員3名
6 N・K氏/中断	3回	8/1	2	4								職員3名

5 実験導入研修の開催 2018/7/20(金) 18-19

苑内 参加者18名

目的：実験導入の職場の同意と実施の徹底を得るため

講師：深野広美氏（音楽療法士）

テーマ：音楽の力でBPSDケアを楽しもう ～パーソナルソング導入実証実験

内容：音楽（療法）の力について 観察視点について 体験ロールプレイ

6 家族・介護者より 協力同意書を得た。

7 スーパーバイザー 深野音楽療法士

方法・評価の作成アドバイス

アセスメント方法 提供方法のアドバイス 初期モニタリング 実施記録の分析

## 実証実験結果一覧

No.	利用者基礎情報	利用者状態像	音楽の使用方法	音楽への反応
1	女性 80才台 要介護4	車いすで自操の方。介護が自分のペースでないと怒りを抑えられない。「警察を呼ぶぞ」「この施設はつぶれるぞ」と施設長に訴えることも時々ある。日常的にはむすっとした表情が多い方。入浴誘導時に、悪態をついたり手すりにつかまって入浴を拒否されることもままある。	CDカセットを浴室で音量大で音楽をかける  マイソング ～フランク永井メドレー	機嫌が悪くても、フランク永井の曲について、曲名や思い出話などほぼ会話がなりたった。(4.5回は該当せず。4回は寝入りばなを起こしたものの、5回は介助者が手早い介護をするタイプだったからと推察している)
	主な疾患・障害 高次脳機能障害 左不全麻痺			
	入浴誘導時拒否			
	2階フロア			
2	女性 80才台 要介護5	自立歩行、日常生活全般に介護が必要となっている。陽気な性格で、人と関わることが好き。音楽も大好きな方。	CDカセットを浴室で音量大で曲をかける。  マイソング 日本の唱歌・童謡メドレー	音楽を聴くということにスムーズに反応され、ロずさみ、手拍子、多数。「(ほかの人にも)音楽を聴きに行きましょう」と社会的な会話もみられた。「いいお声、本人がいたらレコードを買ってきてもらわ」など関心が広がっている。
	主な疾患・障害 アルツハイマー型認知症 糖尿病			
	入浴誘導時拒否			
	3階フロア			
3	女性 90才台 要介護4	車いす介助の方。フロアに他の皆さんとおられても、居室でも、しばしば「こわい～」「誰か～」「痛い～」「しんどい～」と叫びっぱなしになり、娘さんの名前を呼ばれたりされる方。記録の職員などが、傍らにいて不安を軽減するようにしている。	職員が歌う。  マイソング ～ふじの山 (さびから歌う)	歌を歌ってくれる。サビの部分から歌いだすと認識をしてもらいやすい。「良かった」時には頭をなでてもらえる。
	主な疾患・障害 脳梗塞 前頭側頭葉型認知症 腰椎圧迫骨折 円背			
	排泄介助時拒否			
	2階フロア			

表情	ケア拒否の変化	ケアの円滑化	職員の気持ち
<p>評価が三段階であり表情は「ふつう」多い。4回目は寝入でりばなで入浴誘導したため不機嫌、5回目は「音楽聞く」で誘うのに「入浴誘導」であることへの不愉快さがあった模様。その後音楽の聴ける入浴であることを正確に伝えて誘導するようにしたらほぼ順調に誘導ができた。</p>	<p>入浴誘導では「うるせえ」「勝手に行ってこい」「風呂か、離せ」「お前誰だ」などの言葉みられるが「風呂に入りたくない」の言葉はなし。介助中は「部屋へ連れてけ」「やめろ、帰る」などの言葉が出るが、時計やマスクを自らははずしたり、洗体、着衣時に体をつっ張らない協力動作などでスムーズにできた。全体として拒否の言葉が少なく穏やかに介助ができています。</p>	<p>通常よりスムーズにできた。</p>	<p>会話が成立することや、利用者の笑顔や優しさを感じ取ることができて、嬉しさや喜びを感じた。介助行為そのもののスムーズにでき安心感を感じれた。</p>
<p>表情が豊かな方だが、入浴拒否時には、一変する方。音楽と認識することでほぼ笑顔になっている。</p>	<p>入浴誘導が非常にスムーズであった。実習生と話し込んでいても、「音楽を聴きに行きませんか？」の一言ですぐに立ち上がる、足取り軽く「またね～」と入浴場へ向かうなど拒否がほぼ見られない。*5回目は、入浴場で時間をかけて音楽とともに傾聴し、最後は自ら更衣し笑顔になられた。</p>	<p>歩行介助の方。「あまりもスムーズ」「全てがすんなり進みました」との記載。通常よりスムーズに行えた。</p>	<p>これまでは拒否にあうかと不安があったが、「誘導の際の言葉がけが決まっているので安心。」など日常の緊張感、不安感がやわらいだ。</p>
<p>表情は変化なしの場合も半数。歌を歌われる場合は笑顔が出ている。</p>	<p>排泄介助時に歌で関心をむけもらう方法のため、職員の歌の歌い方で、本人の認知度合いにいむらが出ている模様。また、歌でなくとも目を開いてもらって行動を誘導するとスムーズにいく場合も数回あり。</p>	<p>車いすで介助の方なので、移動時間は変わらないが、「ふじの山」を一緒に歌えた場合は通常よりスムーズに便座へ移乗してもらえている。</p>	<p>これまで、拒否、不穏がある際には、円背で小柄なため、介護している間は耳元で叫び続けられ、負担感や不安感がつものつた。スムーズにできた場合に安心感があった。</p>

## 実証実験結果一覧

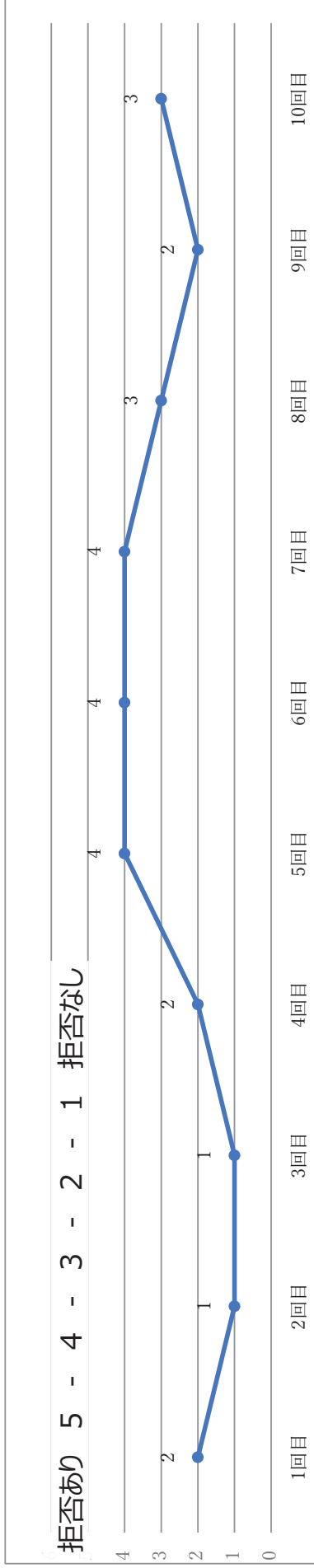
No.	利用者基礎情報	利用者状態像	音楽の使用方法	音楽への反応
4	男性 70才台 要介護4	車いす自操の方。日常生活は一部介護。意思が明確。女性職員には優しく甘える面あり。男性職員には不安からか介護拒否や暴力行為がある。排泄介護は肛門にただれがあり痛みがあるので、排せつ介助時には不安や防衛から大きな声が出たり手で払うなどの拒否ができる方。	CDカセットで音楽をかける  マイソング ～ジブシーキングスの曲 マイウェイなど	認知症は軽度、スペインのフラメンコギターが趣味の方で、アルバムの話や、スペインの話など話題が豊富に交わされ、社会性の広がりがある。音楽を通じて、人間関係が保たれている。
	主な疾患・障害 脳梗塞後遺症 左不全麻痺 認知症			
	排泄介助時拒否			
	2階フロア			
5	女性 90才台 要介護4	車いす介護の方。全介護と一部介護。フロアで過ごす際に、急に「どうしたらいいかわからない」と不穏感情が湧き出し、周りの方々に声をかけ続ける。音楽を利用しないと、短い声掛けでは不安を取り除けない。	CDカセットをそばに準備しておき症状が出たらかける  マイソング ～朧月夜	毎回一緒に歌を歌う、リズムをとるなどしている。本人に音楽を楽しむ力がある方。歌を歌うことで、精神的安定感をもたらすことが可能。長時間の集中力が保たれている。
	主な疾患・障害 認知症 左大腿骨頭部骨折			
	不穏症状			
	3階フロア			
6	N・K氏 男性 70才台 要介護5	歩行自立。健脚。認知症により生活全般に介護が必要。多動で、ほとんど歩き回り、疲労により歩行不安定、不穏症状が出現する。  <u>ご逝去の為3回で中断</u>	ブルートゥース対応イヤホンを不穏症状が出たら曲をかける  マイソング 石原裕次郎 ～有楽町で逢いましょう ～夜霧よ今夜もありがとう	石原裕次郎の音楽には何らかの反応がある。イヤホンを外す、手を叩く、机をたたく、口ずさむ、落ち着いてきたら静かに聞き入るなど多彩な反応あがる。
	主な疾患・障害 アルツハイマー型認知症			
	不穏症状			
	2階フロア			



表情	ケア拒否の変化	ケアの円滑化	職員の気持ち
<p>硬い表情が通常多いが、音楽によって、ほぼ最初から笑顔が多く、ににこにこことされている。</p>	<p>ベッド上排泄時の痛みを避けたくて、排泄介助自体を拒否したり、職員に暴力的になることがある方だが、今回はほぼ拒否なし。痛みの訴えはあるが、拒否行動に結びついていない。肛門の洗浄時は痛みの訴えがある。今回は痛みの訴えもない場合があり驚いている。痛みの程度が軽減され、我慢できる範囲になっているように感じる。</p>	<p>自操車いすの方。スムーズさの評価は出来ず、楽しく安心して介助ができたことに介護職員の関心があるようだ。</p>	<p>これまで、男性職員には特に拒否、暴力行動があり介助者の苦痛があったが、共通の話題で会話がはずみ複数の職員が楽しい時間がとれている。</p>
<p>音楽が認識できると、数秒で表情がやわらぎ、不安が解消され落ち着きを取り戻した。</p>	<p>傾聴で時間をとれば落ち着きを取り戻せるが、体制上1対1で対応することが不可能。音楽が認識できると、表情がやわらぎ、不安が解消され落ち着きを取り戻した。</p>	<p>音楽がかかり3秒から15秒で音楽に集中できる。その後、20分以上の安心した時間を提供できている。</p>	<p>不穏時の介護方法として、わかりやすい。音楽療法士の職員が5回実施。以前から音楽を使用していたので介護負担は変化なしと記録。</p>
<p>音楽に集中しきれない時は、表情に変化ないが、音楽を感じられると、表情は落ち着いた。</p>	<p>多動で目が離せない状況の際に、イヤホンで音楽を流すが、最初、音楽を認識できず、イヤホンを外そうとするが、続けると音楽を認識し、多動の行為が消えたり、落ち着きが出てくる。しかしあまり長くは保てない。たとえば、座って聞き始めながらズボンを脱ごうとトイレに誘導するとズボンは降ろさず、歌を口ずさんだりするといったように、しっかり音楽に聞き入るといった時間は保てなかった。</p>	<p>多動の行為は減るが、まとまった形にはならず、音楽に集中できなかったようだ。</p>	<p>多動で周囲やケアワーカーも視野に入っていない様子で、一方的に動き回られ、時にエキサイトし不穏感が出てくることが多い方が、jひと時でも音楽を通じて、情緒面での疎通があり、ご本人が落ち着かれる様子が得られ、介護負担の軽減が見られた。</p>



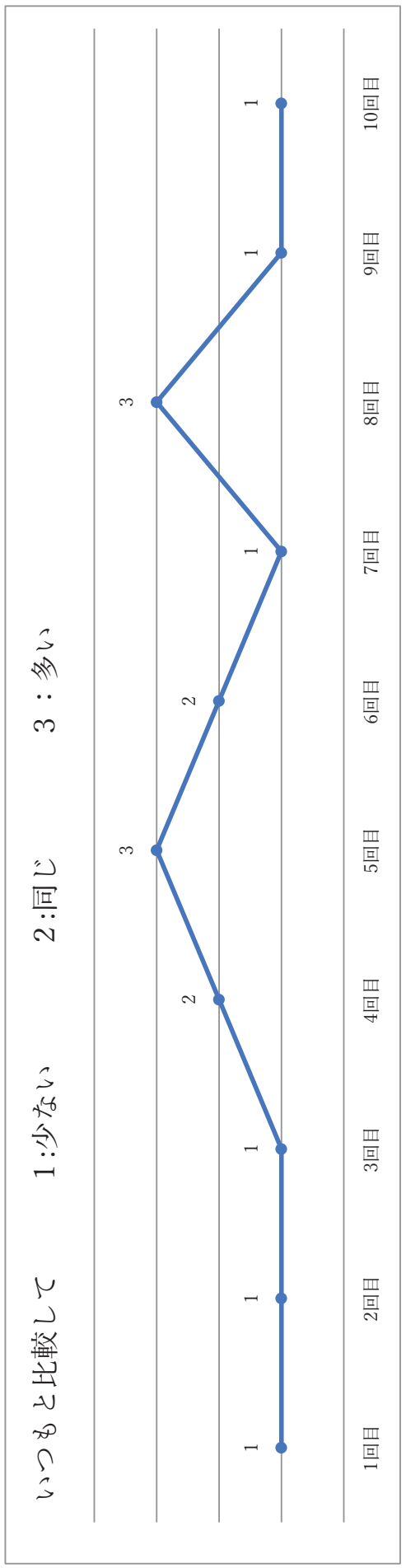
【ケア拒否の行動】



【ケア拒否の言葉の有無】 なし7回 有3回

なし    なし    なし    なし    なし    有    有    なし    なし    なし

【ケア拒否の言葉の量】 少ない6回 同じ2回 多い2回

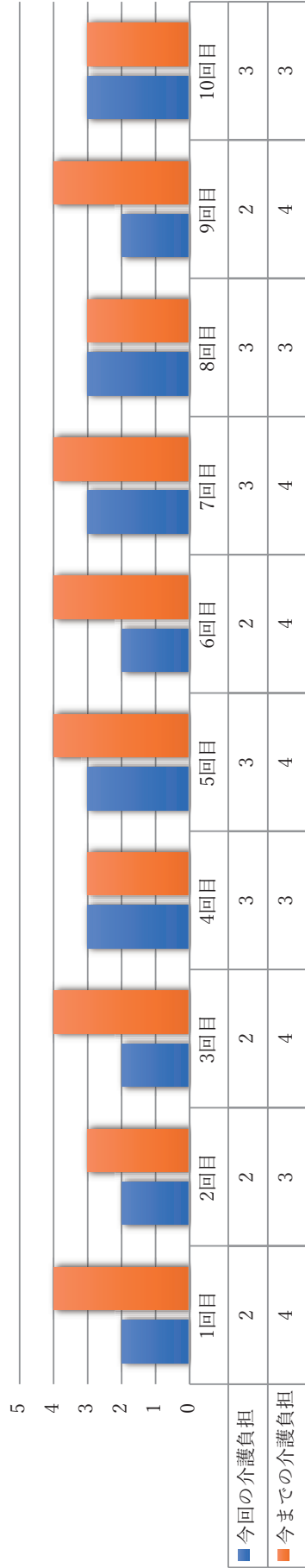


いつもと比較して    1:少ない    2:同じ    3:多い

【職員の気持ち】

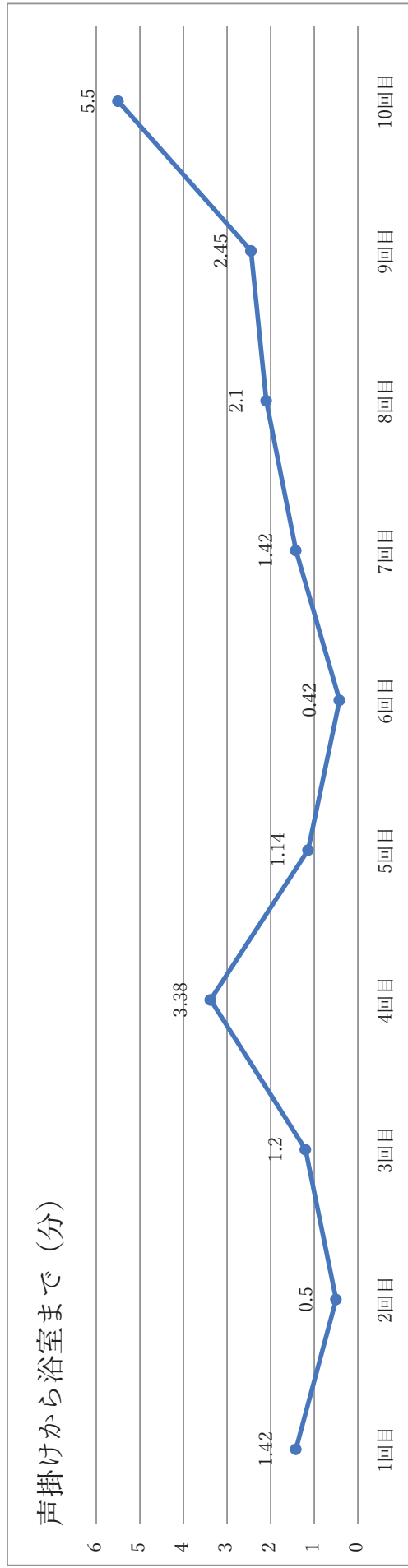
### 職員の介護負担度

軽い 1 - 2 - 3 - 4 - 5 重い



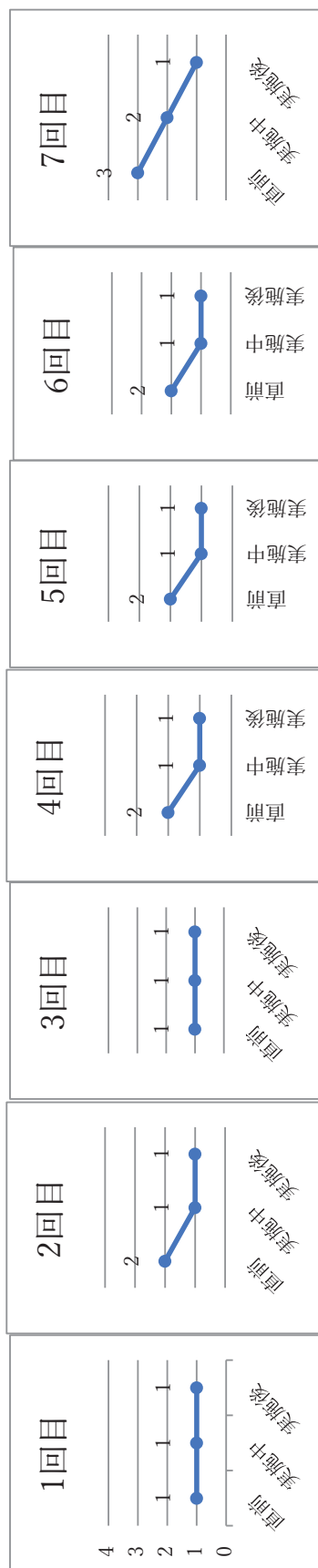
## K・T氏（女性）の参考

【計測時間】

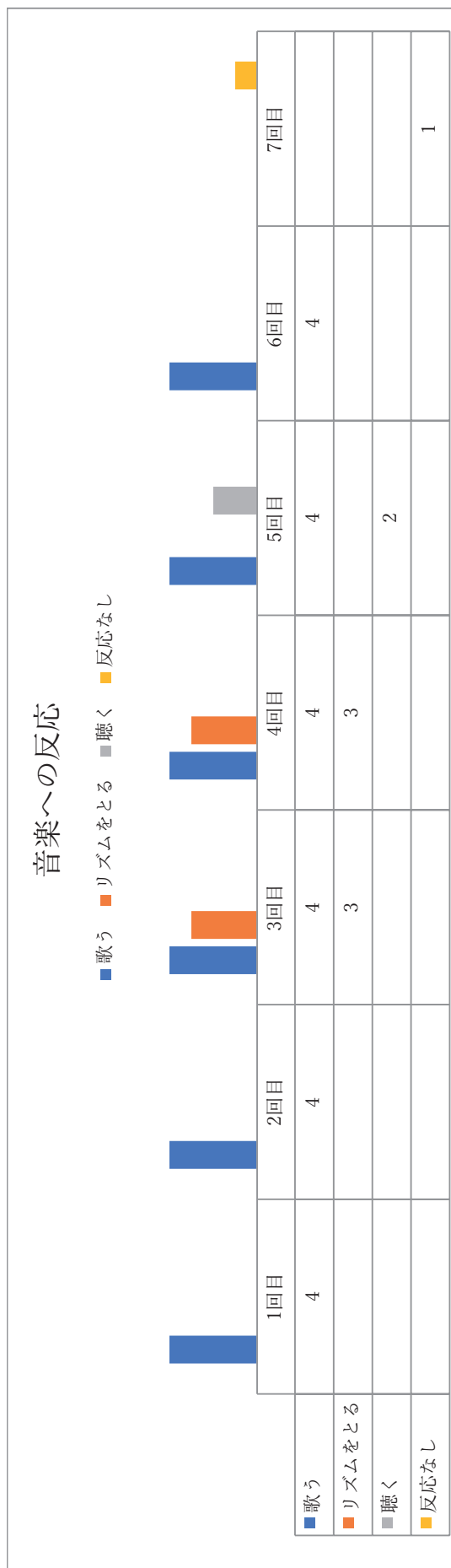


## ② 入浴誘導時拒否 H・E氏(女性) 唱歌と童謡メドレー / CDをかける

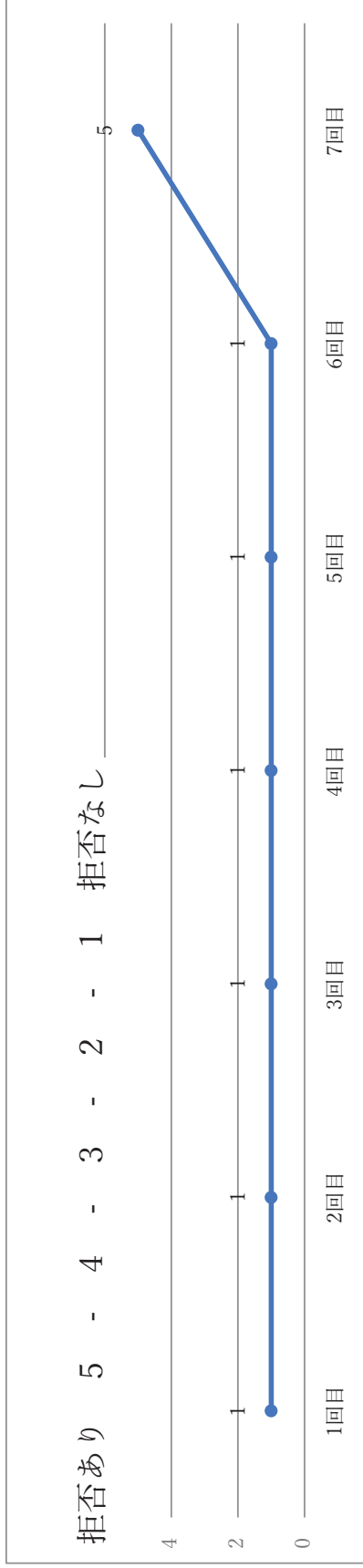
【表情】 3:怒りんぼマーク 2:ふっマーク 1:ニコマーク



【音楽への反応】



【ケア拒否の行動】



【ケア拒否の言葉の有無】

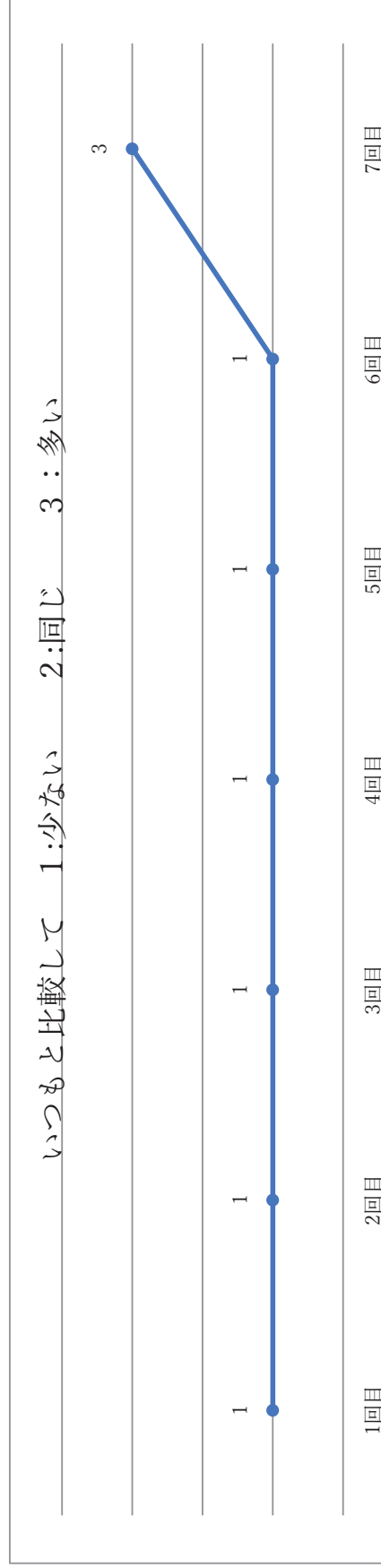
なし6回 有1回

なし なし なし なし なし なし 有

【ケア拒否の言葉の量】

少ない6回 同じ0回 多い1回

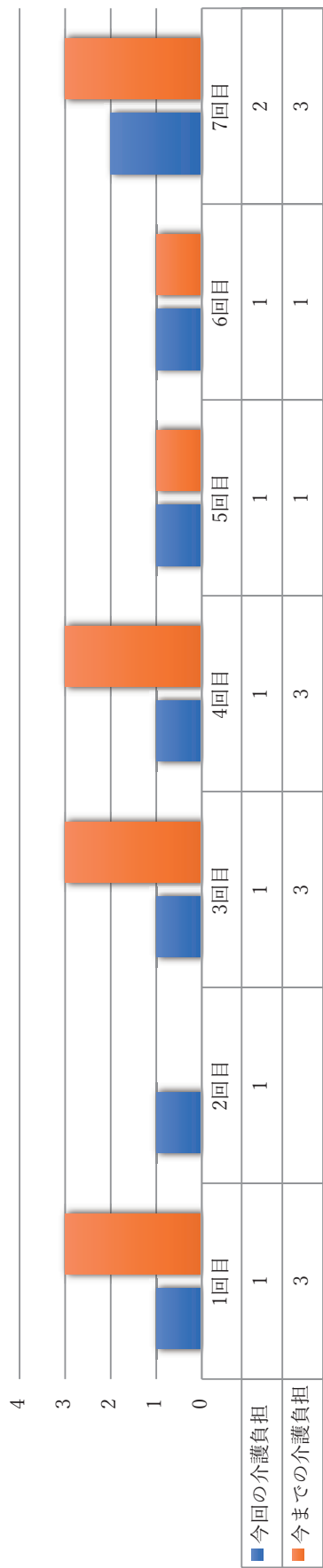
いつもと比較して 1:少ない 2:同じ 3:多い



【職員の気持ち】

職員の介護負担度

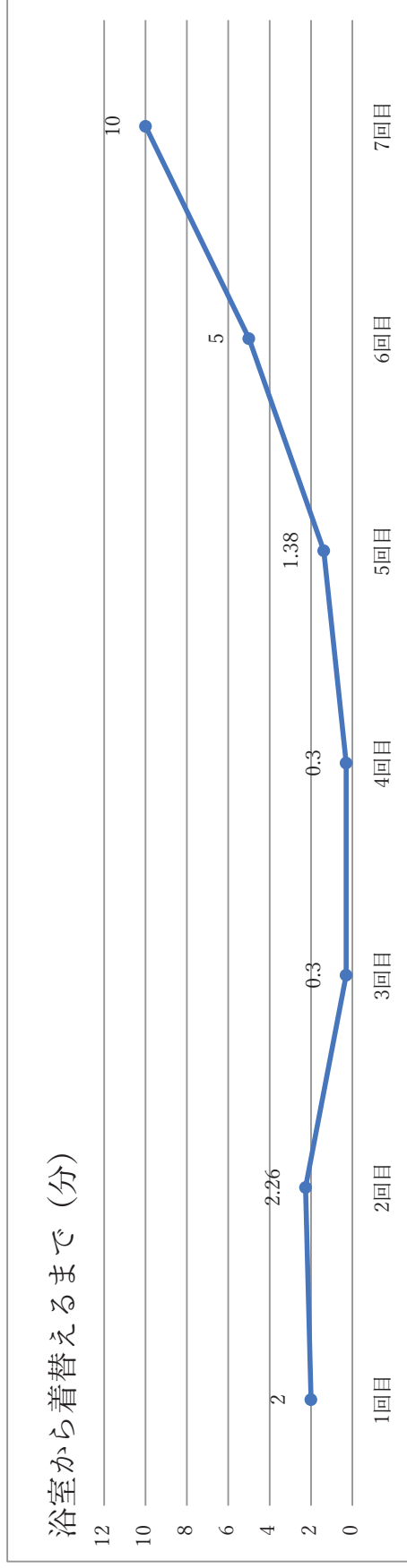
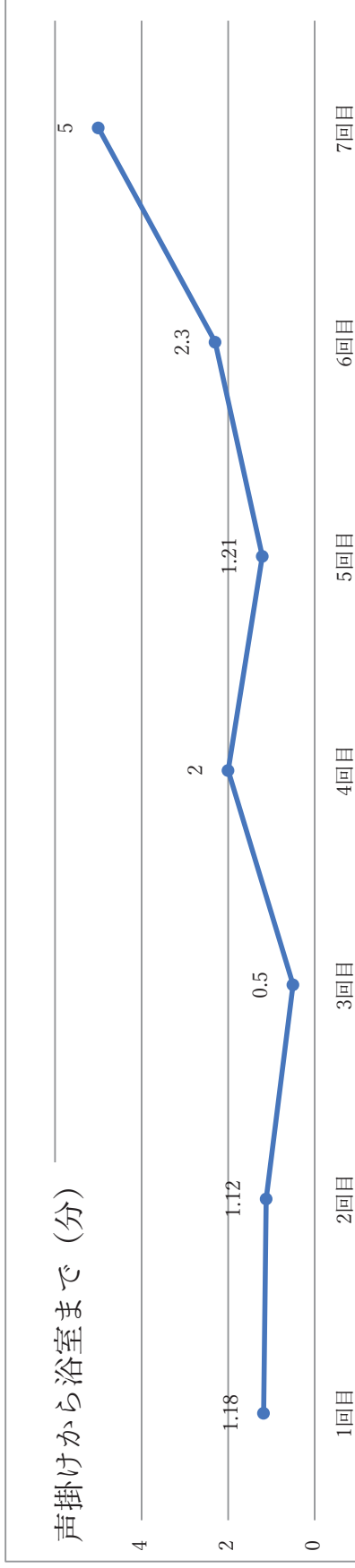
軽い 1 - 2 - 3 - 4 - 5 重い



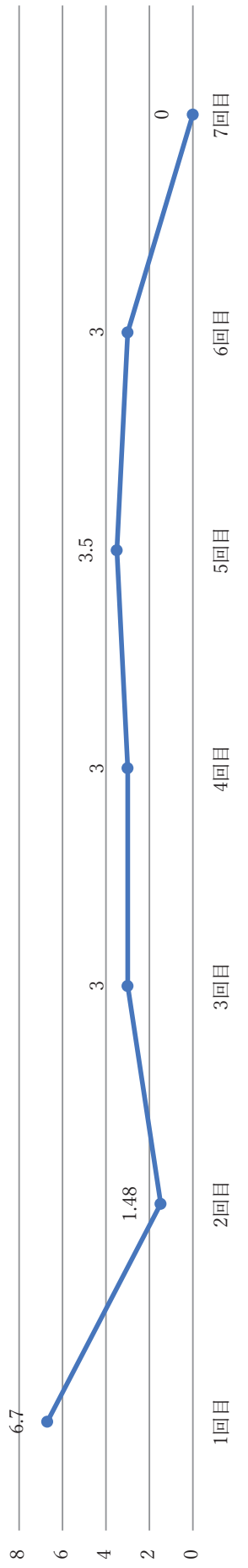


## H・E氏（女性）の参考

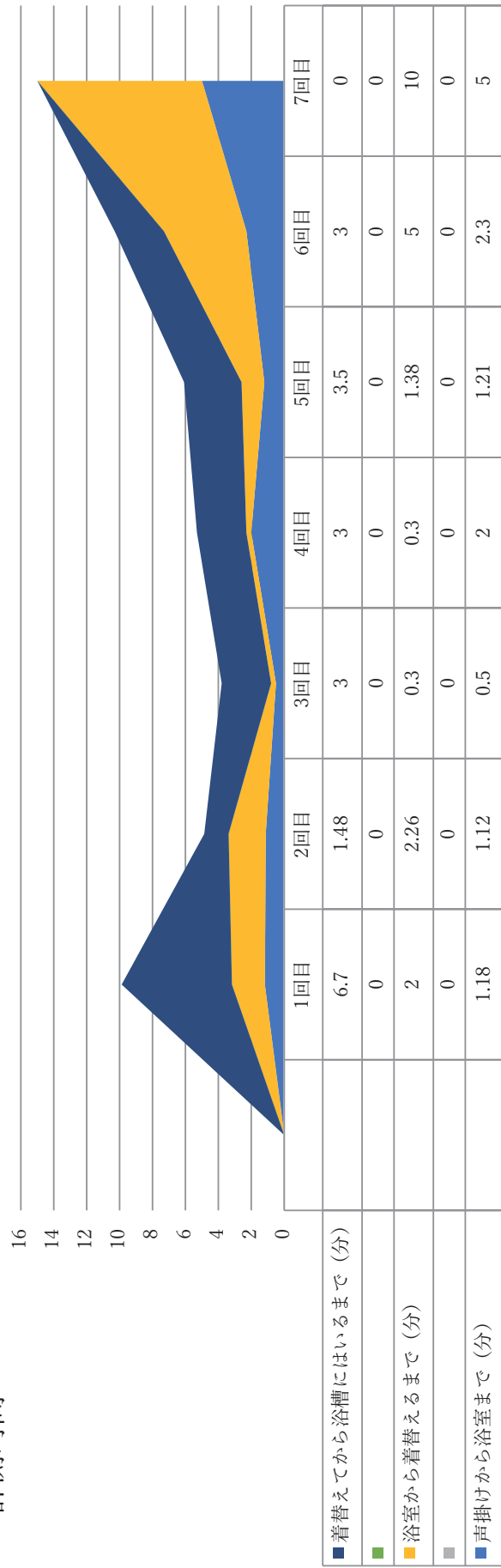
### 【計測時間】



着替えてから浴槽にはいるまで (分)

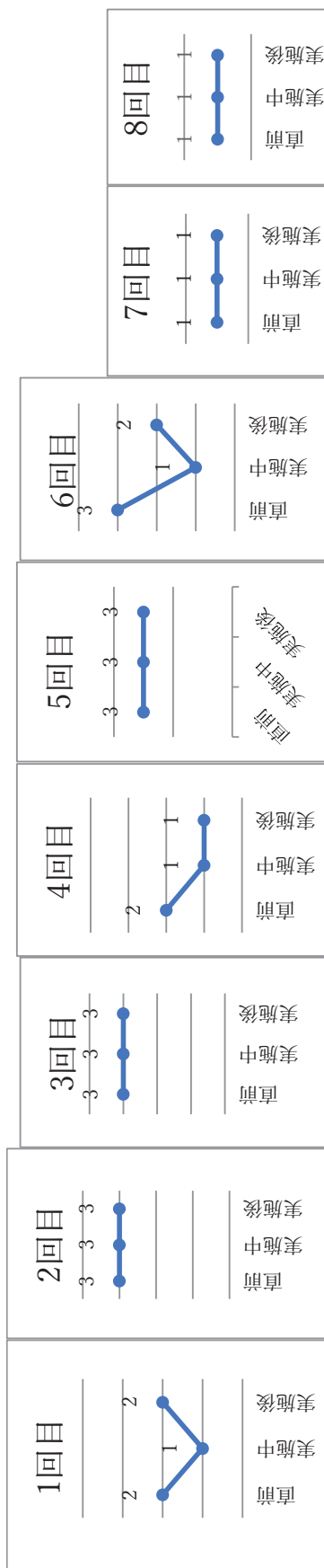


計測時間

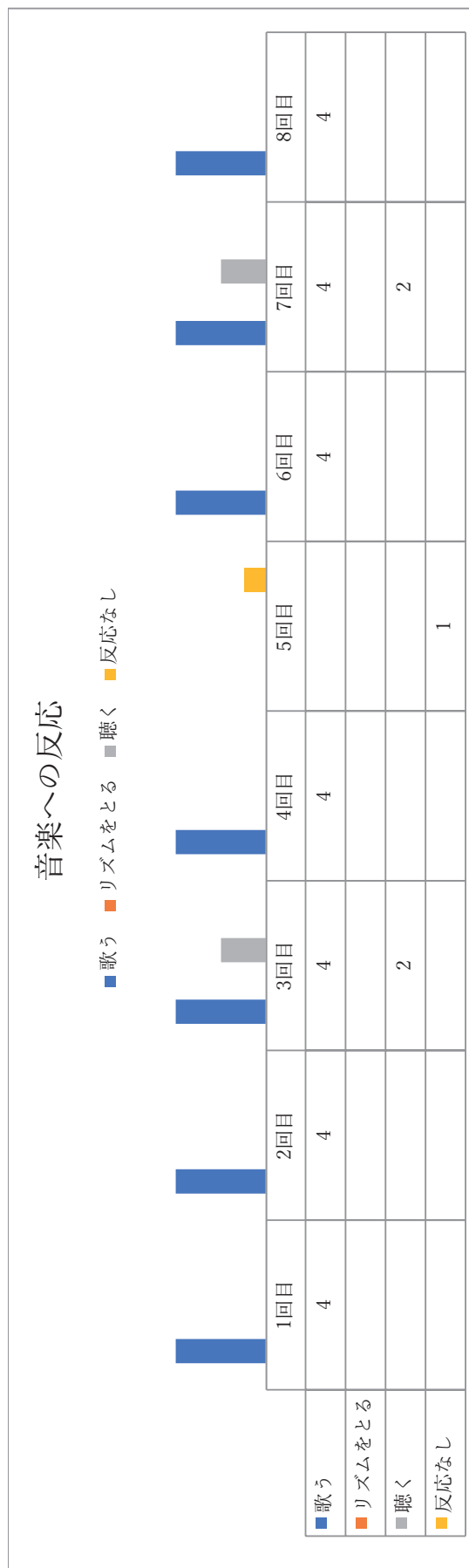


③ 排泄拒否 K・S 氏(女性) 唱歌「ふじの山」 / 一緒に歌う

【表情】 3:怒りんぼマーク 2:ふつうマーク 1:ニコチャンマーク



【音楽への反応】

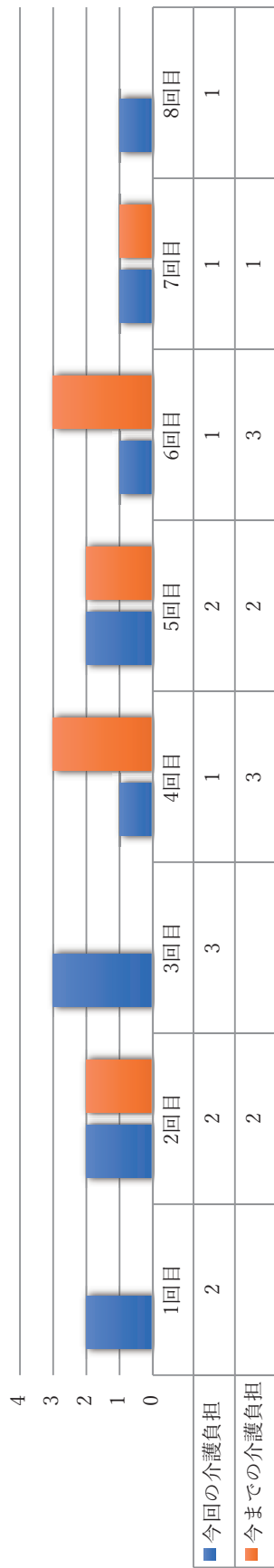




【職員の気持ち】

職員の介護負担度

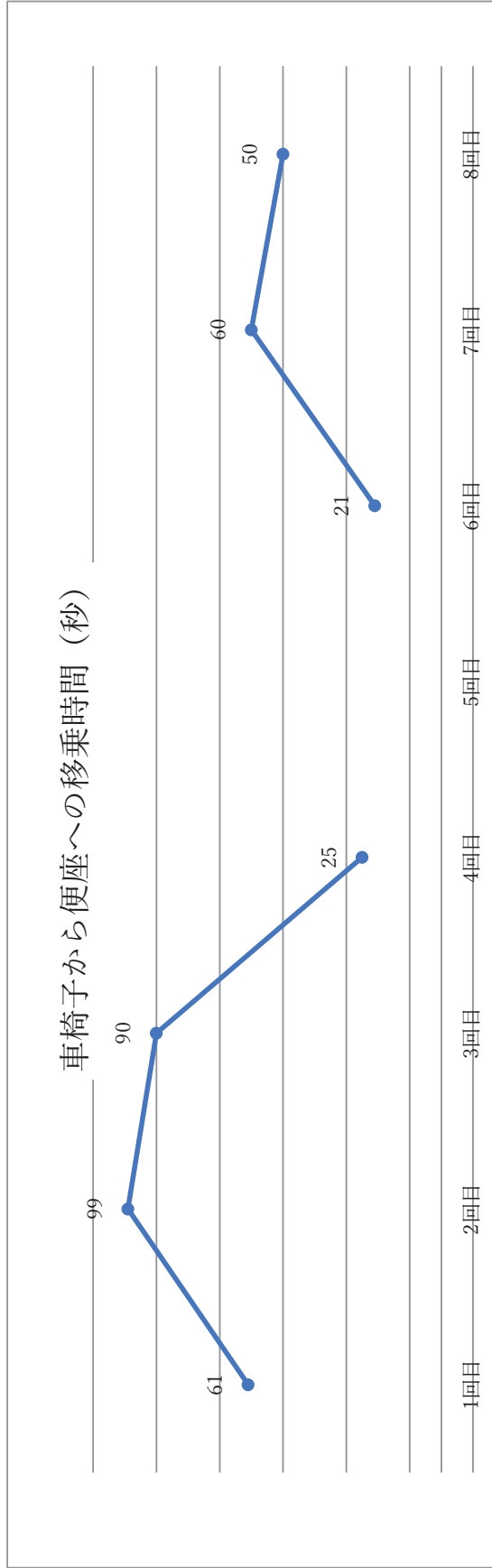
軽い 1 - 2 - 3 - 4 - 5 重い



■ 今回の介護負担 ■ 今までの介護負担

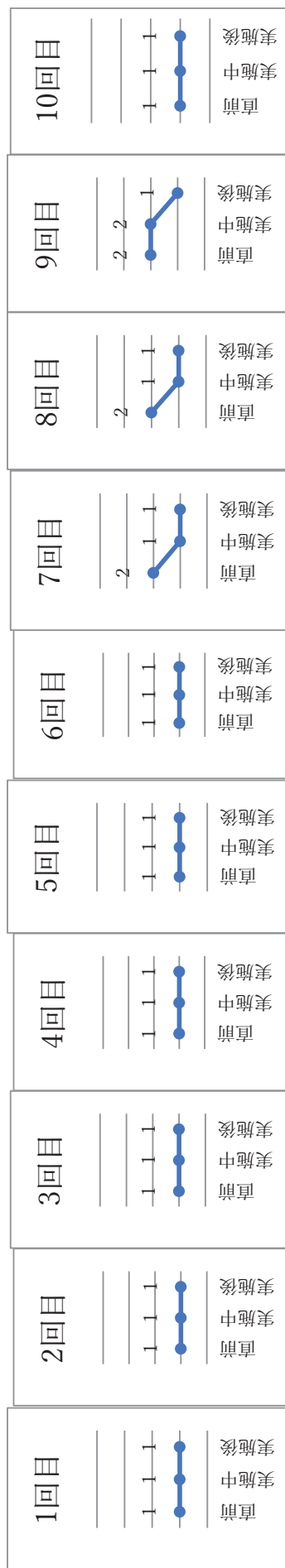
## K・S 氏(女性)の参考

### 【計測時間】

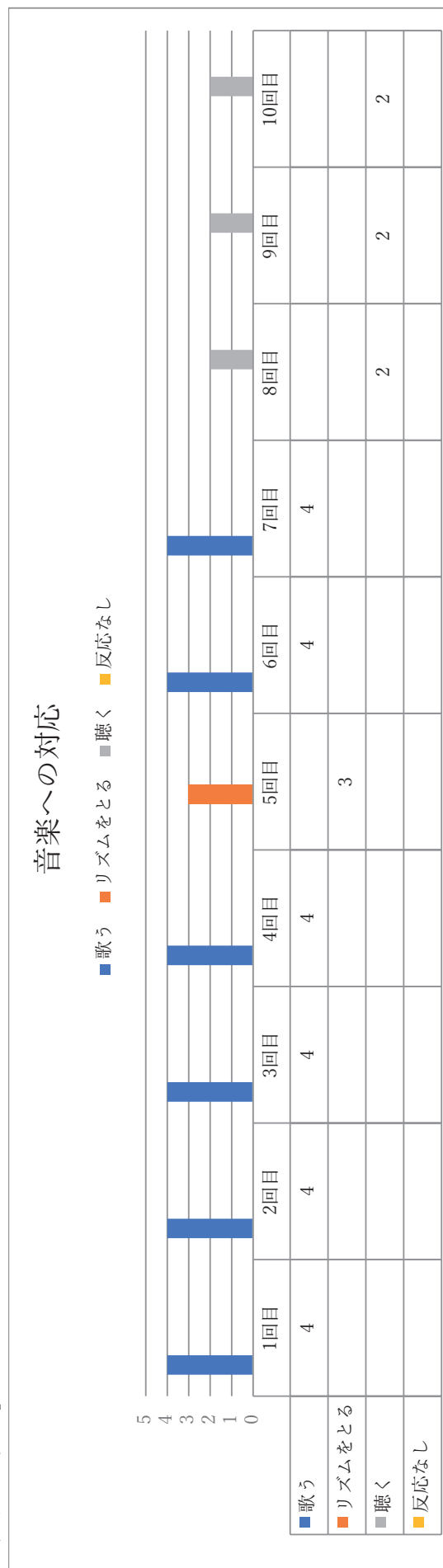


#### ④ 排泄拒否 N・H 氏(男性) ジブシーキングスの曲 / CD をかける

【表情】 3:怒りんぼマーク 2:ふつマーク 1:ニコチャンマーク

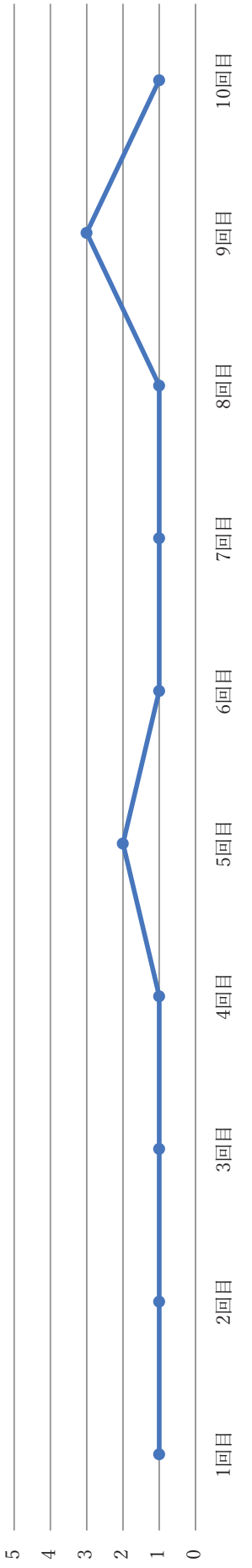


「音楽への反応」



【ケア拒否の行動】

拒否あり 5 - 4 - 3 - 2 - 1 拒否なし



「ケア拒否/痛みの言葉の有無」

なし3回 有 7回

有 なし

なし

有

なし

有

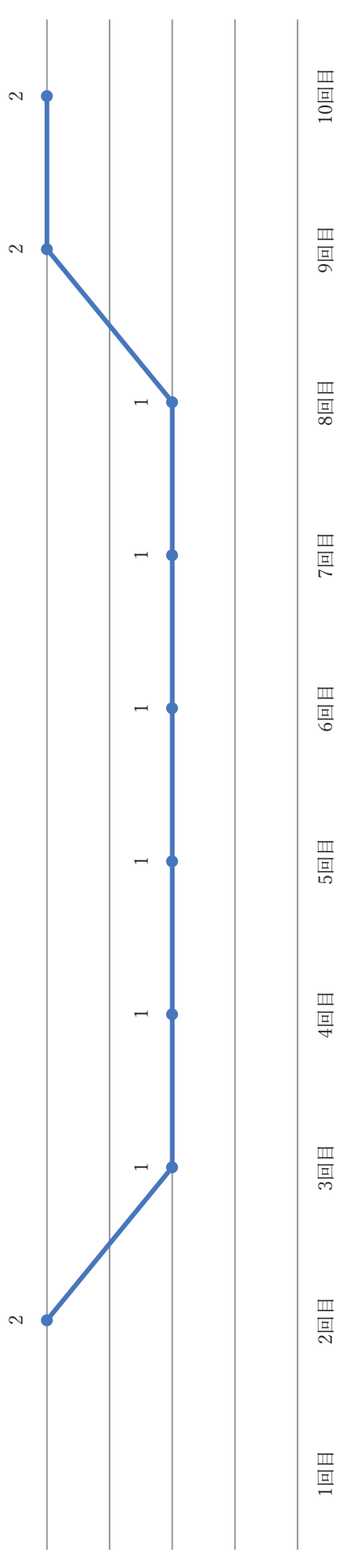
有

有

「ケア拒否の言葉の量」

少ない6回 同じ3回 多い0回

いつもと比較して 1：少ない 2：同じ 3：多い

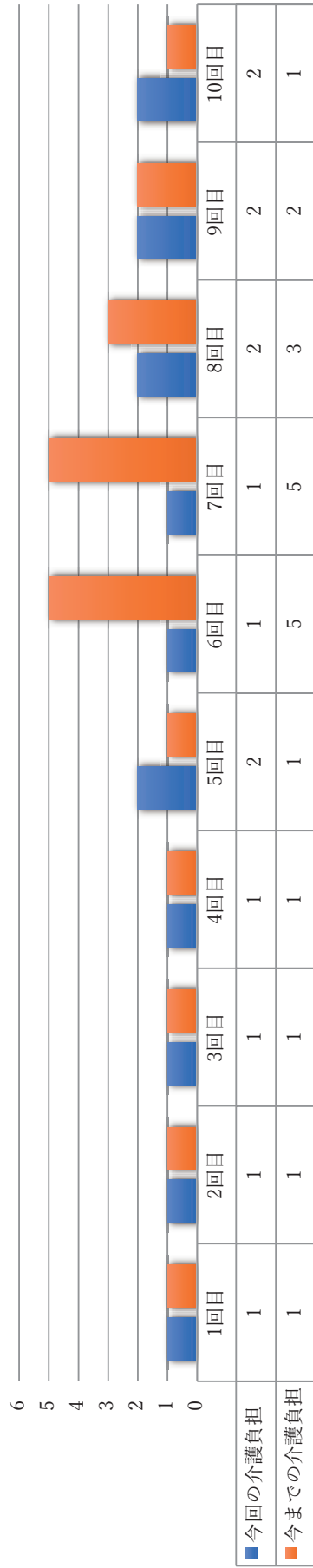




【職員の気持ち】

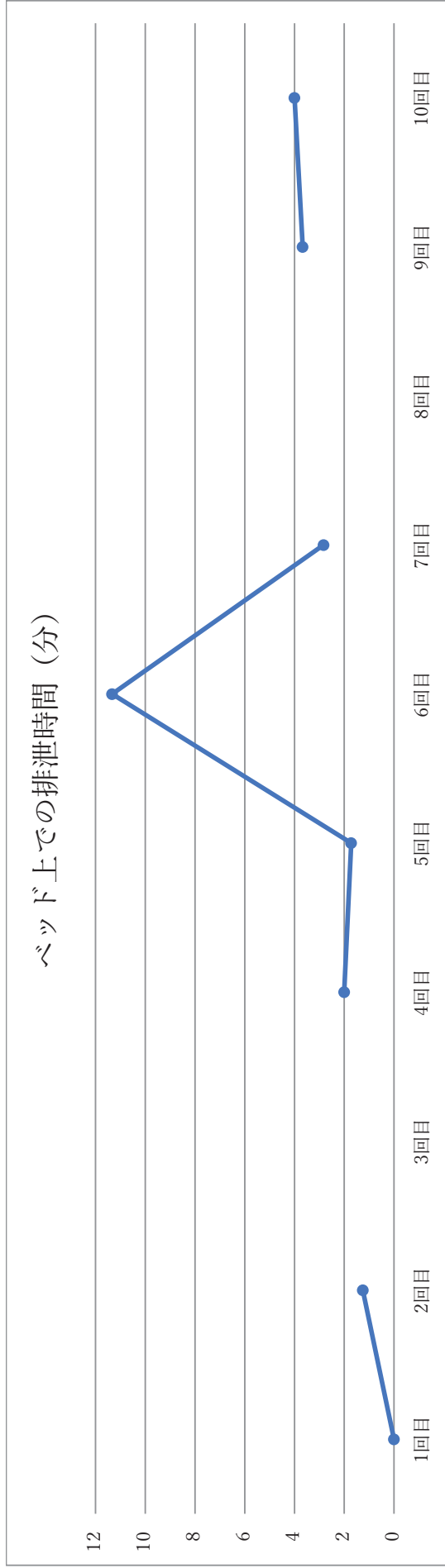
職員の介護負担度

軽い 1 - 2 - 3 - 4 - 5 重い



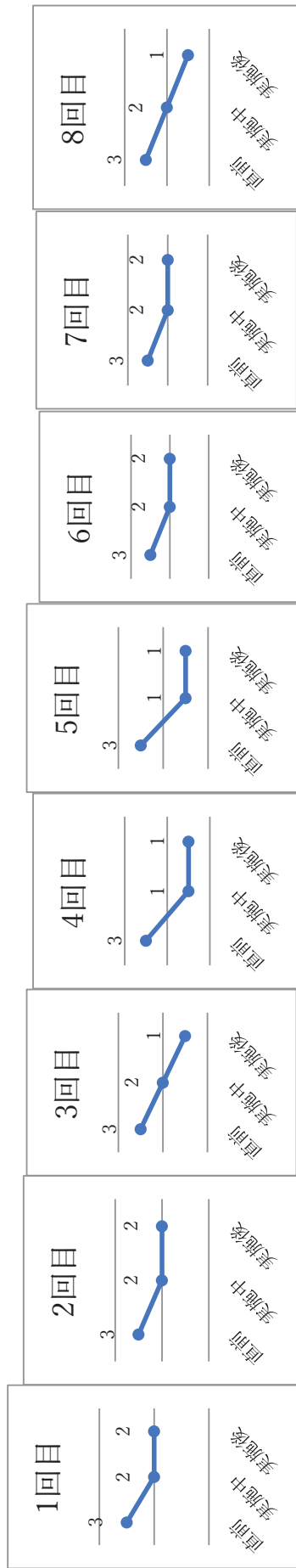
## N・H 氏(男性)の参考

【計測時間】

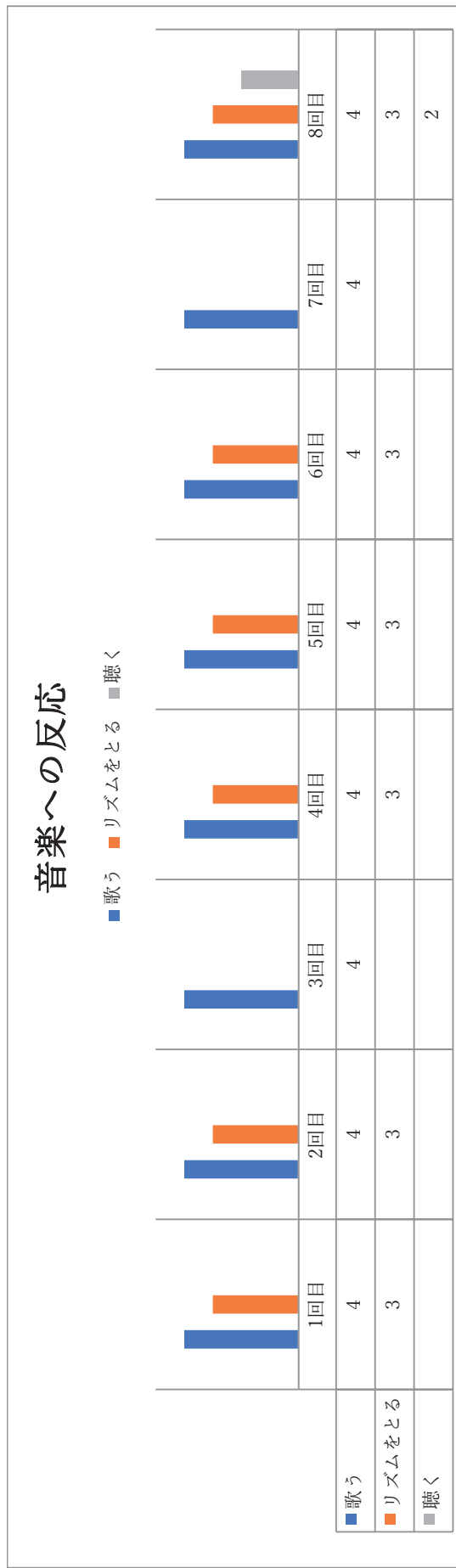


## ⑤ 不穏症状 N・M 氏（女性） 唱歌・童謡メドレー「朧月夜」など / CDをかける

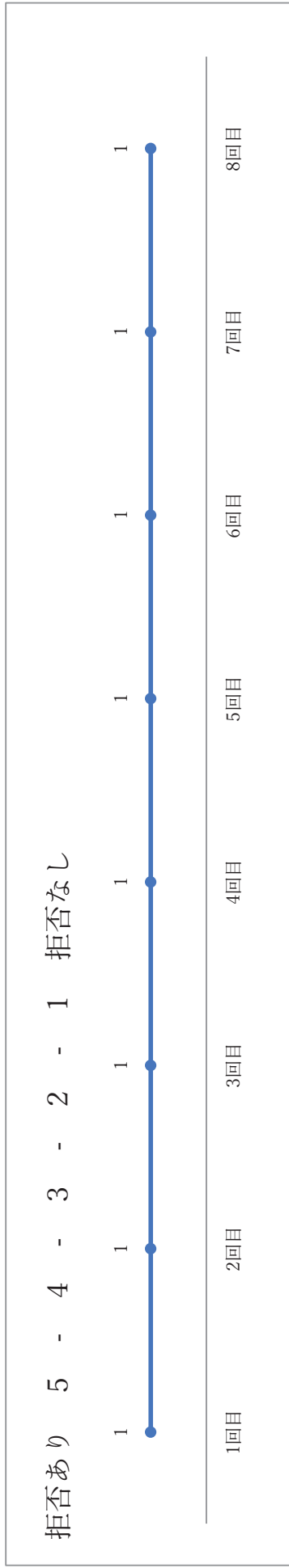
【表情】 3:怒りんぼマーク 2:ふつうマーク 1:ニコチャンマーク



【音楽への反応】



【ケア拒否の行動】



【ケア拒否の言葉の有無】

なし 8回 有0回

なし

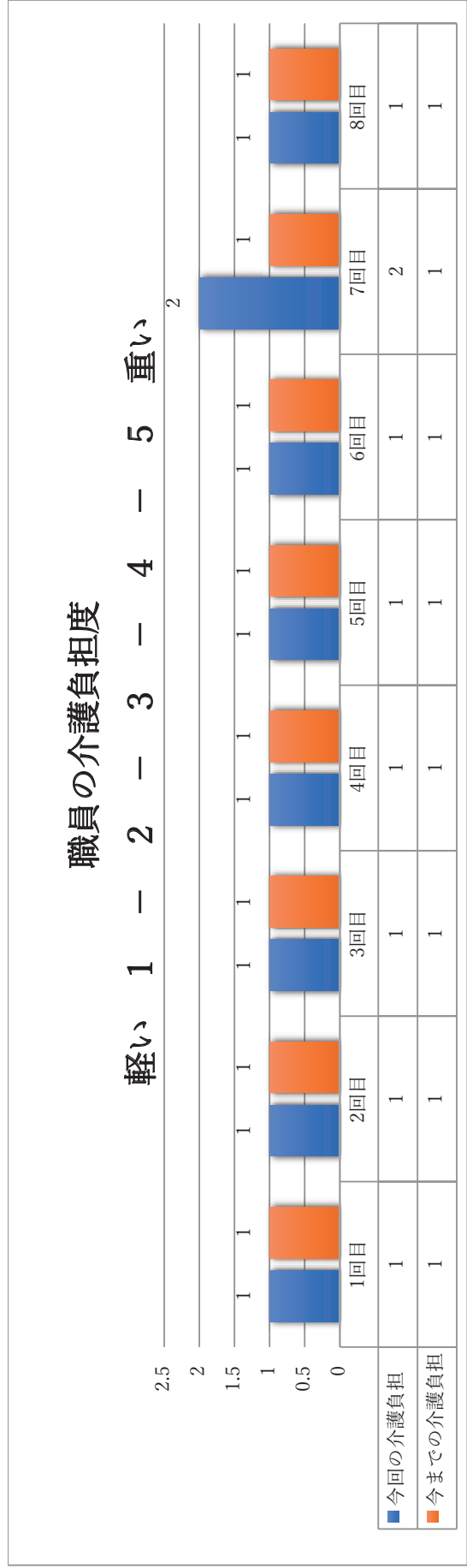
なし

【拒否の言葉の量】

少ないが1回 他記載なし

7回目のみ 少ないとの記載

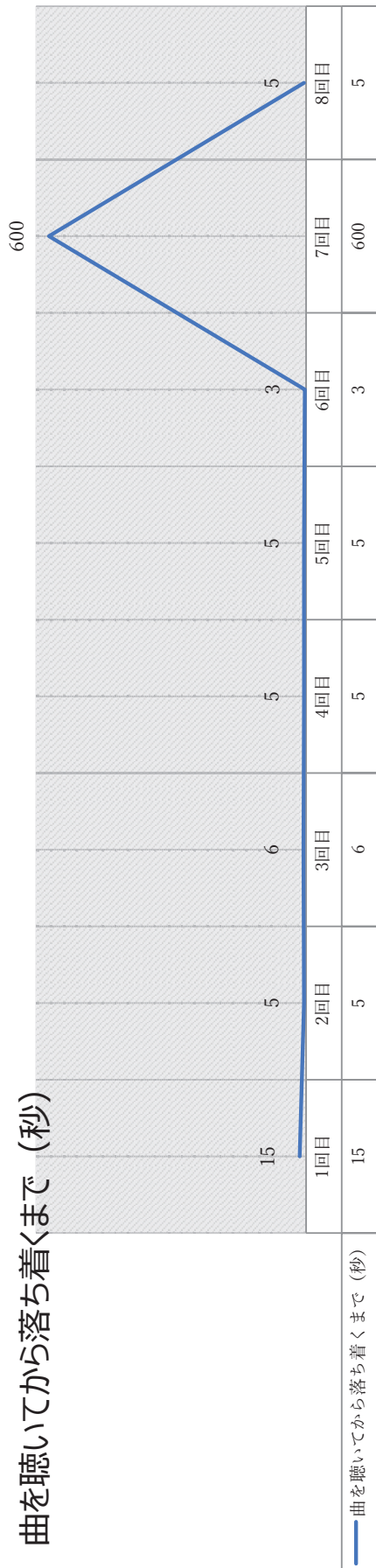
【職員の気持ち】



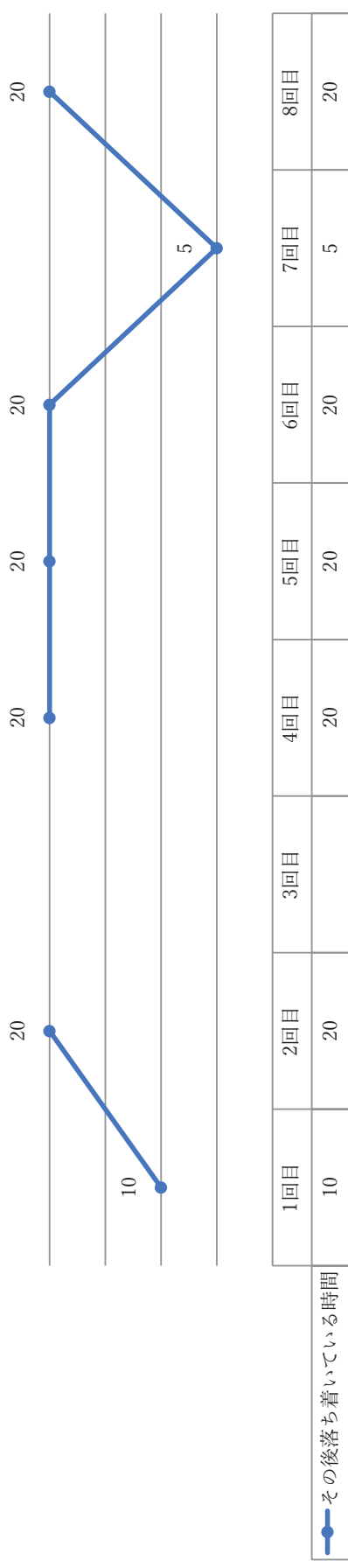
# N・M 氏（女性）の参考

【計測時間】

曲を聴いてから落ち着くまで（秒）

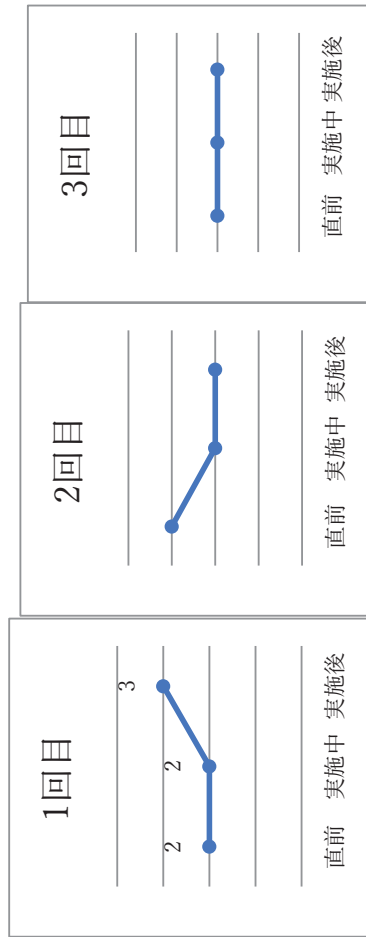


その後落ち着いている時間（分） 20は20分以上

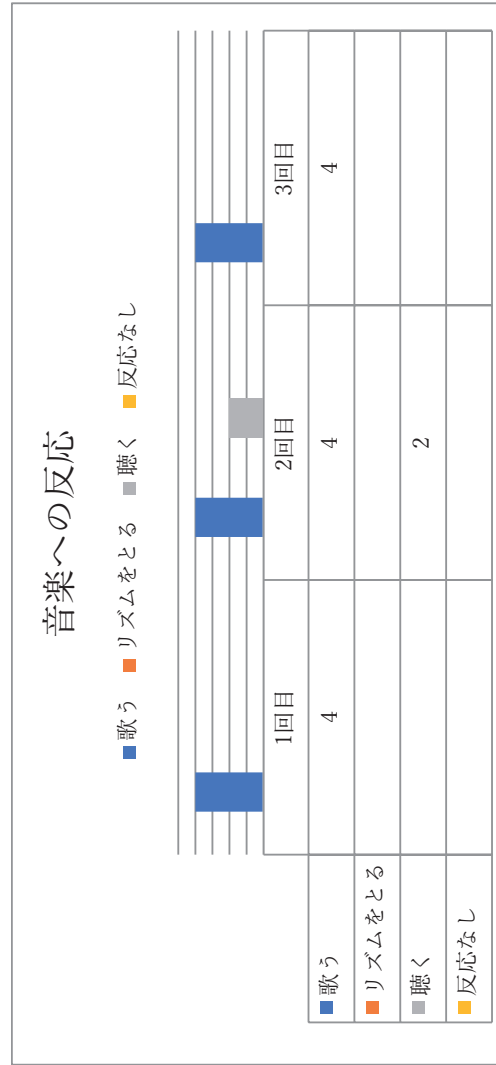


## ⑥ 不穏症状 N・K 氏（男性）石原裕次郎「夜霧よ今夜もありがとう」など / ブルートゥースイヤホン

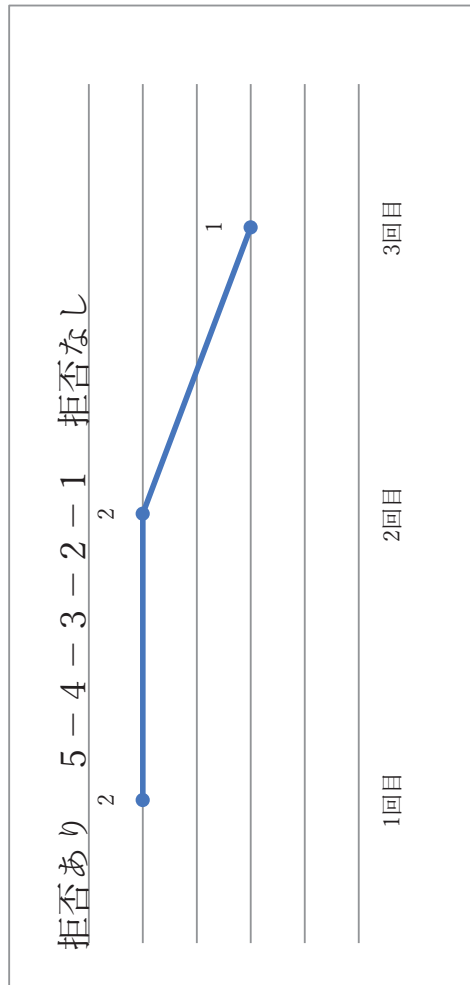
【表情】 3:怒りんぼマーク 2:ふつうマーク 1:ニコチャンマーク



### 【音楽への反応】



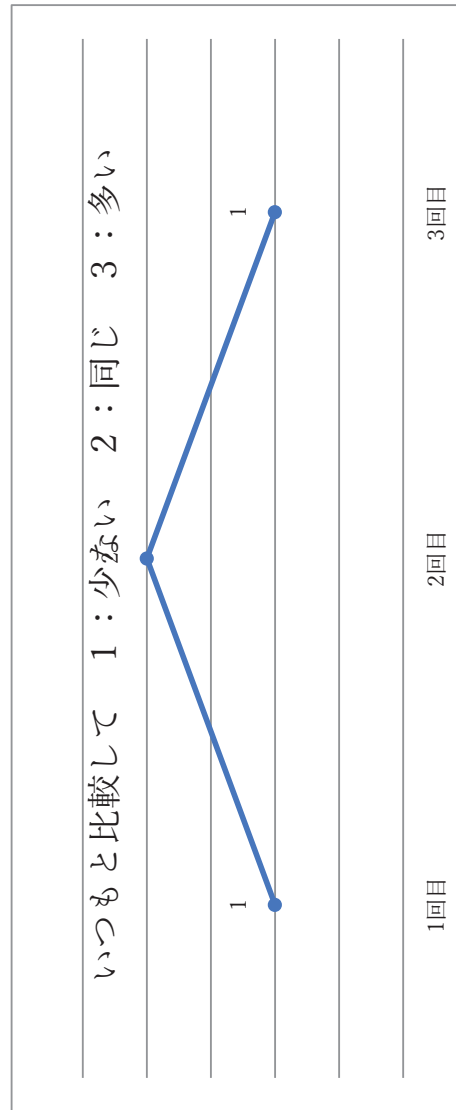
【ケア拒否の行動】



【ケア拒否の言葉の有無】 なし3回 有0回

なし なし なし

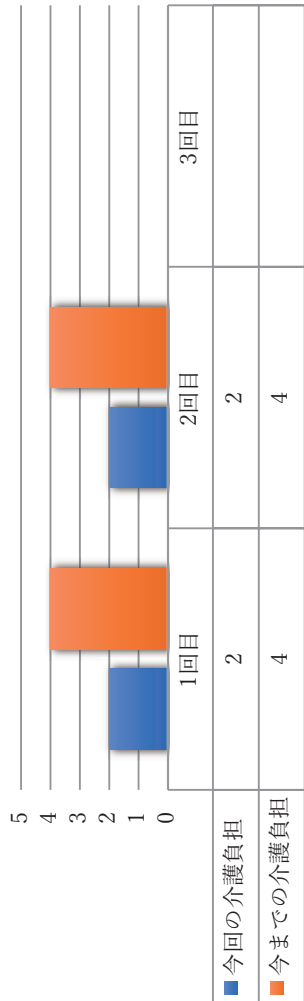
【ケア拒否の言葉の量】 少ない2回 同じ1回 多い0回



【職員の気持ち】

職員の介護負担度

軽い 1-2-3-4-5 重い



■ 今回の介護負担 ■ 今までの介護負担



介護した人の名前 ( )		特記事項、発言、気持ち等を記入					
表情	直前						
	実施中						
	実施後						
ケアの拒否の程度	行動	拒否なし← 1・2・3・4・5 →拒否あり					
	拒否の言葉	有 ・ 無					
	拒否の言葉の回数	いつもより ⇒ 多い ・ 同じ ・ 少ない					
	声掛けから浴室まで	分 秒					
計測時間 *ストップウォッチ*	浴室から着替えるまで	分 秒					
	着替えてから浴槽に入るまで	分 秒					
	反応	歌う・リズムをとる・聴いている・反応なし					
職員の気持ち	今回の介護負担度	軽 ←	1	2	3	4	5 → 重
	今迄の介護負担度	軽 ←	1	2	3	4	5 → 重

上段：1. なかった 2. どちらでもない 3. あった

下段：自由記述

1 回目：○ 2 回目：△

		拒否	表情	場所に行けた	場所に 行くまでの時間	音楽		拒否の言葉
						聞く	歌う	
入浴拒否	2 階	1・2	1・2・3	1・2	1・2	1・ 2	1・2・ 3	1・2
	3 階	1・2	1・2・3	1・2	1・2	1・ 2	1・2・ 3	1・2
排泄拒否	2 階	1・2	1・2・3	1・2	1・2	1・ 2	1・2・ 3	1・2
	3 階	1・2	1・2・3	1・2	1・2	1・ 2	1・2・ 3	1・2
不穏症状	2 階	1・2	1・2・3	1・2	1・2	1・ 2	1・2・ 3	1・2
	3 階	1・2	1・2・3	1・2	1・2	1・ 2	1・2・ 3	1・2

## 認知症介護に音楽を活かす

### —特別養護老人ホーム「かないばら苑」依田明子施設長に聞く

#### 〈音楽へのこだわり〉

当施設では私（依田）がこの研究会（音楽運動療法研究会）に参加する以前から、職員が自発的に高齢者介護に使おうという動きはありました。一般的にも認知症の高齢者、あるいは認知症予防には「音楽回想法」が効果がある、と言われていています。職員が音楽を使うようになったのはデイサービスの利用者や特養の入居者の精神状態の改善に効果があるからです。具体的にお話しするとわかりやすいかと思います。

#### 〈不穏の程度が上がっているOさんの場合〉

ショートステイを利用されている80代前半の男性です。この方はショートステイに来て、玄関のところで「帰りたい！」と怒鳴ったり、ときにはドアをガタガタさせます。出雲地方の小学校のご出身ということを知っていた職員が、アイパッドでその校歌を検索してOさんに聞いてもらおうと、Oさんは一緒に歌いだして不穏な行動は収まり、気分は切り替わりました。中学も校歌も検索して聞いてもらおうと同様な効果がありました。音楽によって利用者の精神状態を改善させるというのは、不穏な状態に付き合うだけでなく、意図的に軽減させていくことが可能だと思えます。

#### 〈マイソングについて〉

「マイソング」について少し説明しましょう。私たちは「高齢者というと演歌、歌謡曲を好む」という先入観を持ちがちですか、この研究会のリサーチでも高齢者の音楽の好みは非常に多様化していることが分かりました。それで研究会としては個別の高齢者が特に好み「こだわり」を持つ楽曲を「マイソング」と名付けました。Oさんの場合は小学校、中学校の校歌が「マイソング」になります。

#### 〈アイパッドやスマホの活用でマイソング検索は容易に〉

研究会のなかで分かったのは「アイパッド」やスマートホンを活用することによって、利用者の「マイソング」を容易に検索できることです。「フラッシュソングセラピー」というアプリやauの「ウタパスライブラリー」がありましたが、職員によっては使い勝手が悪いということもあったようです。操作性はもっと改善されるだろうと期待しています。

それと音楽の提供の仕方も、サビ（その曲の一番代表的な盛り上がる部分）から入るとか、ブルトウスイヤホンで聞くようにすると、より効果があがります。いずれにしても利用者本人の理解を深めた上で介護に音楽を活用するのが前提です。

音楽の活用だけでなく、「ITを賢く利用する」というのがこれからの高齢者介護の一つの方向だと思えます。そのためにも使い勝手を良くすることが期待されます。

### 〈音楽ボランティアの活用〉

当施設には様々な音楽ボランティアが訪問してくれています。そうした中で感じるのは「一流のモノはまず OK」なんです。入居者、利用者の方は聞き分ける力を持っている。それでは一流でなければダメかというところでもない。音楽と一緒に楽しむ形で提供するとほぼ成功します。「聴かそうとする」のはウケません。「聴かすは一部で半分は参加」ぐらいがいいです。参加を促すボランティアの「口上」も大事ですね。こうしたイベントを高齢者施設の側が作っていくことによって利用者、入居者の「生活の質」が上がると考えています。感染症によって 1 カ月くらいボランティアがストップすることがあると、利用者や入居者だけでなく職員も音楽ボランティアを待ち望みます。

利用者、入居者の「生活の質」はボランティア、地域の人々に支えられていると言っても過言ではありません。暮らしの楽しみは生きる力となるのです。財政的な要因によって介護報酬はなかなか上げられない、現場の人材不足はなかなか埋まらない。そうしたとき、ボランティア含めて地域が「寄ってたかって」支援していかないと、質の伴った介護の仕事は続けられないのではないのでしょうか。

### 〈音楽療法の位置付け〉

音楽療法是介護保険の対象となっていませんが、研究会の研究成果でも入居者や利用者の問題行動の抑制に効果があると実感しました。認知症の症状の軽減、認知症予防にも効果が見られます。今後の課題としてしっかりとエビデンスを確認したうえで、厚生労働省への働きかけも必要となってくるでしょう。ただ現在の介護現場における音楽療法には「制度に縛られない」ために、逆に自由さがあり職員の創意工夫が活かされる面もあります。そこは残しておきたいし、むしろ伸ばして行きたいところです。

介護現場での人手不足と音楽療法については簡単に結論を出せない問題です。しかし私どもの経験からは、音楽療法を上手に活用することによって、利用者の問題行動などを抑制できれば、職員の介護負担の軽減に役立つことが判っています。人材定着の一助にもなるでしょう。また、必ずしも専門職でなくとも例えばボランティアでも音楽を通じて見守りの役割を果たせると思います。

当施設では、引き続き介護に音楽を活かす方途を模索していくことにしています。

# アンケート調査結果

結果概要

集計表

病院

病院(位置づけ別)

特別養護老人ホーム

特別養護老人ホーム(位置づけ別)

老人デイサービスセンター

老人デイサービスセンター(位置づけ別)

調査票

## 音楽運動療法の在宅普及方策に関するアンケート調査(事業者向け)結果概要

### 1 調査概要

#### (1)調査対象

日本病院会または全国老人福祉施設協議会に加入している

1都3県の病院、特養、老人デイサービスセンター 計1564事業所

#### (2)調査方法等

調査票を郵送(2017年11月10日)、返信用封筒で回収

回収数 342 回収率 21.9% (2018年12月現在)

送付数：【病院】550【特別養護老人ホーム】489【老人デイサービス】525【合計】1564

回答数：【病院】90【特別養護老人ホーム】123【老人デイサービス】127【その他の高齢者施設】2【合計】342

回答率：【病院】16.3%【特別養護老人ホーム】25.2%【老人デイサービス】24.2%【合計】21.9%

### 2 結果の概観

#### 【病院】

90のうち56は音楽を取り入れており、うち19は音楽療法として位置付けている。

このうち音楽療法士を置いているのは12、その他言語聴覚士3、理学療法士4、作業療法士4、柔道整復師などを置いている。

音楽を取り入れているが音楽療法として位置付けていないのは37。

このうち、言語聴覚士を置いているのが13、理学療法士が13、作業療法士が19。

音楽療法士を置いているところはなかった。

音楽療法を行っていないと回答したのは34。(以下、集計からは除外)

#### 【特別養護老人ホーム】

123全てで音楽を取り入れており、音楽療法として位置付けているのは76、位置付けていないのは47。

音楽療法として位置付けている76のうち、37は音楽療法士を置き、8はその他の音楽の専門家を置くか招いている。

#### 【老人デイサービスセンター】

127全てで音楽を取り入れており、音楽療法と位置付けているのは61、いないのは66。

音楽療法と位置付けている61のうち、音楽療法士を置いているのは20。

### 【対象者/人数】

病院では患者、特養・老人デイでは要介護者・要支援者が中心となる。  
病院では患者のほか要介護者・要支援者・障害児も対象としており、小集団が多い。  
個別（一対一）も4割程度ある。  
特養では要介護者が多く、おおむね中集団・大集団で行われている。  
老人デイでは要介護者と要支援者が半々で大集団実施が半数を超える。

### 【時間/頻度】

1回の実施時間は15分以下から60分程度まで、頻度も毎日から月1回程度まで、非常にばらつきがある。特養では30分から60分が最も多く、老人デイでは15分から30分、毎日実施が最も多い。

### 【音楽の具体的方法/音源】

音楽の具体的方法は、歌唱、カラオケ、音楽鑑賞、利用者による楽器演奏等多様で、音源も、生演奏、CD、カラオケ装置等に分散している。  
音楽療法として位置づけを行っているところでは歌唱/生演奏が多く、行っていないところでは音楽鑑賞/CDが多くなる傾向が見て取れる。

### 【音楽と一緒にやっている運動・身体活動】

手叩き、歌体操、足踏みがほぼ同程度に多い。その次に位置するのは、病院では楽器活動とストレッチ、特養では口腔体操と楽器活動、老人デイではストレッチと口腔体操となっている。  
また、音楽療法として位置づけを行っているところでは行っていないところよりも音楽と一緒に運動・身体活動を行っている割合が、どの類型でも高くなっている。

### 【音楽を用いることの効果】

身体面、精神面、社会面に分類して質問したところ、病院（音楽を採り入れていないものを除く）、特養、老人デイいずれにおいても90%前後の高率で効果を認めている。

その順番は、精神面、身体面、社会面になっている。

音楽療法として位置づけを行っているか否かで分けてもこの傾向は変わらないが、位置づけを行っているところではさらに効果を認める率が高くなる傾向にある。

（精神面については、位置づけを行っている病院、特養では100%が効果を認めている。ただし、老人デイでは位置づけを行っていないところが100%で、位置づけを行っているところを上回っている）

# 集計表

## 病院

1. 事業の概要についてお伺いします

データ数

90

1) 事業類型

病院 (複数回答)					
① 一般	② 回復期	③ 療養	④ 精神	⑤ その他	病院合計数
64	29	27	6	11	90

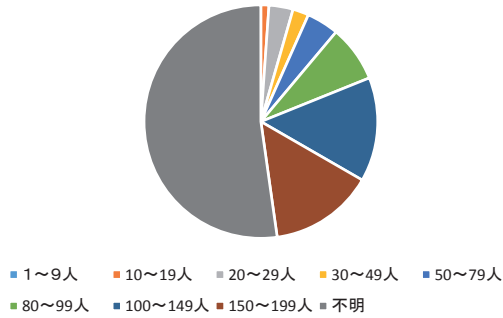
2) 全体の利用者数 (入院病床数、定員数など)

1～9人	10～19人	20～29人	30～49人	50～79人	80～99人	100～149人	150～199人	不明
0	1	3	2	4	7	13	13	47
0.0%	1.1%	3.3%	2.2%	4.4%	7.8%	14.4%	14.4%	52.2%

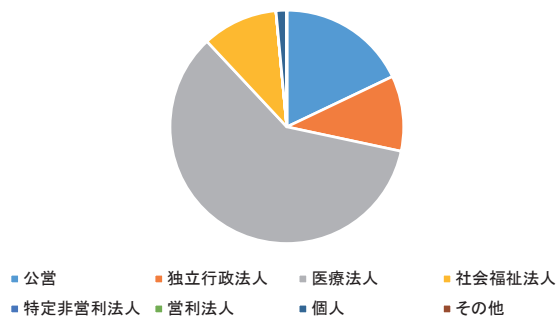
3) 運営主体

公営	独立行政法人	医療法人	社会福祉法人	特定非営利法人	営利法人	個人	その他
12	7	40	7	0	0	1	0
13.3%	7.8%	44.4%	7.8%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%

2) 全体の利用者数(入院病床数、定員数など)



3) 運営主体





2. ケア・サービスに音楽をどのように採り入れていますか

1) 対象はどのような方ですか？

患者	要介護	要支援	障害児・者	児童	胎児	一般	特に制限なし
49	15	9	8	2	0	1	3
54.4%	16.7%	10.0%	8.9%	2.2%	0.0%	1.1%	3.3%

2) 一回の支援で対象とする人数はどのくらいですか？

個別（1人）	小集団（2～9人）	中集団（10～19人）	大集団（20人以上）
25	27	15	9
27.8%	30.0%	16.7%	10.0%

3) 音楽の具体的方法は何ですか？

音楽鑑賞	歌唱	カラオケ	楽器活動	その他
34	36	19	15	12
37.8%	40.0%	21.1%	16.7%	13.3%

4) ケア・サービスに使っている音楽の音源は何ですか？

生演奏	CD	カラオケ装置	タブレット端末	その他
25	39	15	8	9
27.8%	43.3%	16.7%	8.9%	10.0%

5) 音楽と一緒にやっている運動・身体活動は？

歌体操	楽器活動	手叩き	足踏み	ストレッチ	ヨガ	口腔体操	その他
19	13	29	17	12	2	8	9
21.1%	14.4%	32.2%	18.9%	13.3%	2.2%	8.9%	10.0%

6) 時間はどの位ですか？

5分以内	5分～15分	15～30分	30～60分	60分以上
8	14	19	14	7
8.9%	15.6%	21.1%	15.6%	7.8%

7) 頻度はどの位ですか？

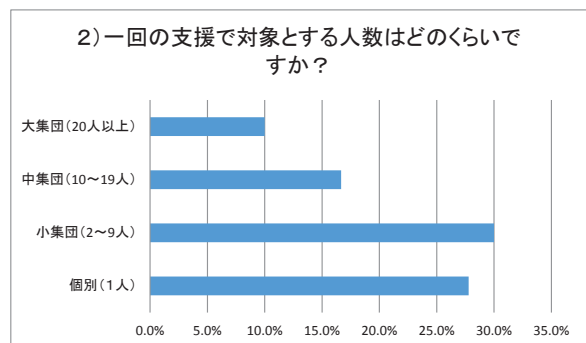
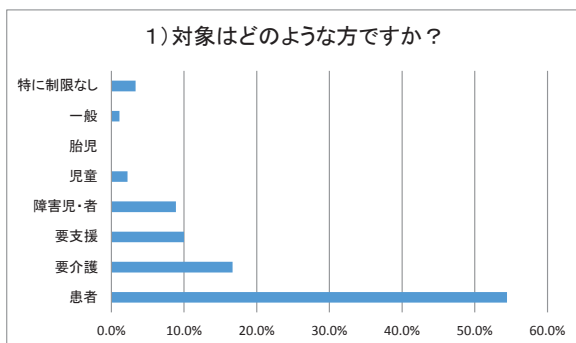
毎日	週2～3回	週1回	2週に1回	月1回	年数回
17	14	11	7	9	6
18.9%	15.6%	12.2%	7.8%	10.0%	6.7%

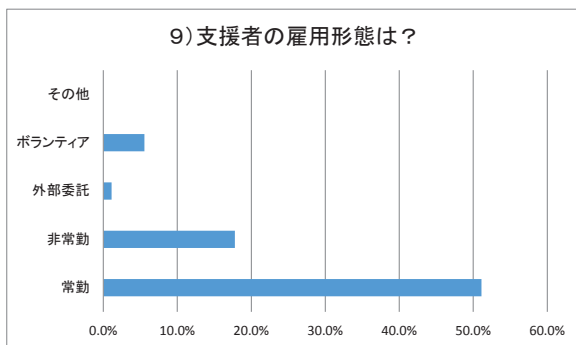
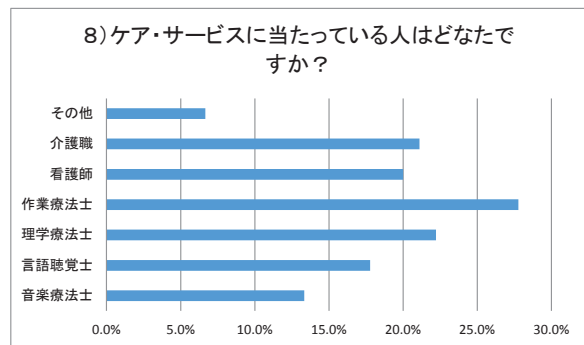
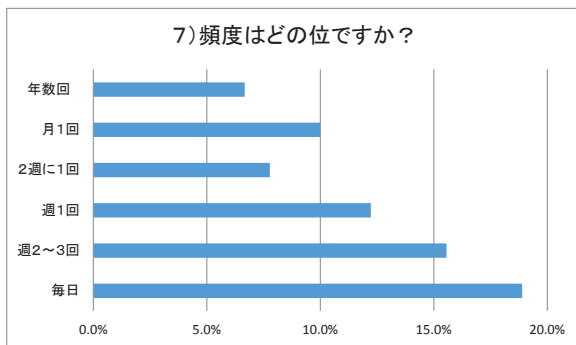
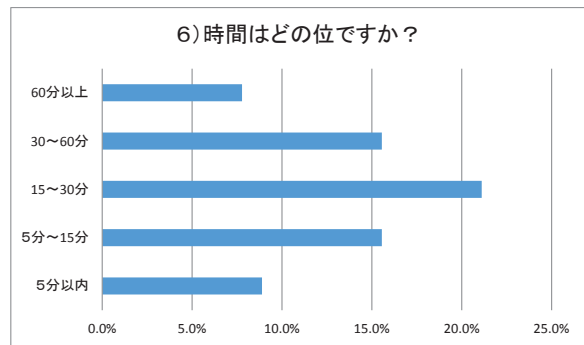
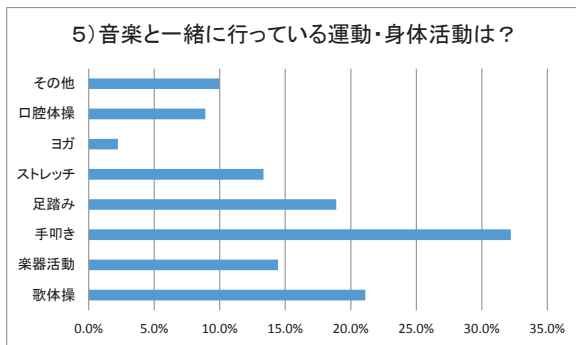
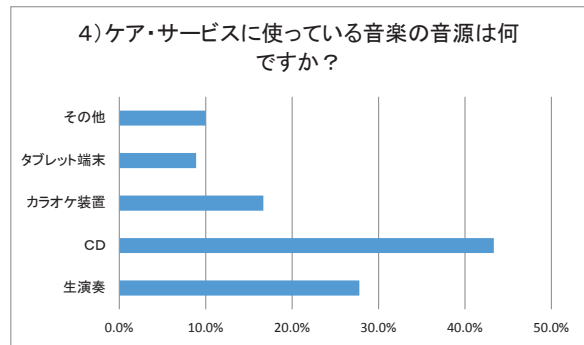
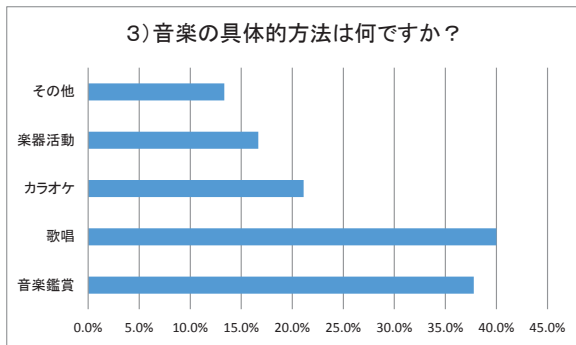
8) ケア・サービスに当たっている人はどなたですか？

音楽療法士	言語聴覚士	理学療法士	作業療法士	看護師	介護職	その他
12	16	20	25	18	19	6
13.3%	17.8%	22.2%	27.8%	20.0%	21.1%	6.7%

9) 支援者の雇用形態は？

常勤	非常勤	外部委託	ボランティア	その他
46	16	1	5	0
51.1%	17.8%	1.1%	5.6%	0.0%





3. ケア・サービスに音楽を採り入れる目的あるいは効果は何ですか

1) 身体面の効果	2) 精神面の効果	3) 社会面の効果
48	55	40
53.3%	61.1%	44.4%

1) 身体面の効果

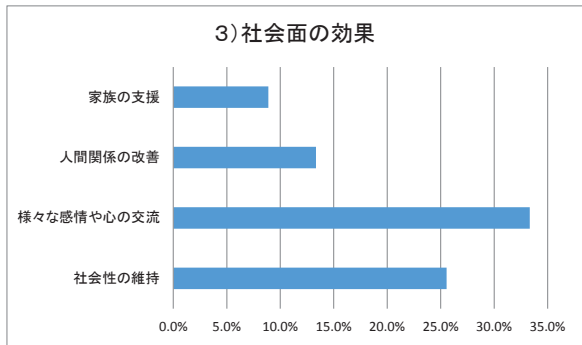
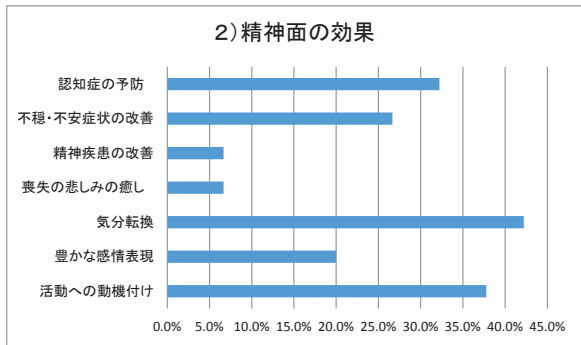
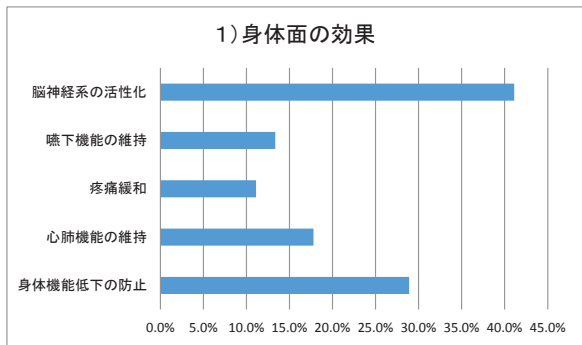
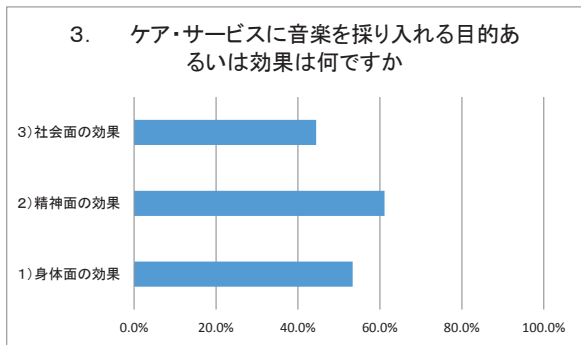
※効果を評価	身体機能低下の防止	心肺機能の維持	疼痛緩和	嚥下機能の維持	脳神経系の活性化
48	26	16	10	12	37
53.3%	28.9%	17.8%	11.1%	13.3%	41.1%

2) 精神面の効果

※効果を評価	活動への動機付け	豊かな感情表現	気分転換	喪失の悲しみの癒し	精神疾患の改善	不穏・不安症状の改善	認知症の予防
55	34	18	38	6	6	24	29
61.1%	37.8%	20.0%	42.2%	6.7%	6.7%	26.7%	32.2%

3) 社会面の効果

※効果を評価	社会性の維持	様々な感情や心の交流	人間関係の改善	家族の支援
40	23	30	12	8
44.4%	25.6%	33.3%	13.3%	8.9%



4. 上記の活動について音楽療法としての位置付けをしていますか

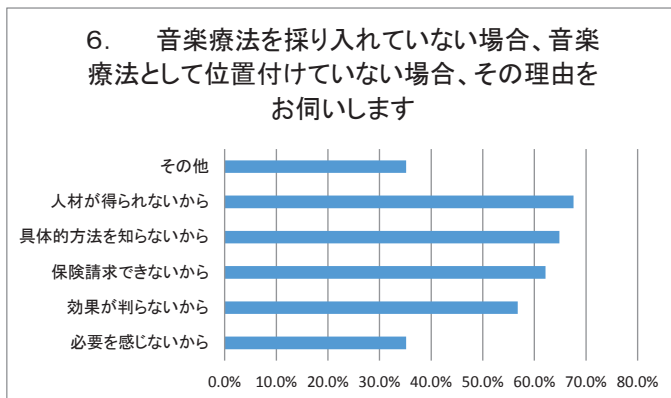
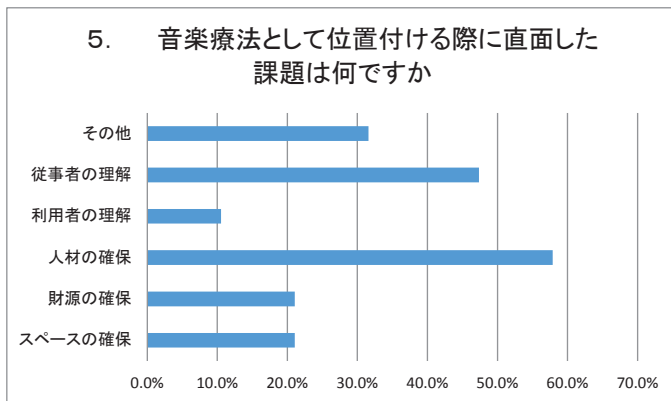
位置付けをしている	位置付けをしていない	実施していない
19	37	34
21.1%	41.1%	37.8%

5. 音楽療法として位置付ける際に直面した課題は何ですか

スペースの確保	財源の確保	人材の確保	利用者の理解	従事者の理解	その他
4	4	11	2	9	6
21.1%	21.1%	57.9%	10.5%	47.4%	31.6%

6. 音楽療法を採り入れていない場合、音楽療法として位置付けていない場合、その理由をお伺いします

必要を感じないから	効果が判らないから	保険請求できないから	具体的方法を知らないから	人材が得られないから	その他
13	21	23	24	25	13
35.1%	56.8%	62.2%	64.9%	67.6%	35.1%



## 病院（位置づけ別）

音楽療法として位置づけている(系1)、音楽療法として位置づけていない(系2)別の集計

音楽療法として位置づけている(系1)データ数

19

音楽療法として位置づけていない(系2)データ数

37

1. 事業の概要についてお伺いします

1) 事業類型

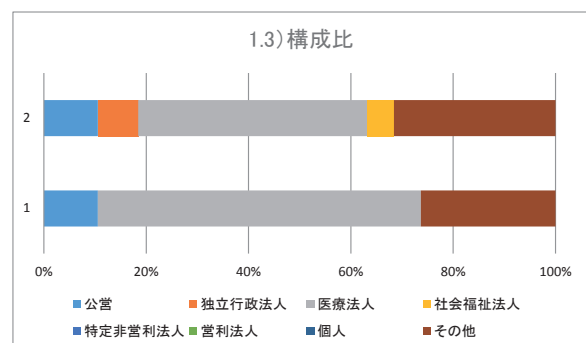
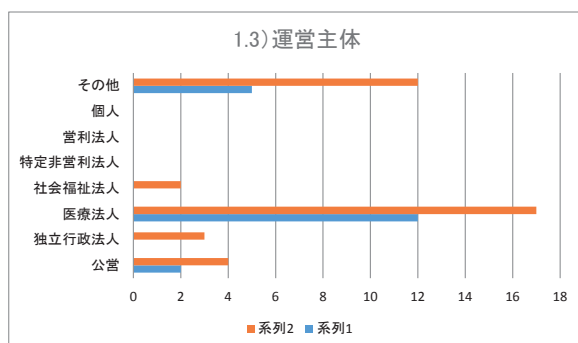
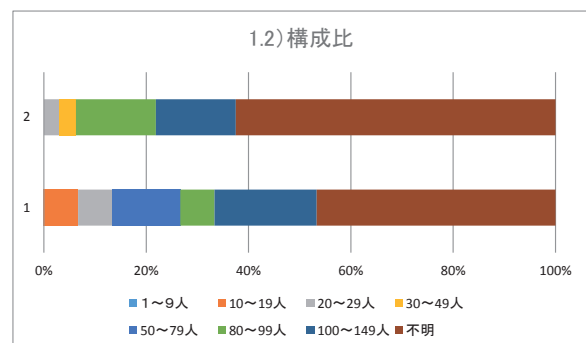
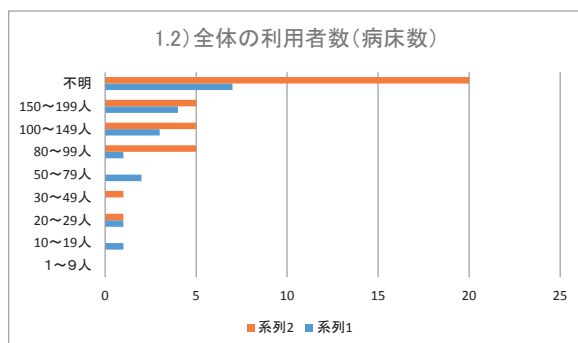
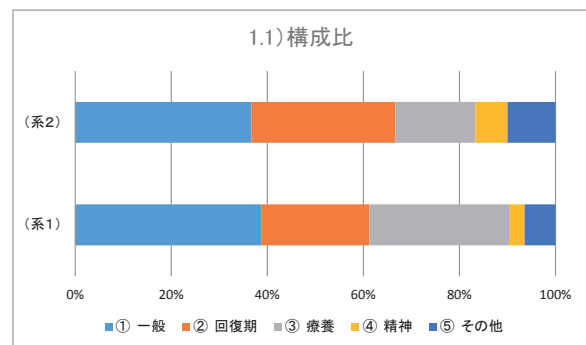
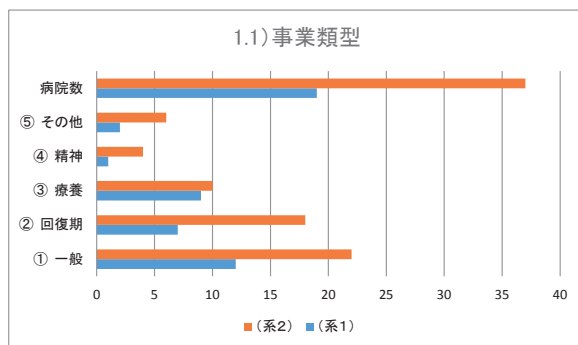
病院	① 一般	② 回復期	③ 療養	④ 精神	⑤ その他	病院数
(系1)	12	7	9	1	2	19
(系2)	22	18	10	4	6	37

2) 全体の利用者数（入院病床数、定員数など）

	1～9人	10～19人	20～29人	30～49人	50～79人	80～99人	100～149人	150～199人	不明
(系1)	0	1	1	0	2	1	3	4	7
(系2)	0	0	1	1	0	5	5	5	20
(系1)	0.0%	5.3%	5.3%	0.0%	10.5%	5.3%	15.8%	21.1%	36.8%
(系2)	0.0%	0.0%	2.7%	2.7%	0.0%	13.5%	13.5%	13.5%	54.1%

3) 運営主体

	公営	独立行政法人	医療法人	社会福祉法人	特定非営利法人	営利法人	個人	その他
(系1)	2	0	12	0	0	0	0	5
(系2)	4	3	17	2	0	0	0	12
(系1)	10.5%	0.0%	63.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	26.3%
(系2)	10.8%	8.1%	45.9%	5.4%	0.0%	0.0%	0.0%	32.4%



2. ケア・サービスに音楽をどのように採り入れていますか  
1) 対象はどのような方ですか？

	患者	要介護	要支援	障害児・者	児童	胎児	一般	特に制限なし
(系1)	17	5	3	1	2	0	1	1
(系2)	30	10	6	7	0	0	0	1
(系1)	89.5%	26.3%	15.8%	5.3%	10.5%	0.0%	5.3%	5.3%
(系2)	81.1%	27.0%	16.2%	18.9%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%

2) 一回の支援で対象とする人数はどのくらいですか？

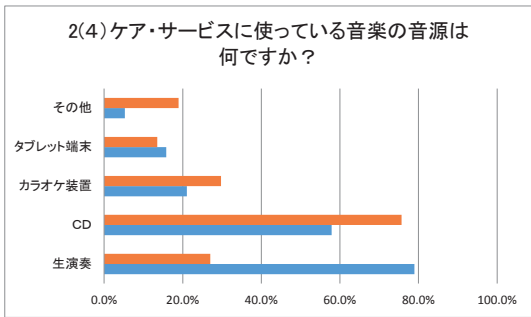
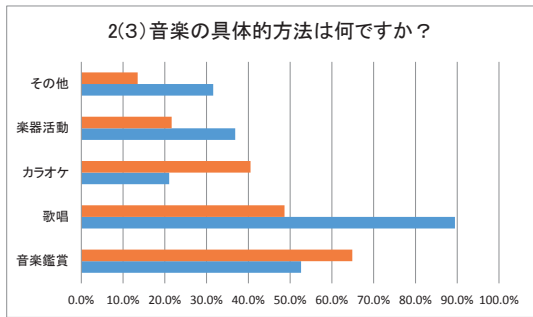
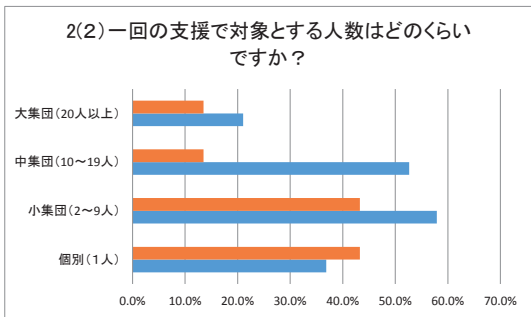
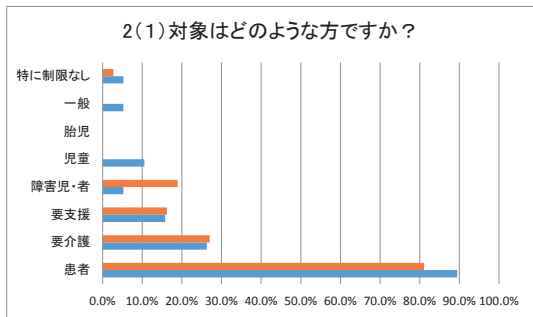
	個別(1人)	小集団(2~9人)	中集団(10~19人)	大集団(20人以上)
(系1)	7	11	10	4
(系2)	16	16	5	5
(系1)	36.8%	57.9%	52.6%	21.1%
(系2)	43.2%	43.2%	13.5%	13.5%

3) 音楽の具体的方法は何ですか？

	音楽鑑賞	歌唱	カラオケ	楽器活動	その他
(系1)	10	17	4	7	6
(系2)	24	18	15	8	5
(系1)	52.6%	89.5%	21.1%	36.8%	31.6%
(系2)	64.9%	48.6%	40.5%	21.6%	13.5%

4) ケア・サービスに使っている音楽の音源は何ですか？

	生演奏	CD	カラオケ装置	タブレット端末	その他
(系1)	15	11	4	3	1
(系2)	10	28	11	5	7
(系1)	78.9%	57.9%	21.1%	15.8%	5.3%
(系2)	27.0%	75.7%	29.7%	13.5%	18.9%



5) 音楽と一緒にやっている運動・身体活動は？

	歌体操	楽器活動	手叩き	足踏み	ストレッチ	ヨガ	口腔体操	その他
(系1)	5	7	13	8	5	2	3	2
(系2)	14	6	16	9	7	0	5	6
(系1)	26.3%	36.8%	68.4%	42.1%	26.3%	10.5%	15.8%	10.5%
(系2)	37.8%	16.2%	43.2%	24.3%	18.9%	0.0%	13.5%	16.2%

6) 時間はどの位ですか？

	5分以内	5分～15分	15～30分	30～60分	60分以上
(系1)	1	5	11	7	1
(系2)	7	8	8	7	6
(系1)	5.3%	26.3%	57.9%	36.8%	5.3%
(系2)	18.9%	21.6%	21.6%	18.9%	16.2%

7) 頻度はどの位ですか？

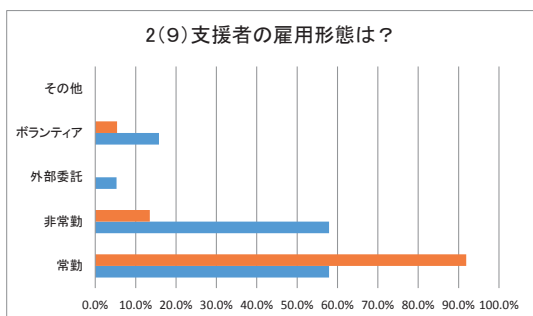
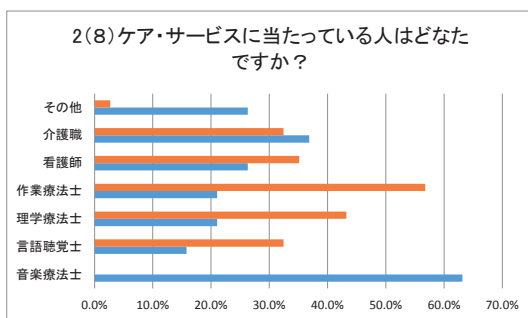
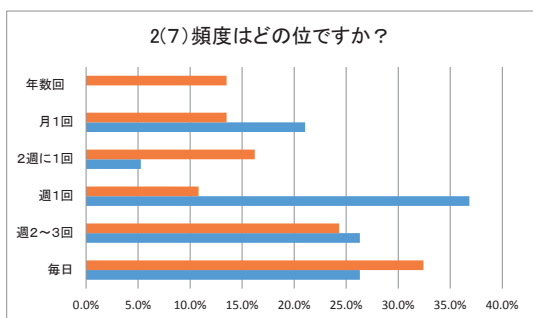
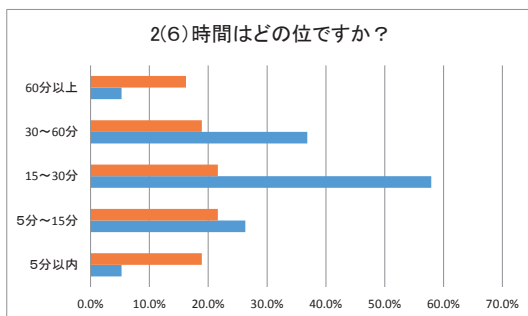
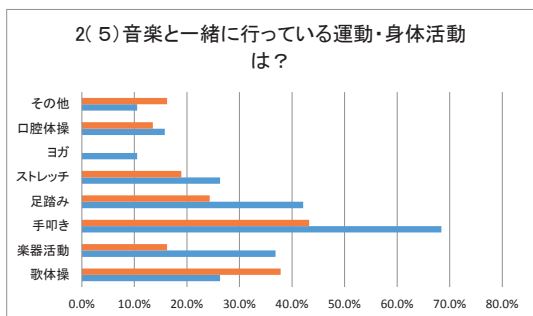
	毎日	週2～3回	週1回	2週に1回	月1回	年数回
(系1)	5	5	7	1	4	0
(系2)	12	9	4	6	5	5
(系1)	26.3%	26.3%	36.8%	5.3%	21.1%	0.0%
(系2)	32.4%	24.3%	10.8%	16.2%	13.5%	13.5%

8) ケア・サービスに当たっている人はどなたですか？

	音楽療法士	言語聴覚士	理学療法士	作業療法士	看護師	介護職	その他
(系1)	12	3	4	4	5	7	5
(系2)	0	12	16	21	13	12	1
(系1)	63.2%	15.8%	21.1%	21.1%	26.3%	36.8%	26.3%
(系2)	0.0%	32.4%	43.2%	56.8%	35.1%	32.4%	2.7%

9) 支援者の雇用形態は？

	常勤	非常勤	外部委託	ボランティア	その他
(系1)	11	11	1	3	0
(系2)	34	5	0	2	0
(系1)	57.9%	57.9%	5.3%	15.8%	0.0%
(系2)	91.9%	13.5%	0.0%	5.4%	0.0%



3. ケア・サービスに音楽を採り入れる目的あるいは効果は何ですか

	1) 身体面の効果	2) 精神面の効果	3) 社会面の効果
(系1)	17	19	16
(系2)	30	35	24
合計	47	54	40

(系1)	89.5%	100.0%	84.2%
(系2)	81.1%	94.6%	64.9%
合計	83.9%	96.4%	71.4%

1) 身体面の効果

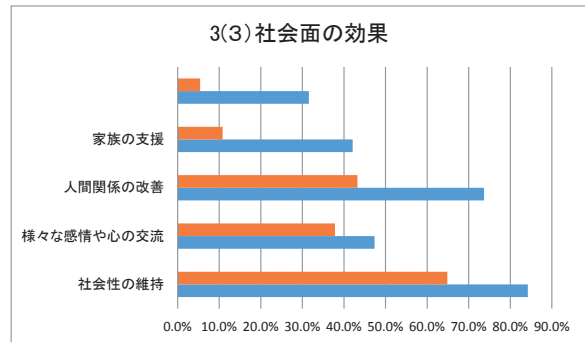
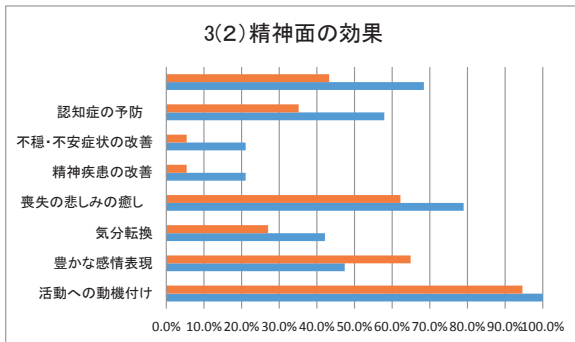
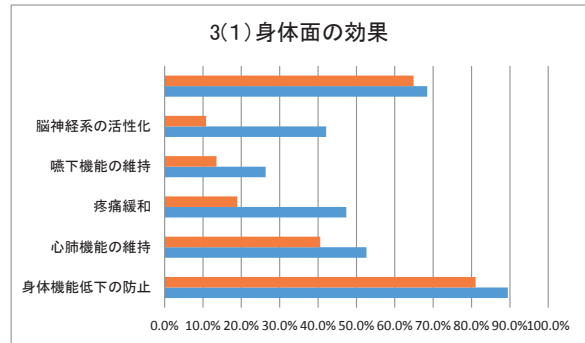
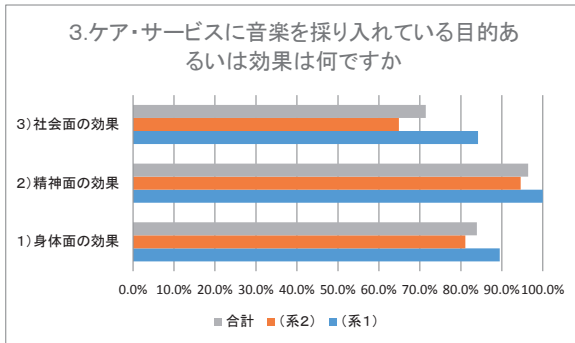
※効果を評価	身体機能低下の防止	心肺機能の維持	疼痛緩和	嚥下機能の維持	脳神経系の活性化
(系1)	17	10	9	5	8
(系2)	30	15	7	5	4
(系1)	89.5%	52.6%	47.4%	26.3%	42.1%
(系2)	81.1%	40.5%	18.9%	13.5%	10.8%

2) 精神面の効果

※効果を評価	活動への動機付け	豊かな感情表現	気分転換	喪失の悲しみの癒し	精神疾患の改善	不穏・不安症状の改善	認知症の予防
(系1)	19	9	8	15	4	4	11
(系2)	35	24	10	23	2	2	13
(系1)	100.0%	47.4%	42.1%	78.9%	21.1%	21.1%	57.9%
(系2)	94.6%	64.9%	27.0%	62.2%	5.4%	5.4%	35.1%

3) 社会面の効果

※効果を評価	社会性の維持	様々な感情や心の交流	人間関係の改善	家族の支援
(系1)	16	9	14	8
(系2)	24	14	16	4
(系1)	84.2%	47.4%	73.7%	42.1%
(系2)	64.9%	37.8%	43.2%	10.8%





# 特別養護老人ホーム

1. 事業の概要についてお伺いします

1) 事業類型

データ数 123

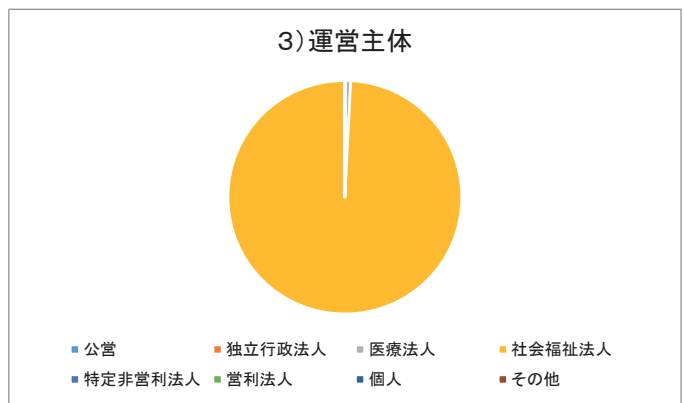
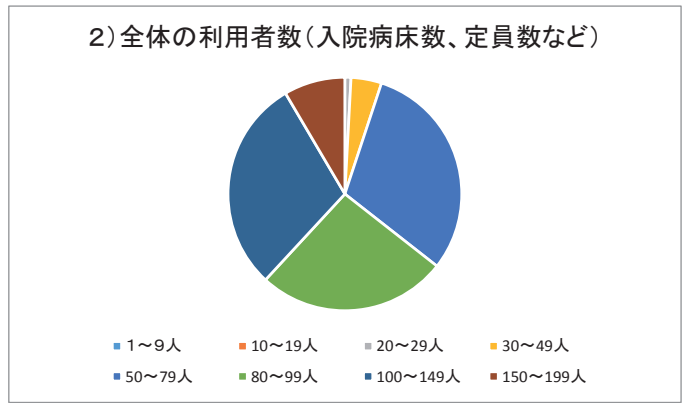
高齢者施設		
① 老人福祉施設	② 老人ディスアビリティセンター	③ その他
123	40	12

2) 全体の利用者数（入院病床数、定員数など）

1～9人	10～19人	20～29人	30～49人	50～79人	80～99人	100～149人	150～199人
0	0	1	5	36	31	35	10
0.0%	0.0%	0.8%	4.1%	29.3%	25.2%	28.5%	8.1%

3) 運営主体

公営	独立行政法人	医療法人	社会福祉法人	特定非営利法人	営利法人	個人	その他
0	0	1	122	0	0	0	0



2. ケア・サービスに音楽をどのように採り入れていますか

1) 対象はどのような方ですか？

患者	要介護	要支援	障害児・者	児童	胎児	一般	特に制限なし
0	121	40	1	0	0	2	2
0.0%	98.4%	32.5%	0.8%	0.0%	0.0%	1.6%	1.6%

2) 一回の支援で対象とする人数はどのくらいですか？

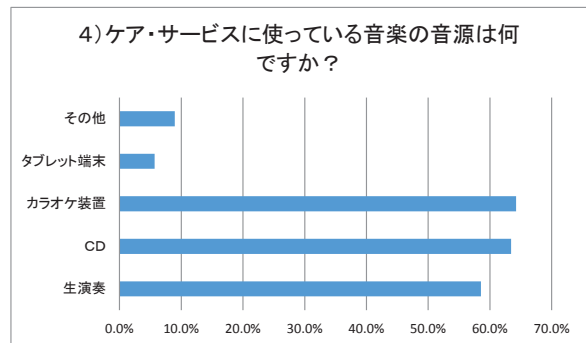
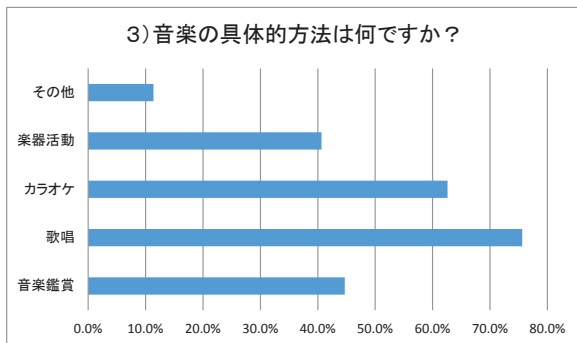
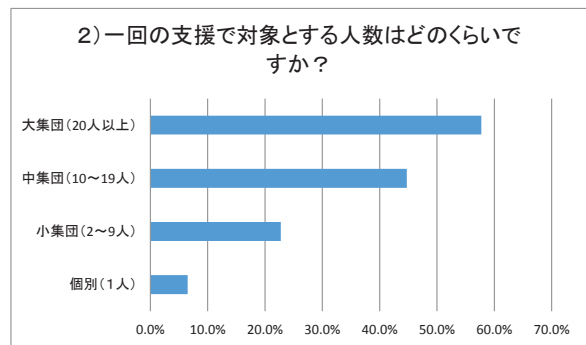
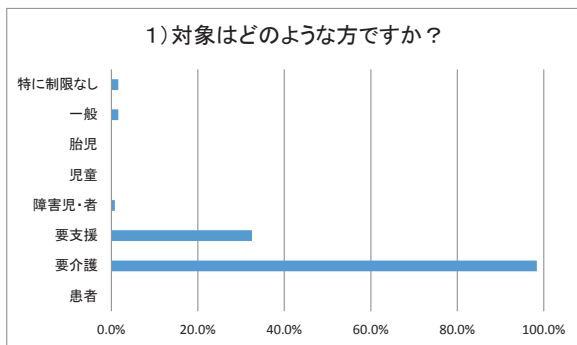
個別（1人）	小集団（2～9人）	中集団（10～19人）	大集団（20人以上）
8	28	55	71
6.5%	22.8%	44.7%	57.7%

3) 音楽の具体的方法は何ですか？

音楽鑑賞	歌唱	カラオケ	楽器活動	その他
55	93	77	50	14
44.7%	75.6%	62.6%	40.7%	11.4%

4) ケア・サービスに使っている音楽の音源は何ですか？

生演奏	CD	カラオケ装置	タブレット端末	その他
72	78	79	7	11
58.5%	63.4%	64.2%	5.7%	8.9%



5) 音楽と一緒にやっている運動・身体活動は？

歌体操	楽器活動	手叩き	足踏み	ストレッチ	ヨガ	口腔体操	その他
83	45	86	73	28	3	54	7
67.5%	36.6%	69.9%	59.3%	22.8%	2.4%	43.9%	5.7%

6) 時間はどの位ですか？

5分以内	5分～15分	15～30分	30～60分	60分以上
10	32	39	63	11
8.1%	26.0%	31.7%	51.2%	8.9%

7) 頻度はどの位ですか？

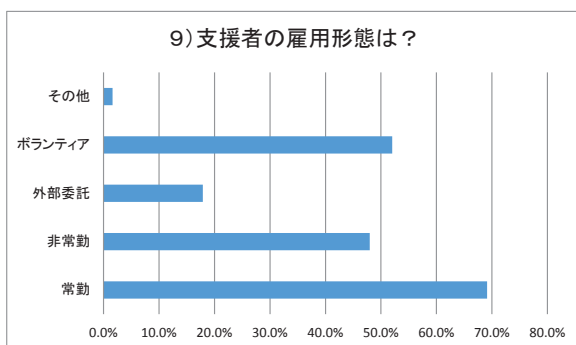
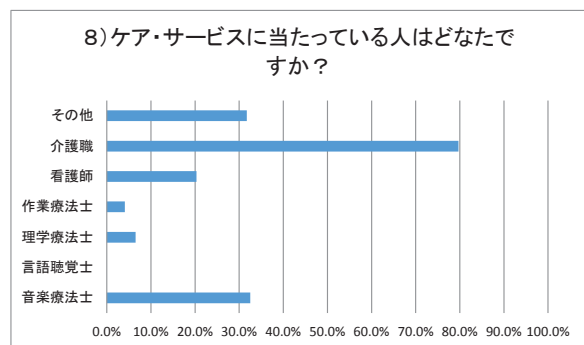
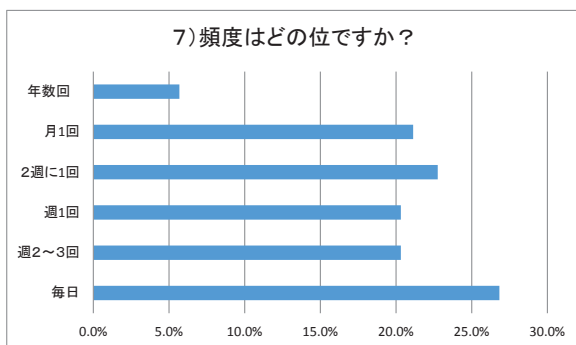
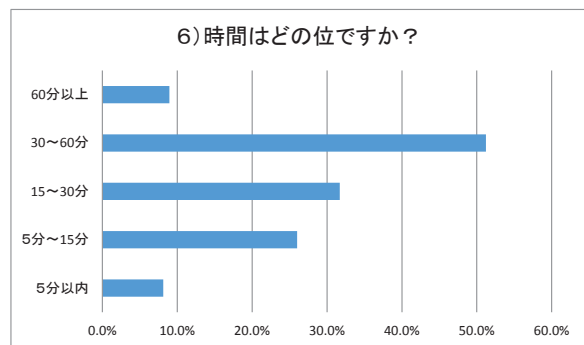
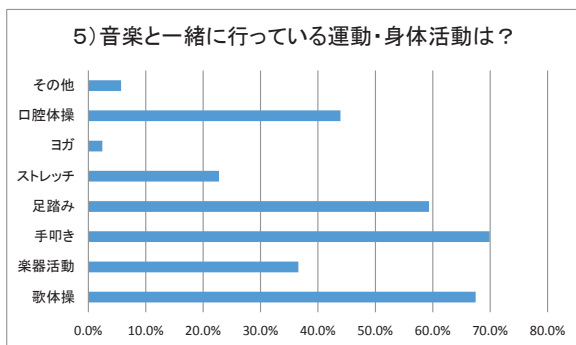
毎日	週2～3回	週1回	2週に1回	月1回	年数回
33	25	25	28	26	7
26.8%	20.3%	20.3%	22.8%	21.1%	5.7%

8) ケア・サービスに当たっている人はどなたですか？

音楽療法士	言語聴覚士	理学療法士	作業療法士	看護師	介護職	その他
40	0	8	5	25	98	39
32.5%	0.0%	6.5%	4.1%	20.3%	79.7%	31.7%

9) 支援者の雇用形態は？

常勤	非常勤	外部委託	ボランティア	その他
85	59	22	64	2
69.1%	48.0%	17.9%	52.0%	1.6%



3. ケア・サービスに音楽を採り入れる目的あるいは効果は何ですか

1) 身体面の効果	2) 精神面の効果	3) 社会面の効果
111	120	109
90.2%	97.6%	88.6%

1) 身体面の効果

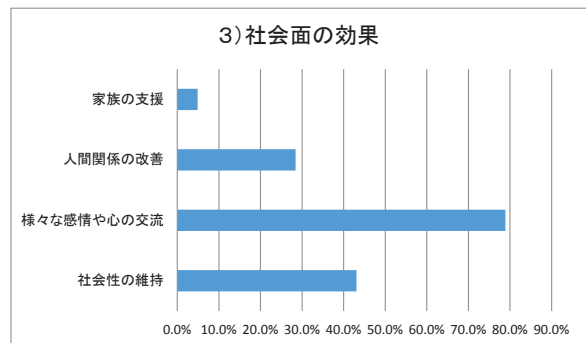
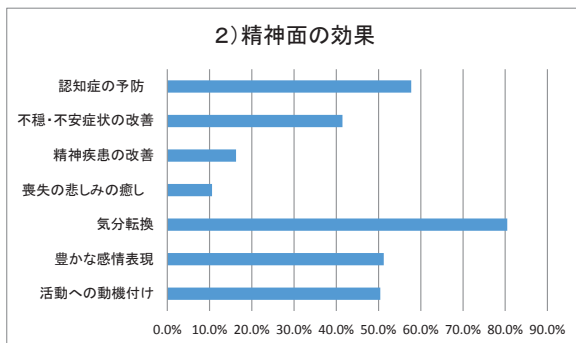
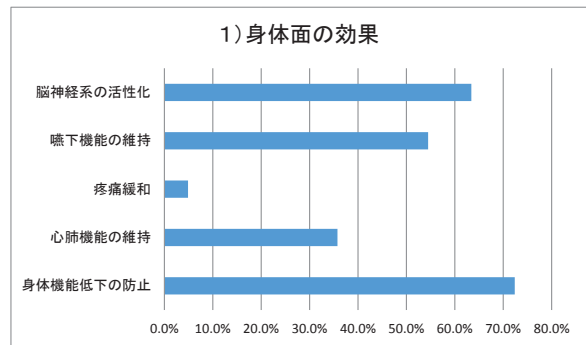
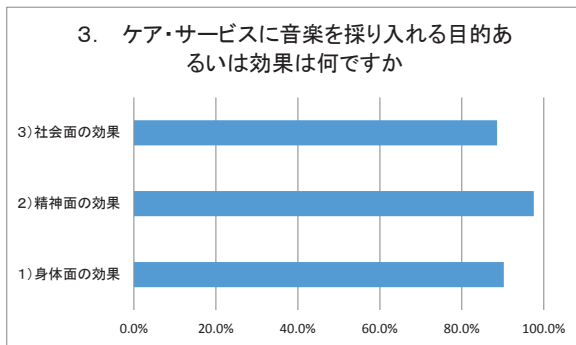
※効果进行评估	身体機能低下の防止	心肺機能の維持	疼痛緩和	嚥下機能の維持	脳神経系の活性化
111	89	44	6	67	78
90.2%	72.4%	35.8%	4.9%	54.5%	63.4%

2) 精神面の効果

※効果进行评估	活動への動機付け	豊かな感情表現	気分転換	喪失の悲しみの癒し	精神疾患の改善	不穏・不安症状の改善	認知症の予防
120	62	63	99	13	20	51	71
97.6%	50.4%	51.2%	80.5%	10.6%	16.3%	41.5%	57.7%

3) 社会面の効果

※効果进行评估	社会性の維持	様々な感情や心の交流	人間関係の改善	家族の支援
109	53	97	35	6
88.6%	43.1%	78.9%	28.5%	4.9%



4. 上記の活動について音楽療法としての位置付けをしていますか

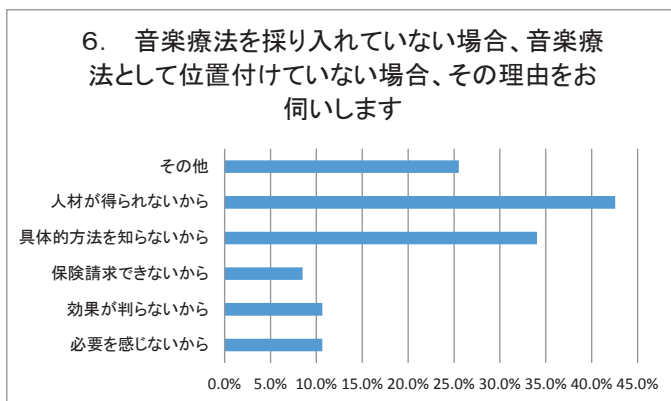
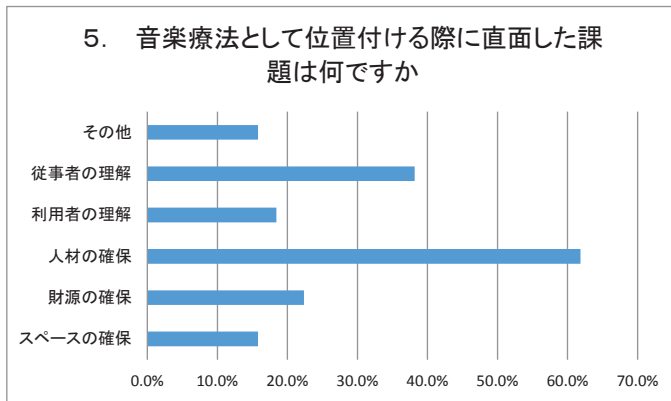
位置付けをしている	位置付けをしていない
76	47
61.8%	38.2%

5. 音楽療法として位置付ける際に直面した課題は何ですか

スペースの確保	財源の確保	人材の確保	利用者の理解	従事者の理解	その他
12	17	47	14	29	12
15.8%	22.4%	61.8%	18.4%	38.2%	15.8%

6. 音楽療法を採り入れていない場合、音楽療法として位置付けていない場合、その理由をお伺いします

必要を感じないから	効果が判らないから	保険請求できないから	具体的方法を知らないから	人材が得られないから	その他
5	5	4	16	20	12
10.6%	10.6%	8.5%	34.0%	42.6%	25.5%



## 特別養護老人ホーム（位置づけ別）

音楽療法として位置づけている(系1)、音楽療法として位置づけていない(系2)別の集計

音楽療法として位置づけている(系1)データ数

76

音楽療法として位置づけていない(系2)データ数

47

1. 事業の概要についてお伺いします

1) 事業類型

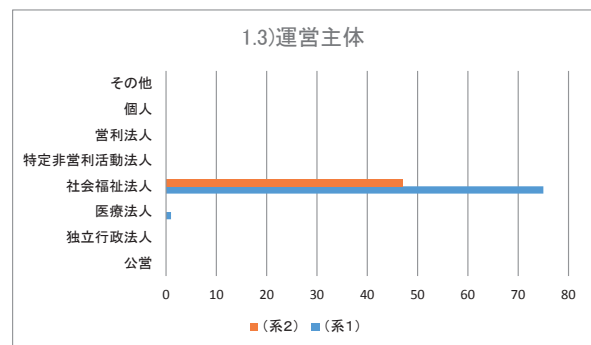
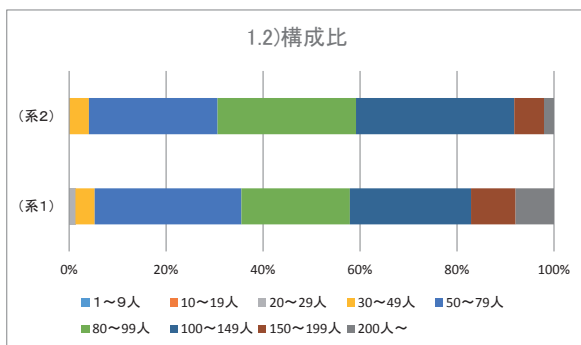
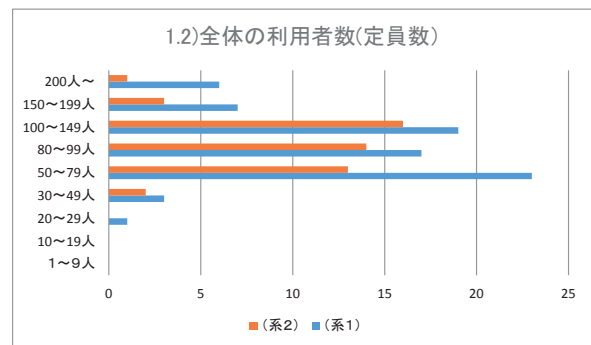
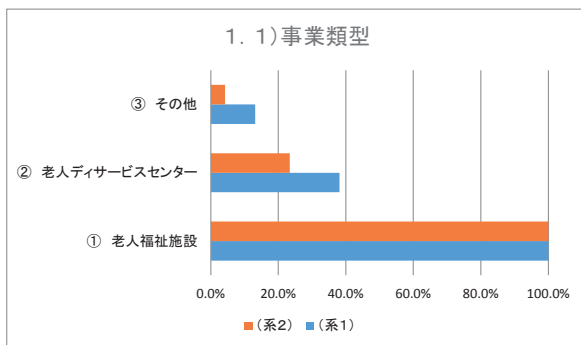
高齢者施設			
	① 老人福祉施設	② 老人デイサービスセンター	③ その他
(系1)	76	29	10
(系2)	47	11	2
(系1)	100.0%	38.2%	13.2%
(系2)	100.0%	23.4%	4.3%

2) 全体の利用者数（入院病床数、定員数など）

	1～9人	10～19人	20～29人	30～49人	50～79人	80～99人	100～149人	150～199人	200人～
(系1)	0	0	1	3	23	17	19	7	6
(系2)	0	0	0	2	13	14	16	3	1

3) 運営主体

	公営	独立行政法人	医療法人	社会福祉法人	特定非営利活動法人	営利法人	個人	その他
(系1)	0	0	1	75	0	0	0	0
(系2)	0	0	0	47	0	0	0	0



2. ケア・サービスに音楽をどのように採り入れていますか

1) 対象はどのような方ですか？

	患者	要介護	要支援	障害児・者	児童	胎児	一般	特に制限なし
(系1)	0	75	26	0	0	0	0	1
(系2)	0	46	14	1	0	0	2	1
(系1)	0.0%	98.7%	34.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%
(系2)	0.0%	97.9%	29.8%	2.1%	0.0%	0.0%	4.3%	2.1%

2) 一回の支援で対象とする人数はどのくらいですか？

	個別（1人）	小集団（2～9人）	中集団（10～19人）	大集団（20人以上）
(系1)	4	12	36	49
(系2)	4	16	19	22
(系1)	5.3%	15.8%	47.4%	64.5%
(系2)	8.5%	34.0%	40.4%	46.8%

3) 音楽の具体的方法は何ですか？

	音楽鑑賞	歌唱	カラオケ	楽器活動	その他
(系1)	34	64	46	43	0
(系2)	21	29	31	7	0
(系1)	44.7%	84.2%	60.5%	56.6%	0.0%
(系2)	44.7%	61.7%	66.0%	14.9%	0.0%

4) ケア・サービスに使っている音楽の音源は何ですか？

	生演奏	CD	カラオケ装置	タブレット端末	その他
(系1)	54	46	45	4	0
(系2)	18	32	34	3	0
(系1)	71.1%	60.5%	59.2%	5.3%	0.0%
(系2)	38.3%	68.1%	72.3%	6.4%	0.0%

5) 音楽と一緒にやっている運動・身体活動は？

	歌体操	楽器活動	手叩き	足踏み	ストレッチ	ヨガ	口腔体操	その他
(系1)	57	38	58	52	21	2	37	0
(系2)	26	7	28	21	7	1	17	0
(系1)	75.0%	50.0%	76.3%	68.4%	27.6%	2.6%	48.7%	0.0%
(系2)	55.3%	14.9%	59.6%	44.7%	14.9%	2.1%	36.2%	0.0%

6) 時間はどの位ですか？

	5分以内	5分～15分	15～30分	30～60分	60分以上
(系1)	3	17	24	45	10
(系2)	7	15	15	18	1
(系1)	3.9%	22.4%	31.6%	59.2%	13.2%
(系2)	14.9%	31.9%	31.9%	38.3%	2.1%

7) 頻度はどの位ですか？

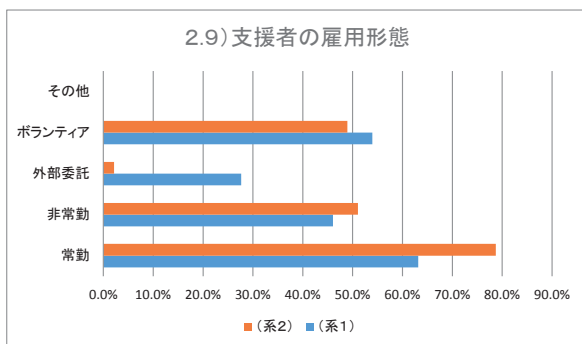
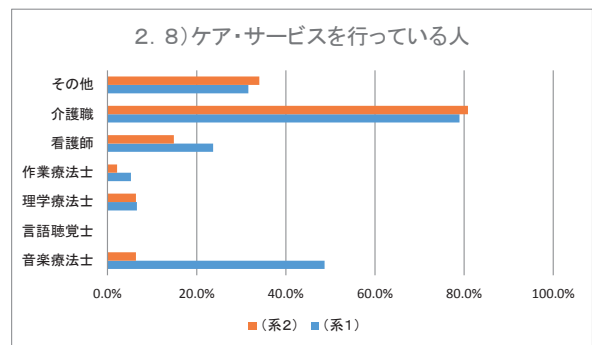
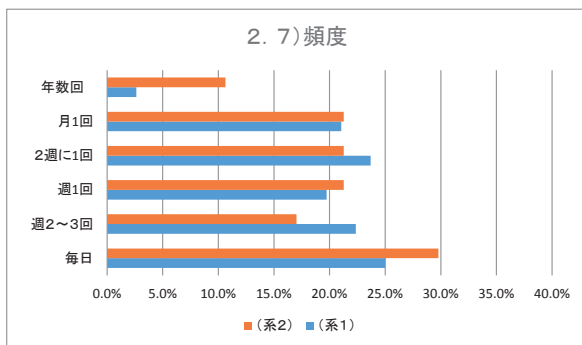
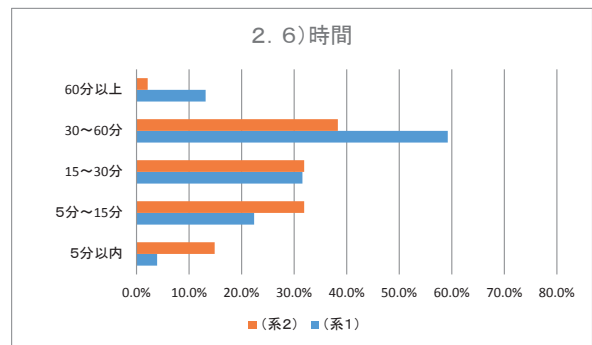
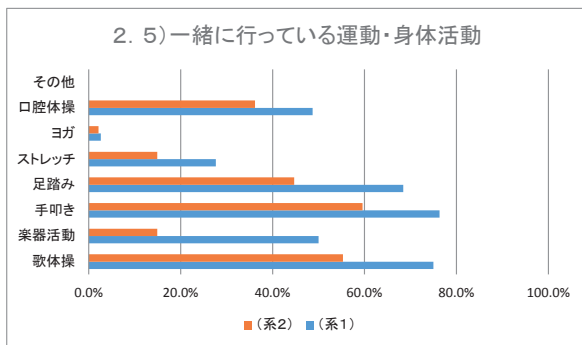
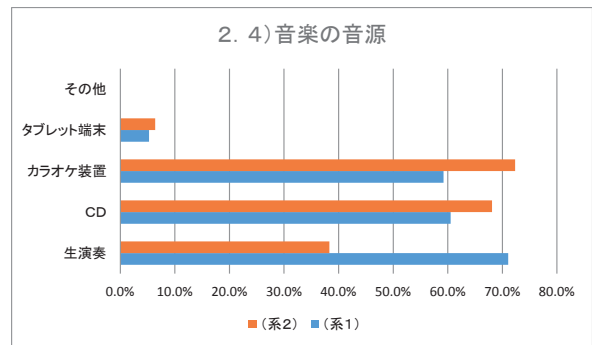
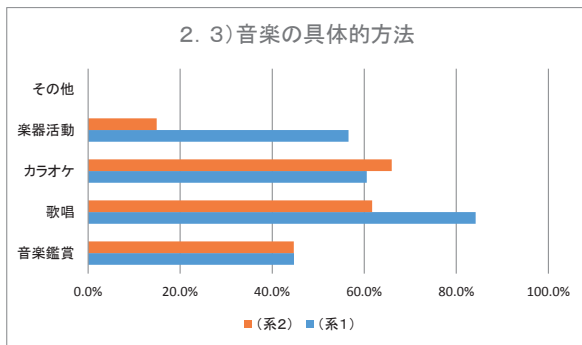
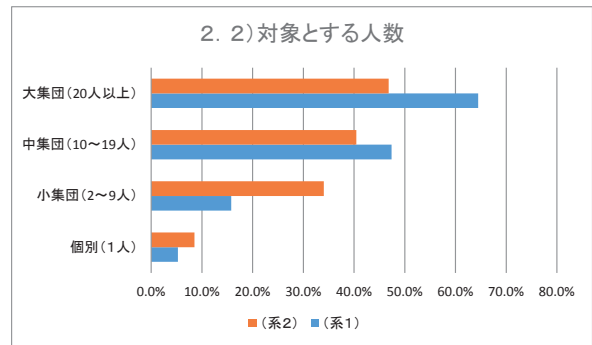
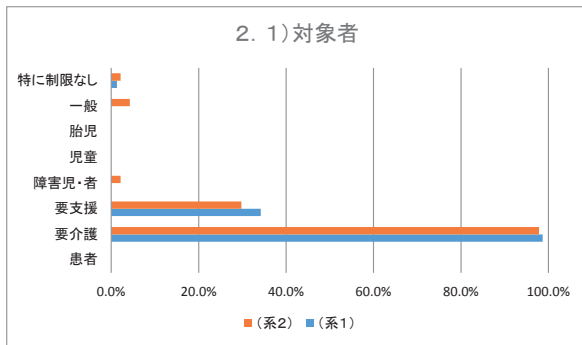
	毎日	週2～3回	週1回	2週に1回	月1回	年数回
(系1)	19	17	15	18	16	2
(系2)	14	8	10	10	10	5
(系1)	25.0%	22.4%	19.7%	23.7%	21.1%	2.6%
(系2)	29.8%	17.0%	21.3%	21.3%	21.3%	10.6%

8) ケア・サービスに当たっている人はどなたですか？

	音楽療法士	言語聴覚士	理学療法士	作業療法士	看護師	介護職	その他
(系1)	37	0	5	4	18	60	24
(系2)	3	0	3	1	7	38	16
(系1)	48.7%	0.0%	6.6%	5.3%	23.7%	78.9%	31.6%
(系2)	6.4%	0.0%	6.4%	2.1%	14.9%	80.9%	34.0%

9) 支援者の雇用形態は？

	常勤	非常勤	外部委託	ボランティア	その他
(系1)	48	35	21	41	0
(系2)	37	24	1	23	0
(系1)	63.2%	46.1%	27.6%	53.9%	0.0%
(系2)	78.7%	51.1%	2.1%	48.9%	0.0%





3. ケア・サービスに音楽を採り入れる目的あるいは効果は何ですか

	1) 身体面の効果	2) 精神面の効果	3) 社会面の効果
(系1)	74	76	71
(系2)	37	44	38

(系1)	97.4%	100.0%	93.4%
(系2)	78.7%	93.6%	80.9%

1) 身体面の効果

	身体機能低下の防止	心肺機能の維持	疼痛緩和	嚥下機能の維持	脳神経系の活性化
(系1)	61	33	6	44	59
(系2)	28	11	0	23	19

(系1)	80.3%	43.4%	7.9%	57.9%	77.6%
(系2)	59.6%	23.4%	0.0%	48.9%	40.4%

2) 精神面の効果

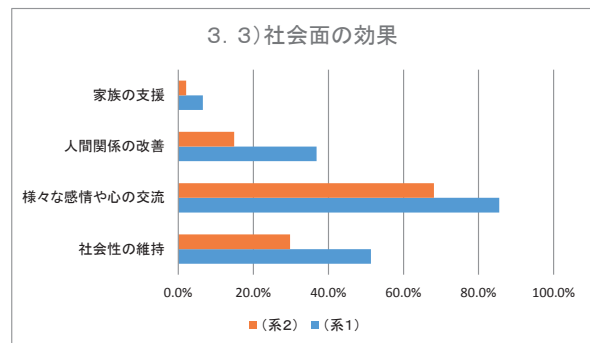
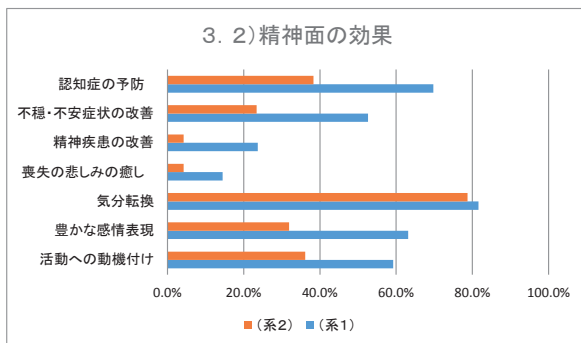
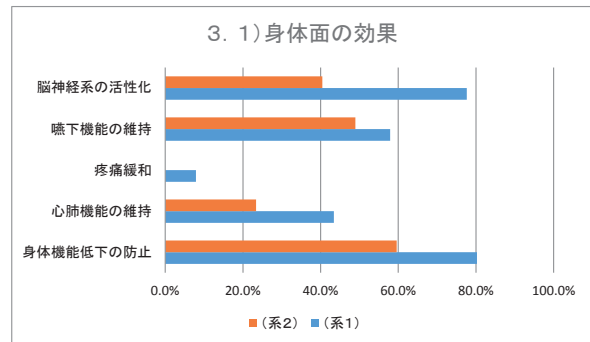
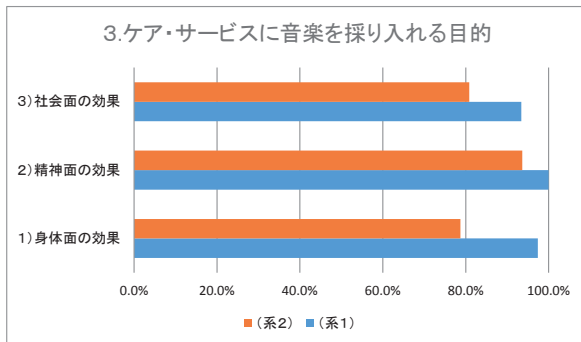
	活動への動機付け	豊かな感情表現	気分転換	喪失の悲しみの癒し	精神疾患の改善	不穏・不安症状の改善	認知症の予防
(系1)	45	48	62	11	18	40	53
(系2)	17	15	37	2	2	11	18

(系1)	59.2%	63.2%	81.6%	14.5%	23.7%	52.6%	69.7%
(系2)	36.2%	31.9%	78.7%	4.3%	4.3%	23.4%	38.3%

3) 社会面の効果

	社会性の維持	様々な感情や心の交流	人間関係の改善	家族の支援
(系1)	39	65	28	5
(系2)	14	32	7	1

(系1)	51.3%	85.5%	36.8%	6.6%
(系2)	29.8%	68.1%	14.9%	2.1%



# 老人デイサービスセンター

## 1. 事業の概要についてお伺いします

### 1) 事業類型

高齢者施設		
① 老人福祉施設	② 老人デイサービスセンター	③ その他
0	127	0

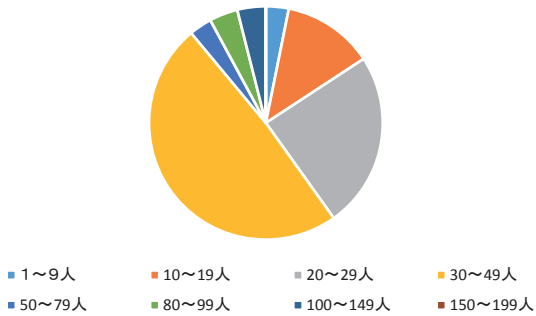
### 2) 全体の利用者数(入院病床数、定員数など)

1～9人	10～19人	20～29人	30～49人	50～79人	80～99人	100～149人	150～199人
4	16	31	62	4	5	5	0
3.1%	12.6%	24.4%	48.8%	3.1%	3.9%	3.9%	0.0%

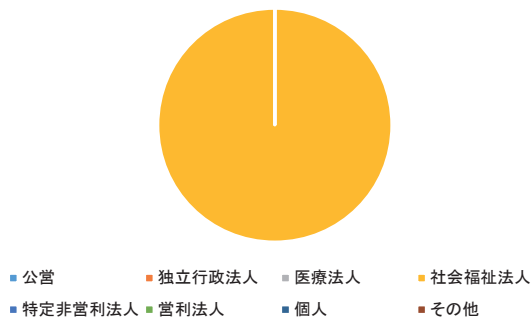
### 3) 運営主体

公営	独立行政法人	医療法人	社会福祉法人	特定非営利法人	営利法人	個人	その他
0	0	0	127	0	0	0	0
0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## 2) 全体の利用者数(入院病床数、定員数など)



## 3) 運営主体



2. ケア・サービスに音楽をどのように採り入れていますか

1) 対象はどのような方ですか？

患者	要介護	要支援	障害児・者	児童	胎児	一般	特に制限なし
0	125	120	1	0	0	3	3
0.0%	98.4%	94.5%	0.8%	0.0%	0.0%	2.4%	2.4%

2) 一回の支援で対象とする人数はどのくらいですか？

個別（1人）	小集団（2～9人）	中集団（10～19人）	大集団（20人以上）
2	20	47	77
1.6%	15.7%	37.0%	60.6%

3) 音楽の具体的方法は何ですか？

音楽鑑賞	歌唱	カラオケ	楽器活動	その他
68	100	106	40	21
53.5%	78.7%	83.5%	31.5%	16.5%

4) ケア・サービスに使っている音楽の音源は何ですか？

生演奏	CD	カラオケ装置	タブレット端末	その他
63	86	101	5	12
49.6%	67.7%	79.5%	3.9%	9.4%

5) 音楽と一緒にしている運動・身体活動は？

歌体操	楽器活動	手叩き	足踏み	ストレッチ	ヨガ	口腔体操	その他
104	36	88	90	54	3	46	7
81.9%	28.3%	69.3%	70.9%	42.5%	2.4%	36.2%	5.5%

6) 時間はどの位ですか？

5分以内	5分～15分	15～30分	30～60分	60分以上
4	30	54	48	10
3.1%	23.6%	42.5%	37.8%	7.9%

7) 頻度はどの位ですか？

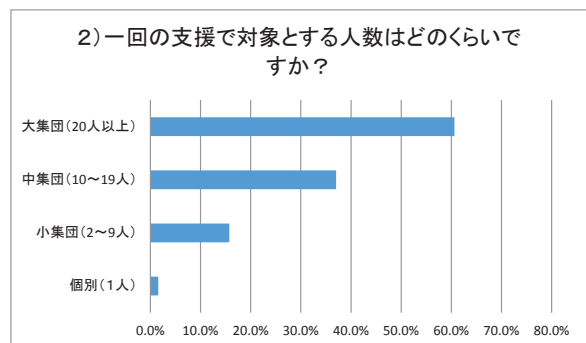
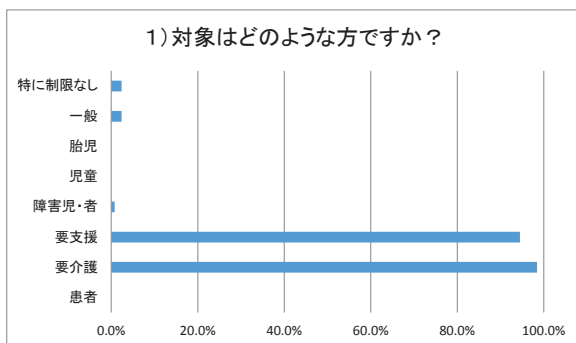
毎日	週2～3回	週1回	2週に1回	月1回	年数回
85	30	9	10	7	1
66.9%	23.6%	7.1%	7.9%	5.5%	0.8%

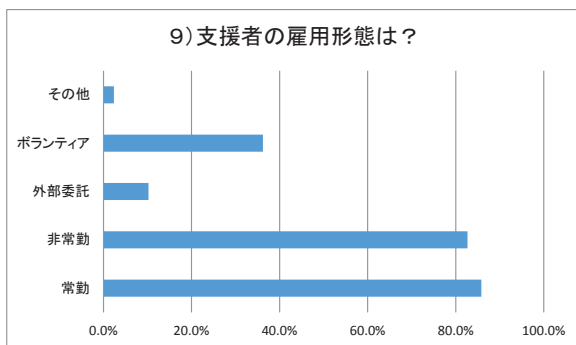
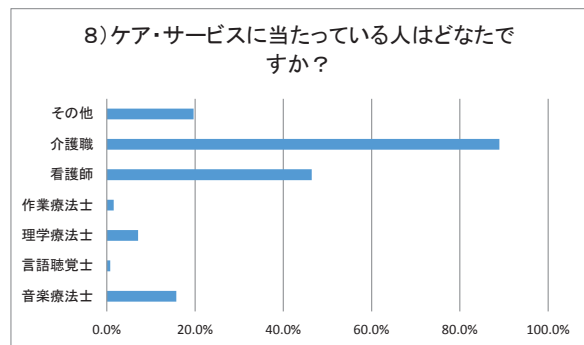
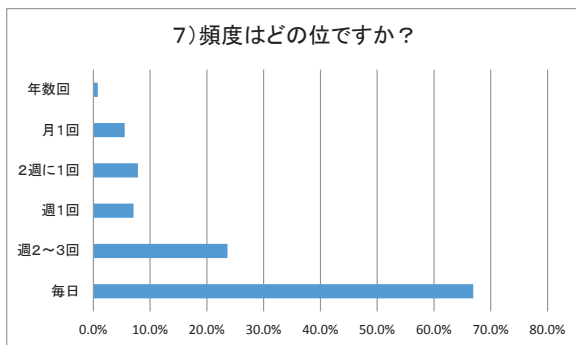
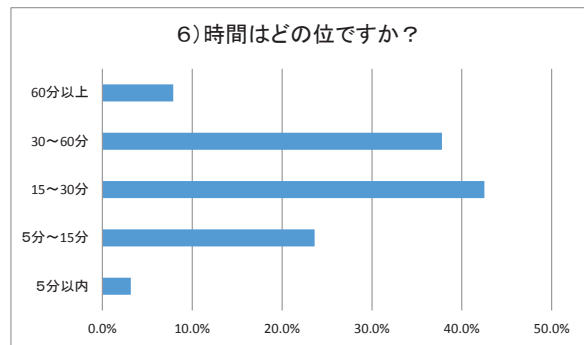
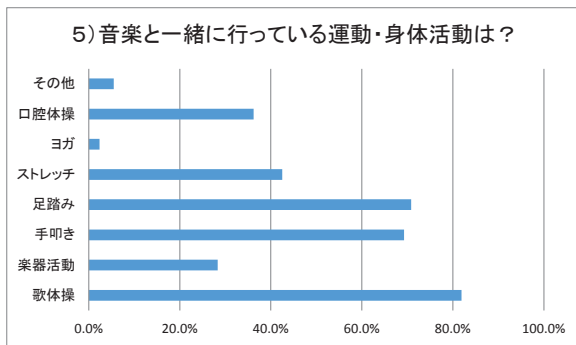
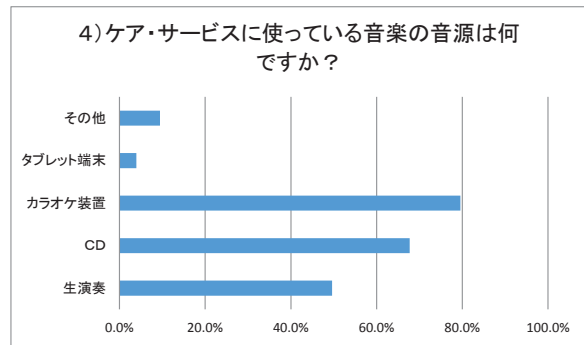
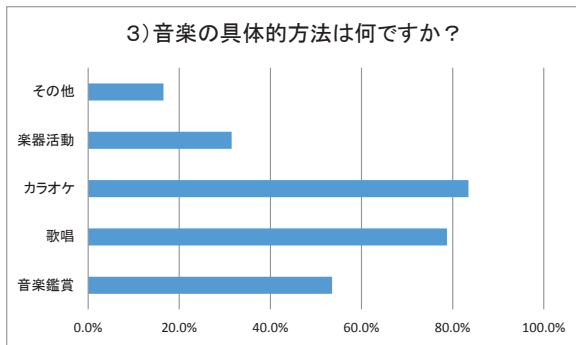
8) ケア・サービスに当たっている人はどなたですか？

音楽療法士	言語聴覚士	理学療法士	作業療法士	看護師	介護職	その他
20	1	9	2	59	113	25
15.7%	0.8%	7.1%	1.6%	46.5%	89.0%	19.7%

9) 支援者の雇用形態は？

常勤	非常勤	外部委託	ボランティア	その他
109	105	13	46	3
85.8%	82.7%	10.2%	36.2%	2.4%





3. ケア・サービスに音楽を採り入れる目的あるいは効果は何ですか

1) 身体面の効果	2) 精神面の効果	3) 社会面の効果
123	126	116
96.9%	99.2%	91.3%

1) 身体面の効果

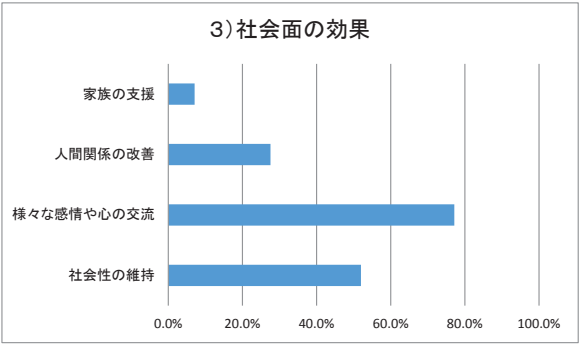
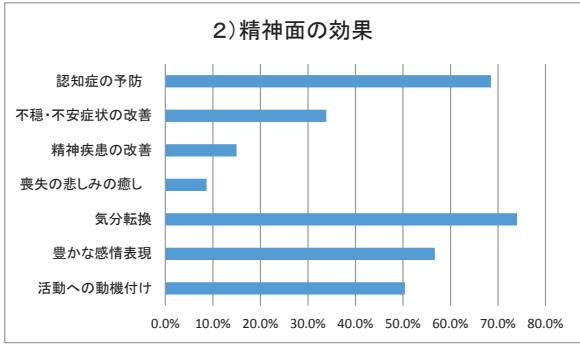
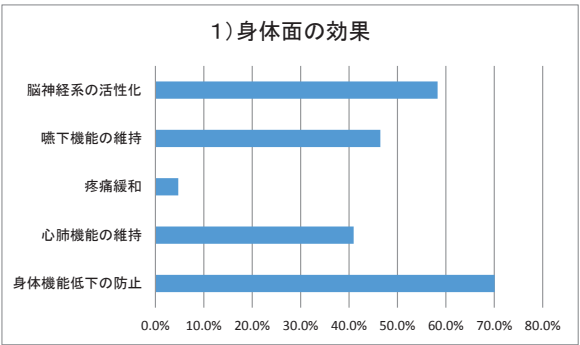
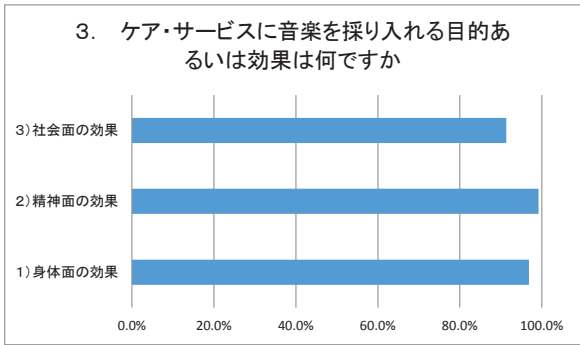
※効果进行评估	身体機能低下の防止	心肺機能の維持	疼痛緩和	嚥下機能の維持	脳神経系の活性化
123	89	52	6	59	74
96.9%	70.1%	40.9%	4.7%	46.5%	58.3%

2) 精神面の効果

※効果进行评估	活動への動機付け	豊かな感情表現	気分転換	喪失の悲しみの癒し	精神疾患の改善	不穏・不安症状の改善	認知症の予防
126	64	72	94	11	19	43	87
99.2%	50.4%	56.7%	74.0%	8.7%	15.0%	33.9%	68.5%

3) 社会面の効果

※効果进行评估	社会性の維持	様々な感情や心の交流	人間関係の改善	家族の支援
116	66	98	35	9
91.3%	52.0%	77.2%	27.6%	7.1%



4. 上記の活動について音楽療法としての位置付けをしていますか

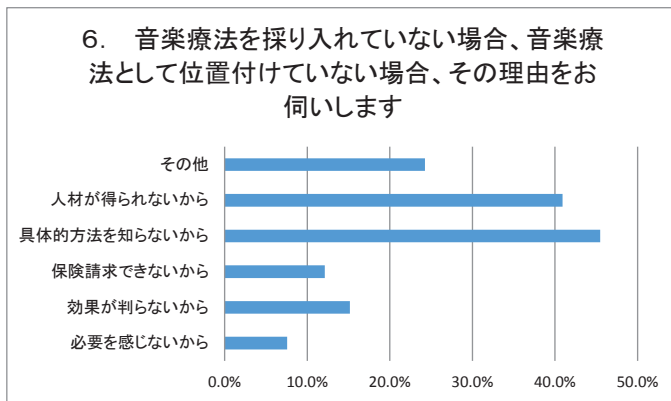
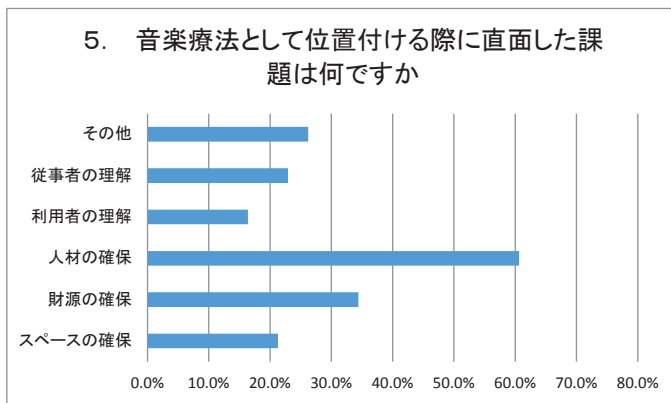
位置付けをしている	位置付けをしていない
61	66
48.0%	52.0%

5. 音楽療法として位置付ける際に直面した課題は何ですか

スペースの確保	財源の確保	人材の確保	利用者の理解	従事者の理解	その他
13	21	37	10	14	16
21.3%	34.4%	60.7%	16.4%	23.0%	26.2%

6. 音楽療法を採り入れていない場合、音楽療法として位置付けていない場合、その理由をお伺いします

必要を感じないから	効果が判らないから	保険請求できないから	具体的方法を知らないから	人材が得られないから	その他
5	10	8	30	27	16
7.6%	15.2%	12.1%	45.5%	40.9%	24.2%



## 老人デイサービスセンター（位置づけ別）

音楽療法として位置づけている(系1)、音楽療法として位置づけていない(系2)別の集計

音楽療法として位置づけている(系1)データ数

61

音楽療法として位置づけていない(系2)データ数

66

1. 事業の概要についてお伺いします

1) 事業類型

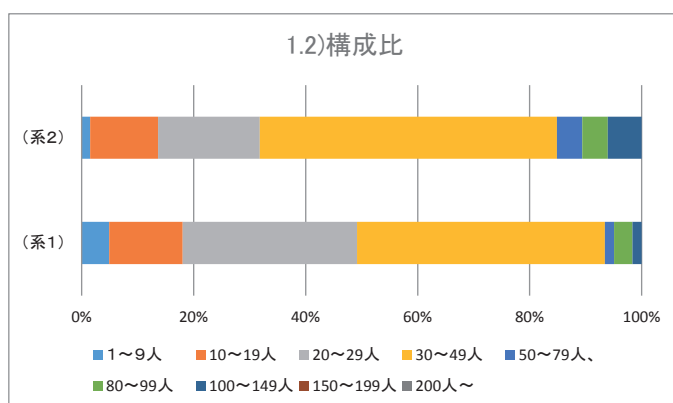
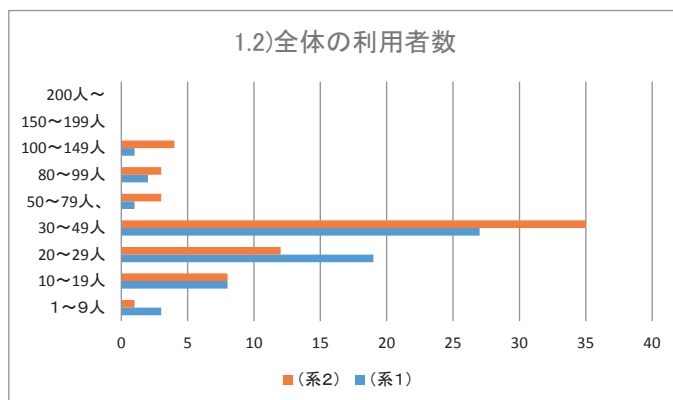
高齢者施設			
	① 老人福祉施設	② 老人デイサービスセンター	③ その他
(系1)	0	61	0
(系2)	0	66	0

2) 全体の利用者数（入院病床数、定員数など）

	1～9人	10～19人	20～29人	30～49人	50～79人、	80～99人	100～149人	150～199人	200人～
(系1)	3	8	19	27	1	2	1	0	0
(系2)	1	8	12	35	3	3	4	0	0
(系1)	4.9%	13.1%	31.1%	44.3%	1.6%	3.3%	1.6%	0.0%	0.0%
(系2)	1.5%	12.1%	18.2%	53.0%	4.5%	4.5%	6.1%	0.0%	0.0%

3) 運営主体

	公営	独立行政法人	医療法人	社会福祉法人	特定非営利活動法人	営利法人	個人	その他
(系1)	0	0	0	61	0	0	0	0
(系2)	0	0	0	66	0	0	0	0



2. ケア・サービスに音楽をどのように採り入れていますか

1) 対象はどのような方ですか？

	患者	要介護	要支援	障害児・者	児童	胎児	一般	特に制限なし
(系1)	0	61	57	0	0	0	1	0
(系2)	0	64	63	1	0	0	2	3
(系1)	0.0%	100.0%	93.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%
(系2)	0.0%	97.0%	95.5%	1.5%	0.0%	0.0%	3.0%	4.5%

2) 一回の支援で対象とする人数はどのくらいですか？

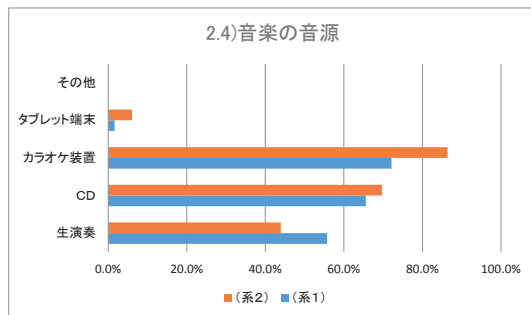
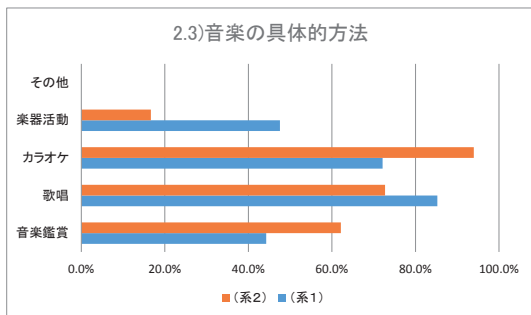
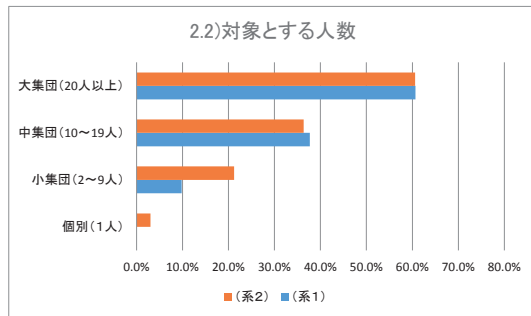
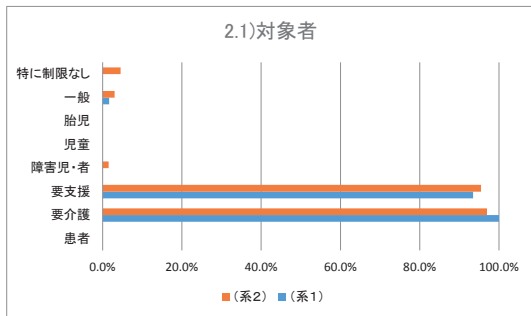
	個別 (1人)	小集団 (2~9人)	中集団 (10~19人)	大集団 (20人以上)
(系1)	0	6	23	37
(系2)	2	14	24	40
(系1)	0.0%	9.8%	37.7%	60.7%
(系2)	3.0%	21.2%	36.4%	60.6%

3) 音楽の具体的方法は何ですか？

	音楽鑑賞	歌唱	カラオケ	楽器活動	その他
(系1)	27	52	44	29	0
(系2)	41	48	62	11	0
(系1)	44.3%	85.2%	72.1%	47.5%	0.0%
(系2)	62.1%	72.7%	93.9%	16.7%	0.0%

4) ケア・サービスに使っている音楽の音源は何ですか？

	生演奏	CD	カラオケ装置	タブレット端末	その他
(系1)	34	40	44	1	0
(系2)	29	46	57	4	0
(系1)	55.7%	65.6%	72.1%	1.6%	0.0%
(系2)	43.9%	69.7%	86.4%	6.1%	0.0%





5) 音楽と一緒にやっている運動・身体活動は？

	歌体操	楽器活動	手叩き	足踏み	ストレッチ	ヨガ	口腔体操	その他
(系1)	52	28	45	49	27	2	22	0
(系2)	52	8	43	41	27	1	24	0
(系1)	85.2%	45.9%	73.8%	80.3%	44.3%	3.3%	36.1%	0.0%
(系2)	78.8%	12.1%	65.2%	62.1%	40.9%	1.5%	36.4%	0.0%

6) 時間はどの位ですか？

	5分以内	5分～15分	15～30分	30～60分	60分以上
(系1)	2	10	29	25	6
(系2)	2	20	25	23	4
(系1)	3.3%	16.4%	47.5%	41.0%	9.8%
(系2)	3.0%	30.3%	37.9%	34.8%	6.1%

7) 頻度はどの位ですか？

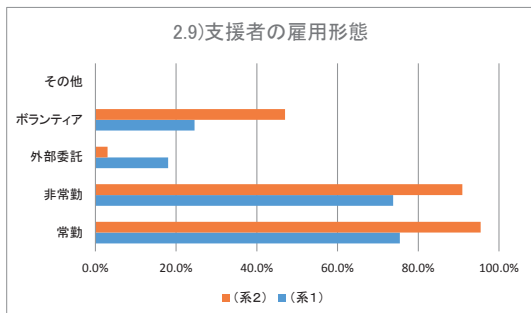
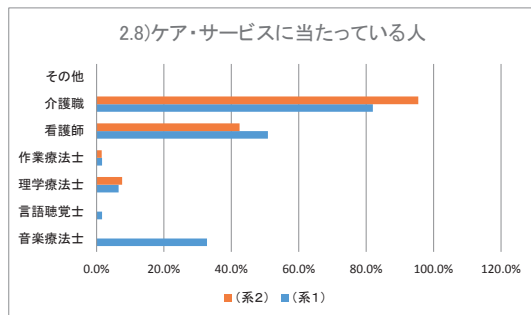
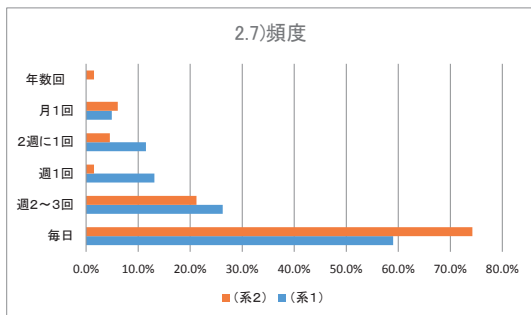
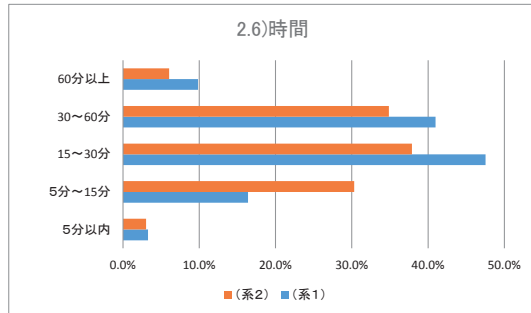
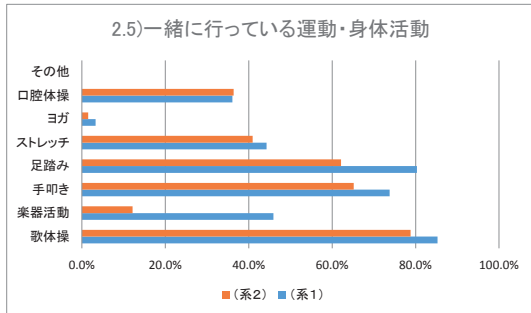
	毎日	週2～3回	週1回	2週に1回	月1回	年数回
(系1)	36	16	8	7	3	0
(系2)	49	14	1	3	4	1
(系1)	59.0%	26.2%	13.1%	11.5%	4.9%	0.0%
(系2)	74.2%	21.2%	1.5%	4.5%	6.1%	1.5%

8) ケア・サービスに当たっている人はどなたですか？

	音楽療法士	言語聴覚士	理学療法士	作業療法士	看護師	介護職	その他
(系1)	20	1	4	1	31	50	0
(系2)	0	0	5	1	28	63	0
(系1)	32.8%	1.6%	6.6%	1.6%	50.8%	82.0%	0.0%
(系2)	0.0%	0.0%	7.6%	1.5%	42.4%	95.5%	0.0%

9) 支援者の雇用形態は？

	常勤	非常勤	外部委託	ボランティア	その他
(系1)	46	45	11	15	0
(系2)	63	60	2	31	0
(系1)	75.4%	73.8%	18.0%	24.6%	0.0%
(系2)	95.5%	90.9%	3.0%	47.0%	0.0%



3. ケア・サービスに音楽を採り入れる目的あるいは効果は何ですか

	1) 身体面の効果	2) 精神面の効果	3) 社会面の効果
(系1)	59	60	55
(系2)	64	66	61

(系1)	96.7%	98.4%	90.2%
(系2)	97.0%	100.0%	92.4%

1) 身体面の効果

	身体機能低下の防止	心肺機能の維持	疼痛緩和	嚥下機能の維持	脳神経系の活性化
(系1)	43	28	2	28	35
(系2)	46	24	4	31	39

(系1)	70.5%	45.9%	3.3%	45.9%	57.4%
(系2)	69.7%	36.4%	6.1%	47.0%	59.1%

2) 精神面の効果

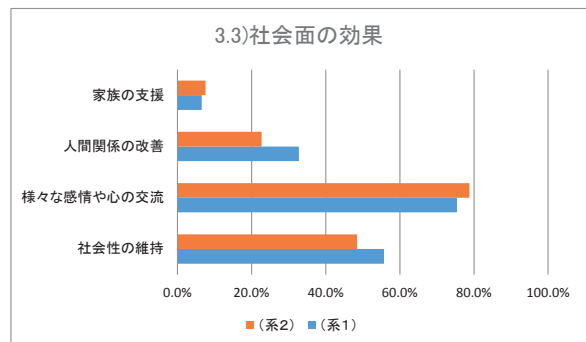
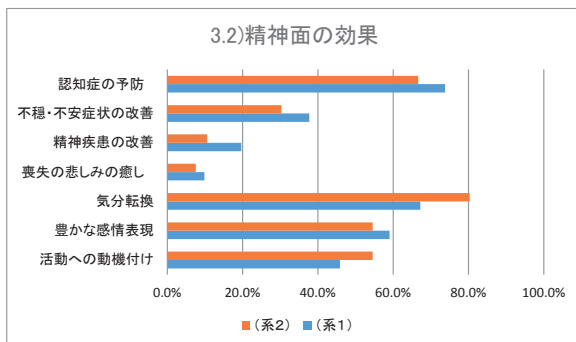
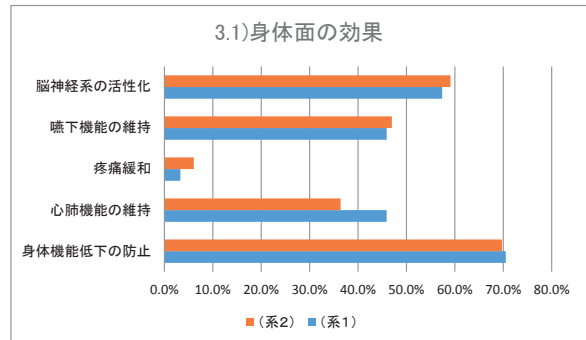
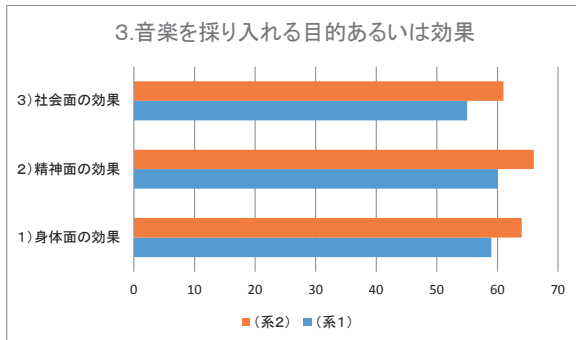
	活動への動機付け	豊かな感情表現	気分転換	喪失の悲しみの癒し	精神疾患の改善	不穏・不安症状の改善	認知症の予防
(系1)	28	36	41	6	12	23	45
(系2)	36	36	53	5	7	20	44

(系1)	45.9%	59.0%	67.2%	9.8%	19.7%	37.7%	73.8%
(系2)	54.5%	54.5%	80.3%	7.6%	10.6%	30.3%	66.7%

3) 社会面の効果

	社会性の維持	様々な感情や心の交流	人間関係の改善	家族の支援
(系1)	34	46	20	4
(系2)	32	52	15	5

(系1)	55.7%	75.4%	32.8%	6.6%
(系2)	48.5%	78.8%	22.7%	7.6%



## アンケート調査票

該当項目を○で囲んで下さい  
複数回答も可能です

### 1. 事業の概要についてお伺いします

#### 1) 事業類型

病院 (①一般、②回復期、③療養、④精神、⑤その他 )  
高齢者施設 (①老人福祉施設、②老人デイサービスセンター、③その他)

#### 2) 全体の利用者数 (入院病床数、定員数など)

1～9人、10～19人、20～29人、30～49人、50～79人、  
80～99人、100～149人、150～199人、200人～

#### 3) 運営主体

公営、独立行政法人、医療法人、社会福祉法人、特定非営利法人、  
営利法人、個人、その他 (具体的に )

### 2. ケア・サービスに音楽をどのように取り入れていますか

#### 1) 対象はどのような方ですか？

患者、要介護、要支援、障害児・者、児童、胎児、一般、特に制限なし

#### 2) 一回の支援で対象とする人数はどのくらいですか？

個別 (1人)、小集団 (2～9人)、中集団 (10～19人)、大集団 (20人以上)

#### 3) 音楽の具体的方法は何ですか？

音楽鑑賞、歌唱、カラオケ、楽器活動、その他 (具体的に )

#### 4) ケア・サービスに使っている音楽の音源は何ですか？

生演奏、CD、カラオケ装置、タブレット端末、その他 (具体的に )

#### 5) 音楽と一緒にしている運動・身体活動は？

歌体操、楽器活動、手叩き、足踏み、ストレッチ、ヨガ、口腔体操、  
その他 (具体的に )

#### 6) 時間はどの位ですか？

5分以内、5分～15分、15～30分、30～60分、60分以上

#### 7) 頻度はどの位ですか？

毎回、週1回、2週に1回、月1回、年数回

8) ケア・サービスに当たっている人はどなたですか？  
音楽療法士、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、看護師、介護職、  
その他（具体的に )

9) 支援者の雇用形態は？  
常勤、非常勤、外部委託、ボランティア、その他（具体的に )

3. ケア・サービスに音楽を採り入れる目的あるいは効果は何ですか

1) 身体面の効果  
身体機能低下の防止、心肺機能の維持、疼痛緩和、嚥下機能の維持  
脳神経系の活性化

2) 精神面の効果  
活動への動機付け、豊かな感情表現、気分転換、喪失の悲しみの癒し  
精神疾患の改善、不穏・不安症状の改善、認知症の予防、

3) 社会面の効果  
社会性の維持、様々な感情や心の交流、人間関係の改善、家族の支援

4. 上記の活動について音楽療法としての位置付けをしていますか

位置付けをしている → 5にお進みください

位置付けをしていない → 6にお進みください

5. 音楽療法として位置付ける際に直面した課題は何ですか

スペースの確保、財源の確保、人材の確保  
利用者の理解、従事者の理解、その他（具体的に )

6. 音楽療法を採り入れていない場合、音楽療法として位置付けていない場合、  
その理由をお伺いします

必要を感じないから、効果が判らないから、保険請求できないから  
具体的方法を知らないから、人材が得られないから  
その他（具体的に )

ご協力ありがとうございました。

## 委員名簿

## 委員名簿

- 川内 基裕 (一社) 日本市民スポーツ連盟会長  
小金井リハビリテーション病院副院長
- 黒澤 加代子 日本ホームヘルパー協会東京都支部 副会長  
清水坂あじさい荘H.S. サービス提供責任者
- 本田 清隆 (一財) 医療経済研究・社会保険福祉協会常務理事
- 丸山 ひろ子 日本音楽療法学会認定音楽療法士  
日本音楽心理学音楽療法懇話会幹事
- 森田 茂生 年友企画(株) 顧問
- 依田 明子 (社福) 一廣会かないばら苑苑長  
元 ADL 対応型高齢者体操研究会会員
- 宇野 裕 (事務局) 介護経営学会理事、(株) ひつじ企画代表取締役

○=座長

# 音楽運動療法の在宅普及方策に関する調査研究

平成31年3月発行

株式会社ひつじ企画

〒165-0024

東京都中野区松が丘2-19-9-306

TEL/FAX 03-3228-9235

本研究事業は、一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会からの  
委託により実施いたしました。